

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
青崎 智行	あおさき ともゆき	白鷗大学経営学部	<p>◆国際交流基金アドバイザー業務委嘱(2016年度)</p> <p>◆小山市・那須塩原市広域連携プロモーション事業戦略策定会議座長(2016年度)</p> <p>◆栃木県とちぎブランド力向上会議専門部会 専門部会長(2016年度～)</p> <p>◆栃木県とちぎブランド力向上会議委員(2017年度～)</p> <p>◆栃木県「いちご王国」ワークショップ ファシリテーター(2017年度)</p>
安形 真	あがた まこと	一般社団法人リズカール	<p>◇ローカルベンチャー誘致・育成事業@愛媛県西条市 13人の起業型地域おこし協力隊を採用し、3年後に売上1億円を目指すローカルベンチャー事業の統括。 会計、税務、労務などのバックオフィスのサポートや、地方で生きるマーケティングや経営戦略の指導、ネットワーク作り支援、コワーキングスペースの整備・運用など起業家が活動しやすい環境を創出。他にも専門家と協働して個別のメンタルカウンセリングや各種セミナーを企画、運用。</p> <p>◇三河の山里なりわい実践者事業@愛知県 毎年約10名の起業家及び新規事業に挑戦する事業者にメンターとして関わる。</p>
秋元 祥治	あきもと しょうじ	岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz/NPO法人G-net	<p>▼OKa-Biz OKa-Bizは岡崎市・岡崎商工会議所が設置した「売上アップに特化」した中小企業支援センターです。富士市産業支援センター・fBizをモデルに全国最年少センター長として、成果続出から相談は1ヶ月半待ちに。開設5年で累計1万件を超える来訪相談、約190件の視察受け入れ、首相官邸での表彰や中企庁長官も来訪。OKa-BizがfBizをモデルとした他地域展開のモデルになったことで、各地で新たな産業支援センターが続々と立ち上がり、現在21か所に上る。既に導入を決め開設準備を進めている自治体も複数あり、今後もfBizをモデルとした産業支援施設の展開は加速されることが予想される。</p> <p>▼G-net NPO法人G-netは、岐阜を拠点に15年前より、中小企業の社長の右腕として熱意ある若者を半年間右腕として送り込む実践型インターンシップや、「みぎうで」就職支援を行う。高校「政治経済」の教科書にも掲載あり。年間で1万人を超える若者に地域の中小企業の魅力を伝え、約100名が半年間等の実践型インターンシップに参画している。「若者が選ぶ魅力的な中小企業100選」といった冊子刊行を含め、中小企業への「みぎうで」候補としての就職支援も展開。</p>
浅尾 均	あさお ひとし	有限会社 浅尾計画事務所	<p>全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対しての解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としています。</p> <p>現在は、「インバウンド」、「新たな広域連携」、「人材育成」、「ニューツーリズム」などをテーマに、各地にて実践的な事業に関わっています。</p>
朝比奈 一郎	あさひな いちろう	青山社中株式会社	<p>上記の通り、現在7つの自治体においてアドバイザーを務めており、自治体における若手リーダーの育成や、産業・観光などに関する政策提言、インバウンド・アウトバウンドを含む自治体外交の推進などを支援。</p> <p>1. 人材育成: リーダー(始動者)の育成…自治体における起業家育成塾、リーダー塾の開催・運営、等</p> <p>例)群馬県沼田市における起業家養成塾「ぬまた起業塾」の創設・運営 - 平成27年に創設され、毎年10名前後を対象に、全13日に渡るプログラム</p> <p>例)奈良県生駒市における行政の選抜職員向け政策立案研修の実施 - 選抜された職員へ政策形成手法などの導入研修を実施、その後各自の政策立案をサポート、報告会を実施</p> <p>2. 地域・自治体: 基礎自治体における経済活性・地方の自立支援…産業活性化や観光業の高付加価値化に向けた 政策提言、駅前・中心市街地開発、住民自走によるまちづくりに向けた参加型ワークショップ、等</p> <p>例)三条市における課題分析から各種施策の提案・実行 - 市の現状を客観的に分析、その結果を踏まえて施策を提言。実現されたものには、燕三条 工場の祭典、障がい者の就労支援施設の開所、滞在型職業 訓練施設「しただ塾」の創設など</p> <p>例)長野県軽井沢町における住民主体のまちづくりのための風土フォーラム・ワークショップの運営・推進 - 軽井沢の特徴・歴史・これまでの経緯を重視し、他に例のない住民主体のワークショップの運営</p> <p>3. グローバル展開: 自治体外交や地域の製品の海外展開などによる日本の発信…アウトバウンド・インバウンド 戦略の策定と実行・コラボレーション(日中リーダー会議)、等</p> <p>例)新潟県三条市における海外販路開拓を目指した各種支援 - ベトナムホーチミンでの市場調査、ホーチミン・成都での販路構築実施、等</p> <p>例)群馬県沼田市における成都市への販路開拓 - 成都における市場調査や有力小売企業・政府有力者との関係構築、販路開拓に向けた計画策定の実施、等</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
朝廣 佳子	あさひろ よしこ	株式会社読売奈良ライフ	奈良の新しい観光資源の創出に邁進し、なら燈花会、平城遷都祭、平城京天平祭などを立ち上げてきた。また、市民が創るまちづくりを主軸とし、ボランティアでイベントを行っている。
東 朋治	あづま ともはる	株式会社商業タウンマネジメント	阪神大震災で壊滅的な被害を被った神戸・新長田地区において、タウンマネージャーとして11年間商店街の復旧復興事業に取り組んできました。再開発エリアの商業ビルの管理運営やテナントリーシング、商店街および商業ビル活性化イベント、地域活性化を牽引するまちづくり会社(株神戸ながたTMO)の運営等を担ってきました。現在は(有)協働研究所に移り、商店街や中心市街地の活性化ビジョン策定、商業者リーダーの育成事業に加え、タウンマネージャーの育成や東日本大震災被災商業地域(岩手県宮古市中心市街地・岩手県釜石市鶴住居地区)の復旧復興事業に取り組んでいます。また、日頃からの備えとしてワークショップ等を通じて地域の安全・安心マップ作成にも各所で取り組んでいます。直近では空き店舗対策や事業承継にも力を注いでいます。
阿部 佳	あべ けい	明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部/明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所/K plus	教育の研究機関で10年、その後27年間、インターナショナルホテルのコンシェルジュとしてホテルのロビーで国内外からのお客様のお手伝いをする仕事をしてきました。現在は、ホスピタリティのプロを増やすべく、その経験から得た情報、スキル、姿勢、考え方を、大学生のみならず、関連業界のこれからを担う人たちに伝えるとともに、より多くの人に日本各地足を運んでもらうべく、地域が特色にあった方法でお客様を迎えられるよう、人材育成を含め、それぞれ受け入れを整える手伝いをしています。ここ数年は、各地域での講演、研修のほか、経済産業省関東経済局「ホテルコンシェルジュによる地域の魅力発見事業」、観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成事業」など、地域の来訪者受け入れ体制づくりの助言、支援をしてきました。一方で、地域活性化を目指す方たちとのネットワーク、および直接現地視察を通して得た生きた情報をコンシェルジュのネットワークに共有し、インバウンドを含む多くの来訪者に向けて広く発信する役割にも力を入れています。
阿部 真一	あべ しんいち	岩村田本町商店街振興組合	空き店舗対策として、様々な事業を実践している。アントレプレナーを育成する「本町手仕事村」コミュニティビジネスのモデルとされる、商店街直営の惣菜店「本町おかず市場」子育て支援事業から生まれた、商店街直営の学習塾「岩村田寺子屋塾」、短時間託児や子育てサロンの拠点「子育てお助け村」さらには商学連携の「高校生チャレンジショップ」地域ブランド創生の「三月九日青春食堂」など、直営12事業を1理事1事業制を敷いて人材育成を展開。大型集積のイオンとは顧客の視点から共存共栄を図ることに転換、電子マネー「佐久っ子ワオンカード」を基軸に連携。全国的にも注目され協力体制をとる。今後はさらに地域コミュニティの担い手としての商店街のあり方を目指して、中小企業庁「ちいさな企業成長本部」などで、今後の「住み良いまちづくりの商店街」のあり方を提言。全国に講演活動の場も広げている。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
安部 敏樹	あべ としき	一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover	<p>■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。</p> <p>■被災地での教育旅行をとした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。</p> <p>■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。</p> <p>(11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備”の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】」という形で記載。</p> <p>■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。</p> <p>■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。</p> <p>■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SICを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。</p> <p>■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。</p> <p>■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施</p> <p>■R-SICにおける「ソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。</p> <p>■述べ20校以上の教育旅行の実施。</p> <p>■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。</p> <p>■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上</p> <p>■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施</p> <p>【リディラバの事業に関連するURL】</p> <p>[Travel The Problem: スタディツアー専門の旅行サービス] https://traveltheproblem.com/</p> <p>[TRAPRO: 社会問題の百科事典] http://www.trapro.jp/</p> <p>[TRAPRO移住口コミ: 地域の気になる口コミが集まるサイト] https://ju.trapro.jp/</p> <p>[「社会起業」の最先端を知る]招待制カンファレンス: R-SIC(アール・シック) http://ridilover.jp/R-SIC/</p> <p>[リディラバ(HP)] http://ridilover.jp/</p>
天野 礼子	あまの れいこ	NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」	<p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推め、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「二地域居住から定住へ」を進めてきている。</p>
雨宮 洋司	あめみや ようじ	みなとガイド塾	<p>①富山新港を中心に付近の歴史あるみなとまちの現状と歴史の絵地図をそこに居住する市民とともに学んで、作成をし、散策、地域おこし、郷土学習等に役立てる取り組みをしている。</p> <p>②「みなとガイド塾」を立ち上げて、それらの絵地図を教材にして学ぶとともに、港背後地の企業・団体の訪問、北前船時代のみなとまちを歩いて歴史の痕跡を探しながら現状を知る、等を通して、この地への訪問者や家族などに説明(ガイド)出来るような学生・市民を育てる活動をしている。これはこれからの日本海側の新しいみなとまちづくりを考える契機にする配慮をしており、NPO法人水辺のまち新湊と組んで実施して継続性を意識している。</p>
荒井 一洋	あらい かずひろ	NPO法人大雪山自然学校	<p>【現場の実践活動】自然体験活動の専門性を他分野に応用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験×観光＝エコツーリズム: 英語で少人数・長期滞在型のエコツアーを実施。旅行者の満足度を高め、地域への経済的効果を高め、ガイドや住人が続けられる観光に取り組んでいる。 ・自然体験×幼児教育＝森のようちえん: 企業主導型保育事業を活用し定員12名の保育園を経営している。体験型幼児教育の手法を実践を通して蓄積している。 ・自然体験×発達障害＝ホースセラピー: ドサンコを活用したセラピー事業に取り組み始めた。現在試行錯誤中。 ・自然体験×環境保全＝利用者による公園管理: 東川町大雪山国立公園保護協会からの委託事業として国立公園管理の一部を実施している。心理学・人間行動学をベースに、利用者が環境保全する仕組みを構築中。 ・人材育成＝日常的にプログラムが実施されている現場に合わせて、インターンシップやボランティア事業を実施しており年間延べ300人程度が参加している。 <p>【持続可能な観光の普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な観光の国際基準GSTC公認トレーナーとして、サステナブルツーリズムの研修や国際認定取得に向けた伴走支援に取り組んでいる。実践で蓄積した知見を全国の方と共有し世界レベルの観光地域づくりに取り組んでいる。今一番必要なのは日本全国で一緒に取り組む仲間。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
新井 信幸	あらい のぶゆき	東北工業大学工学部建築学科 ／特定非営利活動法人つながり デザインセンター・あすと長町	東日本大震災後、仙台市内を中心に各地の仮設住宅、災害公営住宅にて、孤立を防ぐコミュニティづくりと居場所づくりを展開してきました。あすと長町仮設住宅(仙台市)では、仮設住宅でコミュニティ形成、次のステップ(災害公営住宅)に向けたコミュニティ継承の支援を実施し、それらは概ね実現することができました。ステージが災害公営住宅に移行してから、塩竈市内の災害公営住宅などを中心に、居住者(自治)組織形成、集会所の居場所化等の支援を実施してきました。居住者組織形成については、担う役割を住宅管理に絞ったことで、ほぼ全世帯が参加する体制を構築することができました。孤立を防ぐ取り組みについては、集会所を外部に開いて、多様な団体が利用・活動することで、多様なつながりが生まれ、「みんなの居場所」となるよう支援を継続しています。清水沢東住宅(塩竈市)では、約15団体が入れ替わり立ち替りで、毎日のようにイベントが開催され、日中の高齢者や放課後の子どもたちの居場所となっています。また集会所の居場所化には、運営方法にも工夫が必要で、旧来からの自治会費で水光熱費を賄う方式だと利用頻度が高まることで自治会運営が逼迫していきます。そのため、利用する団体が支払う形の利用料金制を導入しました。それによって、利用が促進され、今年に入ってから新たに2団体(書道教室、俳句の会)が定期利用を始めています。
有城 辰徳	ありしろ たつのり	一般社団法人 ダモンデ	年間を通じスポーツを通じた誘客、交流イベントを開催し、地域内のボランティアや支援組織をとりまとめるながら、活力のある地域作り、人材育成をおこなう。また新城市が地域活性の大きなテーマとして位置づける「スポーツツーリズム」を協働で推進する。また観光振興や地域作りにも積極的に参画し、(一社)奥三河観光協議会との連携や、鳳来東部での地域計画作りでも協働している。
安藤 周治	あんどう しゅうじ	特定非営利活動法人ひろしま NPOセンター/特定非営利活動 法人ひろしまね	過疎問題を解決したいと思いを起こしてから以後地域づくりに関わる。 過疎地域、中山間地域を巡検するのが日常の活動である。 20年前から「集落の力」が急になくなりはじめたことに危機感を覚え、集落支援のための「もう一つの役場(集落支援センター)」の提案をはじめた。そして実証実験を進め、その可能性と必要性を実証することができた。 高齢者福祉、教育や子育て、買い物、移動手段、小銭を地域で回す産業、新しい旅の企画などを今も継続しながら社会実験を進めている。 NPO法人などによる地域課題解決のための支援活動や、行政や企業などと協働によるまちづくりの支援を、ひろしまセンターにおいても進めている。
飯倉 清太	いいくら きよた	特定非営利活動法人 サプライズ	PDCAではなく「D」から始めるフィールドワーク「DPDCA」 「若者を行う地域活性」を軸に展開している。 現在の地方問題には「高齢化」「少子化」「人口流出」など様々な問題が複合的に絡んでいます。これを是正するには短期的な目標と中長期の目標設定が必要となります。そこで私たちNPOサプライズでは静岡県東部伊豆を中心に高校生や大学生と取り組む地域活性を実施しています。大きな目標を掲げることも大事ですが実際はスモールスタートがとても重要となります。様々なディスカッションやセミナーを開催しつつ、最短の地域活性と行動力を育成するために「清掃活動」を中心とした活動にてリーダー育成を実施。また現場だからこそ得ることの出来る「連絡調整能力」「遂行能力」「討論能力」「コミュニケーション能力」などを学んでいます。これを基にして地域の素材を再確認し、編集そしてレビューを付けて再発信を行う事を実施しています。
飯田 一民	いいた かずたみ	有限会社 食創造さんだかん	<アドバイザー/伝承名人としての派遣履歴他> 北檜山町・松前町・和寒町・下川町・長沼町・日高町・占冠町・小清水町・北海道商工会連合会講師・網走市・道南3町(松前・上ノ国・江差)広域連合・留萌支庁・空知支庁事業評価委員・全道市長会基調講演など <アドバイザー/伝承名人としての実施取組み> 下川エミュー肉燻製開発・松前町「あわびごはん」開発・瀬棚町海産加工品開発・その他商品名・デザイン等の創出・百貨店北海道物産展企画協力(三越・大丸・西武・丸井等) 「農家の友」「しゃりばり」等に執筆「生産現場からの新しいビジネスチャンス」など道内各地域の道の駅再生活性化事業・地元ブランドの推進を手掛け「食」からの地域活性化を勧めている。 ※ 道の駅「ライスランドふかがわ」設置企画協力 ※ 道の駅「北前船松前」総合プロデュース 他 ※ 生産現場と都市部との協働事業として「北海道応援宣言プロジェクト!!」札幌の飲食店で毎月道内各地域の食事を開催(総合企画監修) ※ 百貨店と協力して北海道地域・生産者の食材・加工品のトライアル販売を実施 <(有)食創造さんだかん概要> 1983年珈琲専門店サンダカンとして開店 1988年レストランサンダカンとして現地に新規移設開店 1993年全国北海道物産展へ参画、(株)三越・(株)大丸他 1999年食創造さんだかん工房として食肉加工工房を併設する 2003年深川市の委託を受け、「道の駅」内でレストラン運営 2014年深川市ものづくり事業で「牛こら」「旨とん」の商標特許取得

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
石上 僚	いしがみ りょう	株式会社みらいもりやま21	2009年株式会社みらいもりやま21に公募で入社。 翌年、「100円商店街・バル・まちゼミ・GTR(のちのまちコン)」を開催。 2012年からは中活の中核となる公共施設「あまが池プラザ」「うの家」の管理を開始、民間の発想で、目標を大きく上回る稼働率、来館者数を維持。 2014年、駅前再開発ビル「セルバ守山」地下550坪の空き区画へ「シダックス」の誘致に成功。 2017年、全国初、自治会運営の商業施設「火まつり交流館」の立ち上げ運営に関わる。 同年、セルバ守山管理運営事務局業務、受託。 現在、サブリース店舗11軒の運営管理やイベント事務局などを行っている。
石崎 英治	いしがき ひではる	株式会社クイージ / NPO法人 伝統肉協会	北海道新冠町、新得町及び鳥根県美郷町において、エゾシカやイノシシ等の野生鳥獣における生産工程のマネジメントに携わる。 株式会社クイージが流通卸を担うことで、生産地と消費地を多面的に結び、より効果的な経営戦略の立案を行う。 また、農村地域における体験ツアー等の観光・交流の取組に携わる。 レストラン経営、イベントへの臨時出店、テレビ・ラジオ・新聞をはじめ各メディアへの出演、料理教室の実施等を通じて「野生鳥獣を食べる文化」の普及・啓発活動を精力的に展開。
石山 純恵	いしやま すみえ	(株) クリフ	地方銀行や総合病院での管理職研修などを行っています。講義をして「良かった」だけの研修ではなく見える研修、数値化する研修を企画実施しています。福島県を取り巻く状況で国際機関との会議の議事録作成や翻訳等を行っています。自らの起業で女性の雇用を創出し女性の生きがい作りに寄与してと思っています。今後も女性の活躍、女性の創業を支援していきたいと思っています。平成26年5月に、ノルウエー大使館、仙台市、仙台男女共同参画センター主催の東北の復興を担う女性リーダーノルウエー視察研修に福島県代表として参加しました。
伊勢田 博志	いせだ ひろし	NPO法人ツーリズム研究機構 / (有)サポート・エムツウ	農林水産省支援事業 ・道の駅、日帰り温泉、国民宿舎等交流ターミナルの企画・開業プロデュース 多数 ・特産品開発及び販路支援事業など多数 ・奈良県国際芸術村にぎわいづくりプロジェクト支援業務 ・北広島町農泊事業プロデューサー 経済産業省支援事業 ・東アジアより水俣への環境教育旅行の誘致事業プロデューサー ・地域資源を活用した商品開発及びマーケティング戦略の策定(多地域) ・クールジャパン関連事業のプロデュース(橋街道プロジェクト) ・(社)離島百貨店商品開発・販路開発専門家(地域中核企業ローカルイノベーション支援事業) 内閣官房 ・地方の元気再生事業:4地域(北広島町、養父市、嵐山、兵庫県福崎町)プロデューサー ・内閣官房地域活性化モデルケース「橋街道」コーディネーター 企業など ・シティホテル連盟インバウンド誘致海外セールスコーディネート(欧州・アジア) ・大手ハムメーカーマーケティング研修(商品開発など) ・シティホテルなどのマーケティング研修(企画塾・プライダルフェアプロデュース等) ・鉄道系会社の新規事業創出・企画アドバイザー業務 など
伊津田 崇	いづた たかし	株式会社アイレック	<まちづくり、タウンマネジメント> 中心市街地活性化協議会や行政等、関係者へのヒアリングを通して抱えている課題を把握し、支援テーマに基づいて協議会設立支援や協議会・まちづくり会社の運営・管理体制強化、事業推進のための勉強会・シンポジウム等の企画・運営・コーディネートを行い、協議会構成員や地域住民等の合意形成や個別事業の具体化等を図る。【長浜市、奈良市、田辺市等を支援】 <商店街活性化ビジョン策定支援> 商店街の強み・特徴や地域資源を生かし、3~5年後の将来像を見据えて活性化ビジョンを掲げ、具体的取組事業を構築するにあたり支援・指導を行う。【大津市、大村市、中津川市、瑞浪市等】 <地域ブランド創出支援> 地域資源の発見・発掘を行い、地域活性化への起爆剤となるように育成していくとともに、これらの資源を活かしてまちづくりにつなげていく。【豊岡市、出石そば、湖東地域等を支援】 【豊岡市、出石そば、湖東地域等を支援】 <一店逸品運動等個店活性化支援> 一店逸品運動の推進による個店の品揃えや陳列等の指導を通して、個店を活性化させることにより、SC・商店街全体の魅力アップを図る。【大和高田市、大和郡山市、尼崎市、神戸市・新長田地区、豊田市、大村市、松江市等】

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
井手 修身	いで おさむ	アイデアパートナーズ(株)	<p>※地域の資源(人・モノなど)を編集及び加工し、マーケティング(=売れる仕組み作り)や組織の立上げ、活性化の具体的手法を現場に入って推進します。</p> <p>◆地域資源活用型のビジネス支援と地域活性化 具体的には、観光・集客・物販領域のバリューアップとして3つ展開。 ①まち中回遊、まち歩き等観光交流事業支援、 ②特産品開発、メニュー開発、農家レストラン立上げ支援、 ③観光・集客施設の診断・再生、売上向上支援 ④観光地域づくりプラットフォーム推進機構『常務理事』日本版DMOの組織づくりを支援。</p>
伊藤 数子	いとう かずこ	特定非営利活動法人STAND/ 広島大学	<p>1991年金沢市にて企画会社パステルラボ設立。代表取締役。車いす陸上競技の観戦が契機となり、2003年から電動車椅子サッカーなど競技大会のインターネットライブ中継を開始。誰もが明るく豊かに暮らす社会を実現する「ユニバーサルコミュニケーション活動」のため2005年NPO法人STANDを設立、パラスポーツ事業を本格始動させる。ウェブサイト「挑戦者たち」の編集長としてパラスポーツを通じて共生社会を目指す。また、スポーツイベントや体験会も開催。2014年にはボランティアアカデミーを開講。2016年には新設されたスポーツ庁の第1期スポーツ審議会委員を務めた。東京オリンピック・パラリンピック組織委員会顧問、総務省情報通信審議会専門委員、日本パラリンピアンズ協会アドバイザーなども務める。</p>
伊東 将志	いとう まさし	夢古道おわせ	<p>官民一体となった観光交流事業「夢古道おわせ」の管理運営。 ①地元集落のお母ちゃんをグループ化し、各地にチームを形成。 集落の食文化の伝承をテーマにランチバイキングによる交流人口増加を図る。 ②間伐材活用によるイベント「全国一斉100のありがとう風呂」を主催。 全国47都道府県400カ所以上の温浴施設で導入実績あり。 地域資源であり、後継者不足等で課題にもなっている一次産業の問題に独自の手法でアプローチし、全国各地より同時多発的にメディア掲載することを得意としております。</p> <p>また、都市部の若者×地域の漁村・農村集落をテーマに人材のマッチングも行う。全国の自治体や商工会・商工会議所において官民一体のまちづくりや地域資源活用による取組みへの支援も行っています。</p>
井上 将太	いもうえ しょうた	井上地域づくり事務所/井上建築	<p>1988年2月3日生まれ。高知県安芸市出身。 高知大学森林科学科にて森林政策学を専攻。在学中に学生団体FANを立ち上げ、建築学科の学生向けに林業から木造建築までを学ぶセミナー「森の未来に出会う旅」の運営に携わる。現在までに100名以上の学生が木造建築を学ぶ。</p> <p>高知大学大学院に進学後は高知県嶺北地域にて地域創生を目的とした木工会社である「ばうむ合同会社」にて3年間勤務し、木工製品の商品開発や営業活動に携わる。2010年には全国最年少にて内閣府地域活性化伝道師に認定。2012年には井上地域づくり事務所を創業し、六次産業化プランナーや高知県四万十市にて地域づくりなどにも携わる。</p> <p>2014年より高知県を出て木材商社にて5年間勤務。愛知県の木材市場での営業や関東にて駅舎や保育園などの地域材調達の業務に関わる。2018年6月より高知県にUターンし、家業である井上建築に入社。「木のこころを、人のくらしに」をテーマにして、森の魅力や木造建築の魅力を発信中。</p>
井上 拓磨	いもうえ たくま	株式会社はたらクリエイト	<p>経済的価値と社会的価値を両立する仕組みを構築しています。そのため公費ゼロで自立する仕組みづくりが得意です。現在は、人材不足に陥りやすい関東圏の企業に向けてリモートでサポートするリモートチームサービス「hatakuri(ハタクリ)」を核に、子育て中の女性の社会復帰支援の仕組みを作ってきました。3年間で自立し公費ゼロで100名を支援する取り組みとなりました。そのほかにも、コワーキングスペースで培ったマルチステークホルダーで課題を解決する取り組みを多く行っています。</p> <p><主な取り組み事例> ・空き店舗活用したコワーキングスペースを3カ所開設 ・上田市・商工会議所・産学官コーディネーター組織と連携した創業支援 ・インターンを活用した学生の社会との接点作り ・子育て中の女性の社会復帰支援 ・移住定住に関する取り組み</p>
井上 俊彦	いもうえ としひこ	合同会社ブランドスケープ	<p>※農林水産食料品の輸出・海外販路開拓支援 輸出実務、商流構築、輸出戦略、海外マーケティング、現地イベントの開催等</p> <p>※農林水産食料品のブランディング ブランド戦略、マーケティング戦略、現地プロモーション(SNS・メディア活用)、ロゴやパッケージデザイン、新商品開発等</p> <p>※地域のインバウンド観光促進 国別のインバウンド戦略、現地プロモーション(SNS・メディア・現地イベント)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
井上 弘司	いのうえ ひろし	CRC地域再生診療所	<p>○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導</p> <p>1. 地域診断の実施(地域課題の整理分析)および課題に基づいた人材育成</p> <p>2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援 ・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導 ・地域再生の手法や地域づくり・人づくり ・地域資源開発(6次産業化支援) <p>食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導 有害鳥獣対策と活用</p> <p>3. 地域人材育成プロデュース</p>
伊原 和彦	いはら かずひこ	ETC 教育旅行コンサルタント	<p>◆観光・交流(教育旅行や着地型観光誘致) 観光協会・商工会・受入協議会等の教育旅行誘致アドバイザー 体験プログラムの開発・インストラクター育成 第一次産業を活用した民泊等受入組織の人材育成・マーケティング支援指導 観光振興・観光まちづくり・地域活性化をテーマとした講演・セミナーの講師 着地型観光の講師や商品造成・人材育成・支援指導</p> <p>◆地域産業・イノベーション・農商工連携 地域活性化支援アドバイザー 地域特産品の開発・食の開発やマーケティング支援指導</p>
井原 満明	いはら みつあき	地域計画研究所(藤沢事務所)	<p>①農村集落の再生:ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開(岩手県内、他県)、農家民宿の支援(山形県)。②高齢社会の地域づくり:高齢者の特技・手仕事を活かしたマスター制度の設立(宮崎県)、高齢者が中心となってワークショップを開催し、生きがいづくりと集落の再生に取組む。(山形県)。③ローカル線と地域再生:三セク鉄道と沿線集落の再生を目指し各駅を拠点とした駅市や駅カフェの開催、駅間と集落を結ぶフットパスづくり(秋田県)。④中心市街地活性化:中心商店街と周辺地域の農村部との連携を図り住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を提案しその設立に関わる(岩手県)。⑤農村文明塾:農村における新たな価値の創造の取組みとして農村文明塾の運営に参加し域学連携などを実施、雪を生かした雪中酒の商品開発を行う(長野県)。⑥福祉版コンパクトシティ:高齢者の暮らしと生業の創造について講演し、その後、高齢者たちが耕作放棄地を活用しさつま芋を栽培し「焼酎」を試作しブランド化を図る(新潟県)</p>
今村 展大	いまむら のぶひろ	I・Sコーポレーション	<p>沖縄県において地域産品の企画開発(沖縄県最優秀県知事賞受賞)、Eコマース、WEBマーケティング会社設立を経て、2005年沖縄県産業振興公社専門アドバイザー、沖縄県商工会連合会エキスパートに就任。その後、地域特化型グルメサービス「ちゅらグルメ」を創設。県民限定のお得なサービス「ちゅらとく」創設など観光媒体業において数々のサービスの立ち上げを行う。2011年からは更なる地域発展を描くビジネスを追求すべく、行政との連携を深め、2013年には日本初の取り組みである映画をツールとした地域活性化を沖縄県名護市名護大通にて実施。映画「がじまる食堂の恋」を製作、全国公開並びに全国の鳥屋にてレンタル・セル展開。その後は、マイナビとのジョイントベンチャーによる台湾香港向け観光媒体「珍遊沖縄」を創刊。2014年には株式会社全国商店街支援センター「商店街よろず相談アドバイザー」、経済産業省キーパーソンに就任する。2016年には、これまで培ってきたブランディングノウハウを体系化し、地域メディア及びブランド構築に主力をおいて活動。2017年から効果的なブランディング戦略の一環としてyoutubeでの動画メディア構築を実践。業界内における世界一の情報発信チャンネルの構築を行った。その他、水産業の6次化ブランド構築など主にメディアを中心においたブランディング戦略を行っている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
今村 まゆみ	いまむら まゆみ	観光まちづくりカウンセラー	<p>◆観光を切り口にした地域資源の発掘・地域ブランド化・プロモーション支援◆ 国内旅行雑誌「じゃらん」の編集経験をいかし、その土地ならではの魅力ある資源を発掘し、観光素材へと仕上げ、メディアなどに戦略的にPRすることを得意とする。消費者やメディア、トレンドを意識した「コンセプト」「ターゲット」「話題になる観光開発」にポイントを置き、地域ブランドの構築から、体験メニューの造成、PRにかかわるアドバイスや組織づくりに取組んでいる。</p> <p>【取組事例】 ・愛知県渥美市商工会「渥美会づくし事業」 年間を通じて様々な種類の貝が獲れることを資源とし、飲食店と宿泊施設が「貝づくしの店」として連携。昔はハレの日に家庭で作られていた「あさりの押し寿司」を復活させ、商品開発に取組み、イベントで販売。現在は9店舗で販売するに至る。 ・東京都青梅市御岳山「お犬様連れ歓迎プロジェクト」 標高929mの御岳山は東京のオアシス。山頂にある武蔵御嶽神社は昔から「お犬様」が祭られ、境内を犬同伴で訪れることができる。この特徴を活かし、都内近郊に住む30～40代のペット連れをターゲットにペットのお祝い、ペット用の守りなどを制作し、ケーブルカー内にもペット連れゾーンを用意。それらがSNSで「ペットの聖地」と話題になり、認知度向上、集客アップにつながった。</p> <p>◆人材育成◆ 地域貢献度の高いキーパーソンの講演や個人ワーク、グループディスカッションを通し、受講者自身の「問題意識」や「自分らしさ」への内省を促し、地域貢献度の高い人材を目指すことを目的とした研修を企画・実施している。 【取組事例】「地域キーパーソン養成研修」「信頼関係の醸成に役立つ 傾聴力向上セミナー」(経済産業省、北海道・近畿・中部・中国・四国・九州経済産業局にて実施。対象は経済産業省一般職および管内の行政職員)など。 ※その他、住民向けの「観光ボランティア養成講座」なども企画・実施している。</p>
岩崎 徹	いわさき とおる	株式会社アイダ(アイダ・アライアンス)	<p>①地域ビジネス) □事業化支援:自ら地域での事業経験から、事業計画の策定、資金調達、マーケティング、PRなどを具体的にサポートし、資本参加して事業提携も行います。</p> <p>②地域コミュニティづくりの□実践支援:地域活性化のきっかけとなるコミュニティ形成を、場やきっかけを地域住民とともにつくります。</p> <p>③地域人材の発掘と育成:地域を担う人材塾の総合ビジネスとワークショップの□□□□コーナ ネットなどを□□行います。(例:こしが□都市創造未来塾、行田みらい塾など)</p> <p>④地域情報の発信:地域資源を発掘し、各種メディアで□□発信します。</p> <p>⑤マーケティング□PR支援:地域ビジネスのマーケティングや□□PR業務をサポートします。</p> <p>⑥地域事業に関するイベント等の講演、ファシリテーション等。</p>
岩崎 亘	いわさき わたる	株式会社ベジクル/株式会社イージェイ/株式会社奥駿河家守舎	<p>リクルート在籍時、クライアントである東証一部上場プライダル企業と、伝道師の地元であるみかん農家(実家含む)を繋ぎ、CSR×教育研修として、人手不足の農家の農作業の手伝いや、廃棄していた摘果みかんを使用した酢を開発し特産品として販売するというプロジェクトの推進を支援。</p> <p>フォーバルでは、神奈川県伊勢原市にある「石田牧場」の6次化事業であるジェラート屋の立ち上げ～軌道に乗せる ところまでのコンサルティングを行い、人気店に育て上げた。</p> <p>農業法人である和郷では、都市と農村を繋ぐ「農園リゾート」という新しいコンセプトを打ち出した滞在型施設「THE FARM」や「THE FARM CAFE」等を立ち上げた。</p> <p>起業したイージェイでは、廃棄するか二束三文で売られてしまう規格外農産物や未利用農産物を活用し、コールドプレスジュースという付加価値の高い商品を製造・販売している。熊本県合志市の農産物だけで作ったジュースを開発し、東京にある自社店舗でPRしながら販売することで、地域や地域の特産品の認知度向上に貢献するなど、トレンドに上手に乗せた地域活性化を行った。現在は和歌山県の有田みかんの販路開拓支援等、コンサルティングを行っている。</p> <p>奥駿河家守舎では古民家をリノベーションしたゲストハウスの運営、アグリホールディングスでは地域のこだわり食品の輸出支援に通り組む。</p>
内田 勝規	うちだ かつのり	(株)オフィス内田	<p>≪講演記録≫ 北海道経済同友会、中小企業家同友会、経営合理化協会、北海道庁、鹿児島県、各地商工会、帯広信金、北海道銀行、福岡銀行、楽天、目白大学など</p> <p>≪講演テーマ≫ 地域ブランドについて、売れる物作りについて、食の可能性と課題、首都圏の顧客ニーズについて、北海道物産展に見る地域ブランド</p> <p>≪マスコミ紹介記事≫ <テレビ> 日本テレビ『リアルタイム』『秒ヨミ』『ズームインスーパー』『ズームサタ』『スッキリ』 テレビ東京『ルビコンの決断』『日曜ビッグバラエティ』『グルメ魂』『戦士の逸品』『ワールドビジネスサテライト』 NHK『クエスタ』 BSフジ『プライムニュース』、NHK、テレビ朝日、TBS各番組 北海道各局『HBC』『STB』『HTB』『UHB』『TVH』</p> <p><新聞> 日本経済新聞、朝日新聞、日経MJ、北海道新聞、十勝毎日新聞</p> <p><書籍> フォーブス、週刊ダイヤモンド、日経トレンディ、到知、戦略経営者、ストアーズレポート、クオリティ 新潮社『旅』(連載中)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
内田 友紀	うちだ ゆき	株式会社リ・パブリック	<p>■“中規模都市・福井市(人口約27万人)にて、地域をこえた人の流れと仕事をつくる”をテーマに「未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト make.f」プロジェクトリーダー。産官学の連携プロジェクト(2016-)。</p> <p>・福井・関東・関西の人々をつなぎ、世代ごとの人の流れや新たな時代の働きかたをつくる取り組みを実施。また、ウェブ・タブloid・映像、SNSなど複数メディアによる、参加型のプロジェクトアーカイブと発信を実施。</p> <p>□小さなデザインの教室・XSCHOOL プログラムディレクター プロジェクト・事業を立ち上げながら、学びと実践を繰り返すデザインの教室を企画・運営。次代のデザイナーを育て、地域の産業をアップデートすることを目指す。(make.fの一環)</p> <p>□2018年、プログラムを再編し、XSTUDIOを立ち上げる。繊維産業をフィールドに、地場産業と異分野の人材をつなげながら、地域単位でのオープンイノベーションの取り組みを実施中。 http://makef.jp/</p> <p>■福岡県福岡市(人口約150万人)にて、産官学の連携のもと、社会課題を源泉にビジネスを生むインキュベーションプログラムの立ち上げ、企画運営を担う(2013-2016)。参加者は、福岡市民と、東京・九州を中心にした大手企業の研究開発部門。デンマークデザインセンター、アムステルダムメディアラボなどとも連携。</p> <p>■成熟企業にて連続的イノベーションを起こす人材・シリアルイノベーター研究会を、国内の複数企業の研究開発部門とともに実施(2013-2015)。アメリカ・イリノイ大学工学部教授らによる研究と連携。株式会社リ・パブリックのメンバーによる監訳本「シリアル・イノベーター - 非シリコンバレー型 イノベーションの流儀」がベースとなる。本研究により見出された イノベーターが育つ環境・関係性などの要素を、地域にも応用し、プロジェクト設計に取り組む。</p> <p>■“街の人”を主役にした新しいガイドブック、COMMUNITY TRAVEL GUIDE「福井人」の企画・出版にプロジェクト発起人の一人として関わる(2013)。掲載する人の選定・取材・執筆・資金集めまで、徹底して参加型を実現し、オンラインを含めて数千人が関わった。</p> <p>■ブラジル州政府の都市開発局にインターンシップ参加(2012)。国連サステナブル・シティ・アライアンスの州適用に向けた事例研究、導入メソッド開発、接続プログラムの検討等を行った。</p>
内海 芳宏	うつみ よしひろ	日本真珠輸出組合	<p>神戸旧居留地における芸術文化の発表(音楽、美術等)による集客 (特にインバウンド来日客にむけた地域特性を活かしたもの) での成功や、神戸マラソン等の地域特性を活かしたアドバイス など、日本産海水産真珠や、食品の海外現地におけるブランディング での成功からの経験・手法を講演、教育現場等でお伝えしております。</p>
江口 健介	えぐち けんすけ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境分野の中間支援組織である地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営業務を中心に、環境NPOの基盤強化、企業のCSR、環境パートナーシップ形成等への支援を行う。</p> <p>主として環境省事業である「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」の事務局業務を担当し、環境NPOと自治体、また必要に応じて企業や研究機関、学校、第1次産業などあらゆるステークホルダーとの協働体制構築の支援を全国各地で行ってきた。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
榎田 竜路	えのきだ りゅうじ	合同会社アースボイスプロジェクト	<p>◇人材育成◇ 全国各地(東京都墨田区、同八王子市、多摩地域、秋田県、島根県、愛媛県松山市、茨城県行方市、鹿児島県阿久根市、同薩摩川内市、佐賀県基山町、奈良県吉野町、同川上村、中小機構、九州経済産業局、大阪市、兵庫県市川町、他)で認知開発力®育成講座を開き、現在までに1200名余の人材を育て上げている。近年は高校生の育成にも注力しており、徳島県立徳島商業高校や鹿児島県立鶴翔高校、鹿児島県立川内商工高校、沖縄県立沖縄水産高校、島根県立東部高等技術校、岡山県立津山東高校、奈良県立吉野高校など全国の高校生を指導している。数年にわたり指導した地域では、高校生達の地元企業への関心が高まり、地元での就職率が上がるなどの効果が出ている。</p> <p>地域活性化において高校生の存在は欠かせないものであるという考えから、現在所属しているオリンピック・パラリンピック組織委員会「経済・テクノロジー」専門委員会では、地域活性化の手段として高校生の認知開発力向上を提案している。</p> <p>また、同委員として、ホストタウン事業にも関わり、2017年度～18年度にはホストタウンの課題である、市民のホストタウン事業への認知度の向上を目指し、中学生を地域とオリンピック選手とのコネクター(つなぎ役)の役割を担ってもらうために認知開発®力育成の実績と技法を活用し、ポスター制作ワークショップを提案、岩手県野田村(野田中学校)、岩手県雫石町(18年度、中学生、高校生)、静岡県静岡市(安倍川中学校)、福島県飯館村(飯館中学校)を指導し、ポスター制作を実施した。</p> <p>◇コンテンツ制作◇ 地域情報のグローバルな展開を支えるメディア手法「序破急モデル®」や、地域や企業の情報を資産化することの出来る人材育成手法「認知開発手法®」を生み出し、企業の連携促進やITを活用した情報発信システム構築と組み合わせ、「情報運用手法」として全国に展開している。</p> <p>企業や地域に「物語」を見出し、それをコンテンツ化し、グローバルに展開させていく手法を用いて、制作・監修。これまで手がけた中小企業や地域の映像は現在までに2000本を越えている。</p> <p>◇総合情報戦略◇ 震災に生かされた情報運用 ・東日本大震災(2011年～) 2011年3月11日の東日本大震災を受け、マスメディアでは取り上げられない、被災地の情報を運用し、BSTウエルビの番組「未来への教科書」として配信。被災地の児童生徒を対象とした、出前授業を実施(5年間で28校)するなど、被災地の中長期的な支援を行ってきた。そのアーカイブは5年間で117本、取材時間は10000時間以上に及ぶ。</p> <p>その他、インバウンドについては、熊本地震や北海道地震後のインバウンド復興を目的とし、ミスインターナショナルや、中国のSNSでの人気番組などのインフルエンサーを招聘し、旅動画を制作配信、復興に貢献した。特に中国富裕層向けの施策について卓越した実績を有する。</p>
小穴 久仁	おあな ひさひと	株式会社エーアイシステムサービス/NPO法人ドゥチュウブ	<p>防災コンテスト(e防災マップ部門、ラジオドラマ部門)参加者支援(2010～2015年度) 豊田市防災マップ作成事業支援(2012～2014年度) みずから守るプログラム支援団体登録(2013年～) 「地域防災力アップ・防災マップ作成」愛知学院大学非常勤講師(2016年度) 「まち歩き+マップ作成+発表会」岐阜聖徳学園大学非常勤講師(2016年度～) 豊田市地域防災カルテ作成事業支援(2016年度) 「地域防災計画学」いわき短期大学非常勤講師(2017年度～) 星崎学区地区防災計画作成アドバイザー派遣(2017年度) 防災士養成講座講師(2019年度～)</p>
大岡 千紘	おおおか ちひろ	東栄町観光まちづくり協会	<p>人と人をつなぐ橋渡しを担う。 特にビューティーツーリズム「naori」事業では、地元企業と連携し、美をテーマにしたツーリズムを立上げ、地域資源の新たな可能性を開拓。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性観光客の誘致。地域に新たな観光モデルを生み出す。 ・全国的なPR。美の地産地消という新たな地域資源活用の取り組み。 ・手作りコスメティックインストラクターとして、地域資源を用いたコスメの体験指導。 <p>など、美をテーマに観光・交流の開拓が期待できる。またその企画を実行に至るまでの地域との関係づくりにおいて、その実績・ノウハウを他地域へ拡大することが期待される。地域のアイデアを行政と連携しながら、外部視点を交えて実現に向けて一緒に取り組む。</p> <p>また、観光協会を立ち上げたノウハウを活かし、新たな組織の立ち上げへの協力に取り組む。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
大下 茂	おおしも しげる	帝京大学経済学部観光経営学科/櫛KITABA	『集客』を研究テーマとして、観光計画、地域活性化計画、中心市街地活性化計画など、地域づくり、まちづくりの分野において、『論と行動』をテーマに実践的な取組み展開を図っている。地域に軸足を置いて、地域の方々と一緒に「地域を元気にするための方法」を実践する地域密着型の活動形態のため、活動エリアは首都圏近郊に限られている。 主な実績は、東京都品川区観光アクションプラン、大田区観光振興プランに関わるとともに、両区の広域観光まちづくり事業スーパーバイザーを平成20～22年度より努める(現在はアドバイザー)。また、平成24年度より両国地区観光まちづくりランドデザイン等の委員長を努める他、東京都観光部や特別区協議会の講座・シンポジウム等に関わっている。千葉県内では、佐原、木更津、いすみ、久留里、市川中山、御宿、浦安、四街道、習志野、勝浦、長生村、九十九里、多古町等、群馬県では、みどり市大間々、甘楽町、伊勢崎市境島村、下仁田町、みなかみ町、渋川市伊香保温泉の観光まちづくりに関わっている。
大谷 鮎子	おおたに あゆこ	NPO法人 九州キラキラみなとネットワーク	・地球環境とエネルギー問題 ・みなとまちづくりと女性の参画
大谷 聡	おおたに さとし	株式会社JTB 法人事業本部 事業推進部	JTBグループは『地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献する。』を経営理念として、日本全国各地に正対し、様々な人流、物流、商流を生み出し、交流を創造することによって社会課題解決と地方創生に貢献する地域交流事業に取り組んでいます。 現在、中央府省庁や観光関連団体と連携し、国策と連動し観光を基軸とした地域活性化に向け、各種会議へ参画により政策提言や、中央と地域との情報連携、各種事業の推進をしております。 また、特に裾野の広いといわれる観光産業における、多分野連携や政府の観光ビジョンに掲載されている国立公園の利活用、農泊の推進、食と観光の連携、ICTの利活用等、幅広い分野において全国各地に情報発信やアドバイス等を行っております。
大宮 透	おおみや とおる	一般社団法人小布施まちイノベーションHUB/小布施町	小布施町では、自治体行政や地域の中で課題となっているものを発掘し、課題解決に向けた施策立案や計画策定に関わるとともに、課題解決のプロセスに多様な主体が関わり協働的な取り組みが生まれるように、行政と地域住民、地域外の住民(特に若者)や企業、大学などの様々なアクターを繋ぐ場をデザインしています。場のデザインの具体例としては、2012年から開催している「小布施若者会議」や、長野県事業として実施した「信州つなぐラボ」の取り組みなどがあります。 また、住民や町外の専門家等を巻き込んだ政策形成の実践事例も多く、行政の政策形成に多様な人材を巻き込む手法やプロセスづくりに取り組んでいます。
大宮 登	おおみや のぼる	高崎経済大学 地域政策学部	組織における実務的な能力開発や自己啓発、地域に根ざした住民の組織づくり等について、地域づくりと住民組織の関わりからフィールドワーク中心に研究。特に、NPO法人DNAの代表顧問、さくらプロジェクトの会会長、食品リサイクルるーぶ事業会長等の活動も推進している。
大和 和道	おおわ かずみち	向島橋銀座商店街協同組合	向島橋銀座商店街協同組合(下町人情キラキラ橋商店街)にて、1970年代に青年部の立ち上げ以降、商店街の現場にて共同事業や地域活性化事業に携わってきた。商店街を地域人材の交流のプラットフォームと位置づけて、行政、地域団体、学校、地域金融機関等との連携事業を通じて地域活性化に取り組んできた。また、全国商店街振興組合連合会、東京都商店街振興組合連合会等の役員をとして、全国の商店街の現場をみて地域活性化に取り組んでいる。
岡崎 英人	おかざき ひでと	Okapi Service	経済産業省実施の産業クラスター計画の推進機関として、広域多摩地域(埼玉県南西部・東京都多摩地区・神奈川県中央部=TAMA地域)が世界有数の環境に配慮したものづくりの新産業創出拠点となることを目標に掲げ、TAMAのポテンシャル(多数の優秀な中小企業や理工系大学の集積など)を活かして、産学官に金融を加えた人的ネットワークの構築・活用(TAMA協会には約150名の登録コーディネータがおります。)と企業の新事業創出活動を支援する施策の立案・実行を進めました。特に、日本の他地域との「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための「大手企業との連携」、市場として魅力がある中国を初めとしたアジア、中小企業が拘りを持ってものづくりをしているイタリア、イノベーションのつぼとも言われるシリコンバレーの展開に力を注ぎました。 現在は、コンサルタントとして意欲ある中小企業の戦略的事業展開や自治体・支援機関とタイアップして地域産業活性化のご支援をしております。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
岡田 昭人	おかだ あきと	早稲田大学都市・地域研究所／ 一般社団法人コミュニティネット ワーク協会	埼玉県上尾市の密集住宅地再生事業においては連鎖型の共同建替えの4プロジェクトに関わり、その後墨田区向島地区の密集住宅市街地でのまちづくり活動や鳥取市中心市街地での老朽化した防火建築帯のコンバージョン・リノベーションに向けた修復改善型の整備計画策定に携わっている。 近年は福祉、医療関係者と連携しながら、高齢者の住居・生活改善支援及びLLPやLLCを立ち上げ、住まいづくりの主体づくりの支援をしている。また社団法人コミュニティネットワーク協会が運営するコミュニティファンド研究会で、新しい市民ファンドの仕組みに向けて調査・研究、提案を行っている。 花巻市東和町では、商店主や高齢居住者が地域で支え合いながら暮らすための共同店舗や住まいづくりを様々な制度を活用した共同建替え事業支援やエリアマネジメントを志向するまちづく会社を支援しながら、空き地空き家を活用した美術展や自律的財源を確保するためのまちづくりファンドの組成など地域再生に向けての実践活動を行っている。
岡田 基幸	おかだ もとゆき	財団法人上田繊維科学振興会 (AREC)	地方における新事業創出、新産業創出は、日本の急務の課題ではありますが、未だ多くの課題を抱えているのが現状です。また、地方では、首都圏・大都市圏の成功モデルの単なる真似ごとだけでは解決できないことが多く、地方都市独自の事業創出、新産業創出への仕掛け・取組が必要です。 上田市産学官連携支援施設(浅間リサーチエクステンションセンター(AREC))は、信州大学との産学官連携による新事業創出、新産業創出を目指し、上田市が文部科学省の研究交流促進法の認定と経済産業省の補助金を受け、2002年に信州大学内に設置した施設です。早や8年を経過し、地方都市発の数多くの新事業が生まれてきております。さらには、「設置以来満室」「地域中小企業180社超の有料制会員組織の構築」「事務局少人数体制」により、設置主体の公的支援にたよらない自立運営を可能にしております。「地方」という厳しい環境下ではありますが、人財をはじめとした地域の素材をじゅうぶんに活かし最高のパフォーマンスを出し続けています。
岡部 友彦	おかべ ともひこ	コトラボ合同会社	12年間の地域活性化事業のノウハウを踏まえ、2012年度より愛媛県松山市三津浜地区にて地域活性化事業として空き家バンク、空き家活用事業、コミュニティセット事業を行っている。 弊社では、地域に直接入り、地域の人々、企業とともにボランティアではなく、事業としてのまちづくり事業の構築を行っています。 【街や地域の新しいイメージを創り出す】 まちづくりや地域活性化プロジェクトなど、地域の活動には、様々な人の協力が必要となります。プロジェクト自体を多くの人々に知ってもらうためにも、発信手法の検討は欠かせません。 コトラボでは、イギリスの都市再生で行われているプロジェクトのプロモーションムービーにならって、街の現状や眠っている「資源」を可視化させたり、統計データを一目で分かるようなヴィジュアル化などを取り込みながら、プロジェクトやその地域に興味をもってもらえるような映像を創っています。http://vimeo.com/52294907 【地域の空き家と借りたい人とをマッチング】 2013年より愛媛県松山市より地域活性化事業を受託。築150年の古民家なども多く残っている港町三津浜地区の空き家を一軒一軒調査し活用可能な物件を収集、三津浜町屋バンクと称して広く利用者を募る。http://mitsuhamaru.com 【地域資源を活用した地場産業づくり】 日雇い労働者の街であった横浜寿町の空き部屋を建物所有者と連携して旅行者向け宿として改装し、事業として行いつつ新しい人の流れを創り出している。2004年から横浜寿町を拠点に街の資源を有効活用し、街に新たな産業を創る取り組みを行っている。横浜では地域にある簡易宿泊所の空き家を活用し旅行者向け安宿に変貌させたYOKOHAMA HOSTEL VILLAGEを運営している。
岡本 英志	おかもと ひでし	マルチプロデュースオフィス プラス	経営革新や地域振興・農工商連携などは、言葉による事業化プランは立てられるが、具体的に実行して実績を上げるところまでたどり着ける事業者は多くない。机上のプランニングではなく、事業者と並走しながら、企業の潜在能力を引き出し、営業方法やプレゼンテーション方法などもプロデュース。地域資源と地域産業の連携推進しながら、農工商連携・6次産業化などのアライアンスを通じて、地域産業の振興や街づくりに貢献しています。
奥村 伸幸	おくむら のぶゆき	別府国際観光港みなとまちづくり 協議会	自然環境保全のための高山植物の保護活動・植物等の定点観測・地熱発電と自然との共生の取り組みと提言、地域企業のCSR推進・災害速報の多言語音声、文字表示の普及
小倉 龍生	おくら りゅうせい	公益財団法人はまなす財団	テーマ:人口減少社会を前提とした新たなステージに向けた地域づくり全般 ○地域資源活用による地域活性化 ○地域経済の域内循環の再構築 ○地域づくりのための新たなデスティネーション・マネジメント ○販路拡大に向けたブランディング戦略とマーケティング戦略

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小野田 弘士	おのだ ひろし	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科	エネルギー・資源循環、モビリティ等を専門分野としており、全国各地でのスマートコミュニティプロジェクトや再生可能エネルギー、未利用エネルギー等に関するプロジェクトの創出を支援している。とりわけ、自らベンチャー企業を創業した経験を生かし、指導・助言のみならず事業化に向けた民間企業のコーディネート、官民連携スキームの構築支援等を得意としている。具体的には、下記の役割を担うことが可能である。 ・地域特性に応じたスマートコミュニティプロジェクト等のコンセプトデザイン ・再生可能エネルギー等を活用した自立・分散型エネルギーシステムの構築 ・地域ニーズに適合したソリューション(エネルギー、モビリティ、ICT等)の構築 ・企業誘致およびPFI/PPP型事業モデルの設計 ・モニタリングおよび効果測定 等
小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダツシュ村	四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ 産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ 各地へ講演活動
小幡 和輝	おばた かずき	NagomiShareFund / 地方創生会議	地方創生会議は47都道府県すべてから起業家・公務員・政治家・クリエイター・学生などが参加する地方創生のプラットフォーム。全国のローカルプレイヤーがつながり、事例共有や共同プロジェクトなどが生まれ、その取り組みを支援することで地域の活性化に繋げる。また、「NagomiShareFund」は株式による出資ではなる売上のレベニューシェアで回収するモデルを採用。これにより、既存のファンドが投資しづらい、地域の名産品や伝統工芸品などへの支援を実現。さらに、クラウドファンディングを活用した起業支援を全国各地で行っている。
尾山 優子	おやま ゆうこ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	地域活性化のためには、地域の各ステークホルダーが協働で解決にあたる必要がある。その協働の場を設け、プロジェクトを支えるコーディネーターの役割に光をあててモデル化するための情報収集・発信をしている。また、SDGsの普及や事例紹介等も実施。
折谷 久美子	おりたに くみこ	NPO法人 スプリングボードユニティ21	地域の人や行政の人、様々な人と協力しながら、人づくりまちづくりを通じて、住んでいる人も訪れる人も函館のまちを好きになってもらいたいと活動しています。 ○みなとまちづくりの活動では、函館イカマイスター取得により函館市の魚であるイカの出前講座に力を入れています。 ○おもてなしの気持ちをこめて、国道5号函館新道、道道函館空港線、JR函館駅などで植栽維持活動を春から秋まで実施。函館新道の活動では、平成22年5月「全国みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」受賞。 ○手作りキャンドルで道路沿線を飾る「シーニックdeナイト」で、地域一体となって冬の函館観光を楽しく盛り上げています。
甲斐 寛人	かい ひろと	特定非営利活動法人シンクタンク九州	中心市街地商業活性化アドバイザーとして、中心市街地活性化基本計画の作成、中心市街地活性化協議会の運営に関するアドバイス等を行ってきました。また、中心市街地タウンマネジャーとして現場における実践的な活動も行ってきました。また、商店街活性化アドバイザーとして、商店街の活性化に関するアドバイスも行っています。地方創生の人口ビジョン・総合戦略の策定支援や、総合戦略に基づく地方創生のための事業の立ち上げ支援に携わっています。
海津 ゆりえ	かいづ ゆりえ	文教大学国際学部	・1. 資源調査(宝探し)の支援 岩手県二戸市や南大東村など、里山や離島等での資源調査に関わってきました。住民とともに宝探しをし、そこからイノベーションを興す活動を支援しています。答えは観光ばかりではなく、ブランド開発等へも展開していきます。 ・2. エコツーリズムの推進 西表島や裏磐梯等でエコツーリズムのスタートアップの支援を行ってきました。このようなエコツーリズム推進地域への全般的アドバイス(推進方策、人材育成等)を行います。 ・3. 宝探しからエコツーリズムへ—観光まちづくりへの支援 地域づくりは長い年月をかけ、多様な人とのネットワークを広げながら進めるものです。数年かけて、宝探しからエコツーリズムの推進までの経緯をトータルでサポートします。 ・4. その他 学生参加型調査、プロのガイドとの協働によるツアー開発、日本エコウォーク環境貢献推進機構との連携による「まちあるき」の開発等、私のチャンネルを活かした支援が可能です。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
笠原 秀紀	かさはら ひでのり	いなほコンサルティング	<p>問題解決・企画創造のグランドデザイナーとして、組織、地域の問題解決や人々や地域の夢の実現に取り組んでいます。</p> <p>1) コーディネイト・プロデュース 地域住民、行政、企業、外部専門家など関係者の協働体制を構築。対立を超え、各種技術、仕組みを含む協働体制を創造し、問題解決、企画を実現に近づけます。本手法では、「仕組みの中核・デザインをどのように作るか」が最大要点になるので、テーマはあまり問いません。下記の例の他、震災など災害復興、ヘルスケア、食、農、社会貢献の資金調達など様々なテーマでの問題解決を行っております。</p> <p>【環境分野事例】関係者協働体制の構築による環境汚染地域の問題解決。地域のダイオキシン問題解決(ダイオキシン排出量は、住民、行政、事業者の連携により、焼却炉技術だけでは出せない成果が出せる)。「省エネをすると経営がよくなる(省エネ以上の収益効果)」という新メソッドの民間企業群への導入により、地域の企業群が環境に良い活動と経済的発展を両立させる。</p> <p>2) 新規事業開発(地域版、全国版) 企業1社の事業開発ではなく、地域モデル化、全国展開により、地域や広域的な活性化、業界および経済活性化の実現支援。 【事例】フロン回収技術の開発・技術公開・フロン回収事業の立ち上げ。全国の行政システム(冷蔵後、空調回収)と連動し、行政と協働する地元の小規模事業者の新ビジネスモデル構築。業界は事業用設備等からのフロン回収の新規事業成立。派生事業含み、年間数百億円の市場に成長。</p> <p>3) (地域の)問題解決スキルアップ支援 地域の「問題解決ができる力」を向上させていく。前掲1)コーディネイトおよび、2)のスキル・ノウハウの一部を地域に渡していく。問題解決するのは地域であり、地域住民。前掲1)2)よりもこちらの方が地域活性化力は格段に向上する。前掲1)は当方が引き上げた後に衰退するケースもある。</p> <p>4) (地域の)企画・創造力開発支援 地域の未来や願うビジョンを地域の人々で達成できるように、アイデアを出し、夢の実現、問題解決ができる力を向上させていく支援。主役は地域の人々である。当方のノウハウを地域に移していく支援。前掲3)と同様に、地域の力が向上する。</p> <p>5) 災害復興 & 予防 BCP/M融合メソッド 阪神大震災以降、現場復興コーディネイト、BCP/M(事業計画マネジメント)支援、および、それらを融合した支援。個別企業や組織のBCP/Mを超えた、地域(連携)BCM構築の支援。</p>
風間 教司	かざま きょうじ	有限会社 風間総合サービス	<p>自宅を改装しカフェ「饗茶庵」をオープン以降、元連れ込み宿や築100年の商家、など廃屋をリノベーションしたカフェ「日光珈琲 玉藻小路」「日光珈琲 朱雀」「日光珈琲 御用邸通」と北欧服飾雑貨店を栃木県内にて展開。珈琲の焙煎、卸、カフェ&フードビジネスコンサルティングを行う。</p> <p>また、起業家育成事業「ネコヤド大市」、商業者による地域活性プロジェクト「DANNAVISION」を手がけ、地域づくりと担い手づくりを行っている。</p> <p>2015年より日光例幣使街道鹿沼宿旅館再生プロジェクト「CICACU」始動。現在、旅館業のオーナーでもある。</p>
春日 隆司	かすが たかし	特定非営利法人しもかわ森林未来研究所(北海道下川町)	<p>森林バイオマス活用による地域振興、二酸化炭素吸収・削減クレジット創造、森林クラスター創造、包括的資源管理マネージメント、環境未来都市、その他地域振興、まちづくり全般</p>
片岡 由美	かたおか ゆみ	一般社団法人 東京都中小企業診断士協会 城南支部	<ul style="list-style-type: none"> ●「観光」に関すること→マップづくり、シンポジウムコーディネート ●「まちづくり」に関すること→ イベント企画・実施、まちづくりワークショップ ●「商業活性化」に関すること→ 商店街・個店コンサルティング、商店街青年部勉強会の実施、創業セミナー・相談、空き店舗対策 ●「食」に関すること→ 地域産品などの開発、人材育成(特に女性)
加藤 慎一郎	かとう しんいちろう	(株)加藤地域政策プロデュース	<p>(1)まちづくりに係わる企画・提案 (2)集客施設整備(マグネット機能の強化、開発、オペレーション) (3)地域活性化ソフト事業(集客・回遊ソフト事業、空き店舗・空地活用、地域資源活用) (4)地域活性化計画づくり(課題抽出と課題解決に向けた活性化計画づくり、PDCAサイクル によるタウンマネジメントの精度向上) (5)地域活性化組織づくり(発展段階に応じた組織づくり、中心市街地活性化協議会の設立・運営)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
加藤 せい子	かとう せいこ	NPO法人吉備野工房ちみち/千道株式会社	<p>「一人ひとりの夢が実現し希望と笑顔が生まれ幸せの和が広がる」を目的を達成するために「一人一品」の考え方を元に、一人ひとりの夢を実現させる場として「みちくさ小道」の運営を行っている。※一人一品とは、その人の一番の輝き多様なステーキフォルダーの集合体に特徴である。</p> <p>★みちくさ小道から派生して出来た取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間の地域資源発掘 ・里山×子育て体験 ・商品の販路開拓 ・地域文化の伝承 ・人財育成(インターンシップ、研修事業) ・仕組みづくり(小・中・高校生をつなぐ) ・健康増進 ・防災・見守り ・交流観光体験プログラム <p>★みちくさ小道の仲間たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯原っしい(真庭市)・大分みちくさ小道(大分市)・伊達ルネッサンス(亶理町、山元町、新地町)・石巻に恋しちゃった(石巻市)・Re:us world(気仙沼市唐桑)・さんりくさんぼ(宮城県気仙沼市本吉地域)・かんぱく(香川県観音寺市)・เทศบาลเมืองสุรินทร์(タイ国スリン県) <p>★JICA研修プログラムとしても活用(アジア太平洋大学×みちくさ小道)</p> <p>7年間で45か国(アジア、アフリカ、アンデス地域)400名近い行政官、実施関係者、生産者が地域開発に必要なコミュニティ・キャパシティ開発を学ぶ。</p>
加藤 誠	かとう まこと	株式会社JTB	<p>近年ツーリズム産業を取り巻く環境は急速に変化しており、従来型のツアースタイルではマーケットニーズに応えることは不可能となっています。旅行会社が主導してきた発地型のマストツーリズムから、地域社会が主体となる着地型のニューツーリズムへと時代が移りつつあり、暮らしや文化など地域固有の魅力を生かした旅の創出が求められています。</p> <p>JTBグループでは、事業ドメインを総合旅行業から「交流文化事業」に進化させ、国の成長戦略と位置づけられた観光を基軸とした交流人口拡大による地域活性化を推進しております。これまでの発地でのマーケティング活動にとどまらず、着地においては地域行政・住民を巻き込んだネットワークの構築、地域魅力を生かした旅行商品の開発・流通支援、地域ブランディング、観光まちづくり、など、地域の皆様とともに地域視点での取り組みを全国各地で進めております。観光振興プランの立案、人材育成、着地型旅行商品の開発等、地域のマネジメント活動に積極的に取り組んでおります。</p>
川口 真	かわぐち まこと	標津町産業クラスター創造研究会	<p>食中毒の風評被害によって、地域経済が危機に直面した事から、万が一にも食品事故を起さない取り組みとして、漁場・市場・加工・流通までを一貫した浜の高度衛生管理システムの「地域ハサップ」を樹立して、11年を経過。今や「地域ハサップ」は町の誇りや魅力として、鮭や帆立貝のブランド化に大きな貢献をしている。又、この活動を消費者に知らせるために、漁港などの生産現場を開いて消費者への「観光体験の拠点」としての活用を図った「標津版エコツーリズム事業」を創設し、鮭の荷揚げや水産加工などの産業現場体験や漁業者との交流を中心に、農業も含めた産業や生活、自然など町の足元にあった「何気ない地域資源」を「体験観光素材」として磨き上げ、町民ボランティア観光ガイドの養成と組織化の融合によって、今や20校余りの修学旅行が関東・関西方面から訪れる「目的観光地」として成長した。これは、生産現場を開くという「産業の観光化」によって、「観光が産業化」したものである。</p>
川崎 克寛	かわさき かつひろ	徳島大学	<p>2010年より内閣府地域社会雇用創造事業(ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスのインターンシップ事業)のメンターとして関わり、四国の学生と地域企業とのマッチング・コーディネート活動に携わる。また、四国経済産業局主催の企業向けセミナーにおいて、コーディネーターとして参加。2011年3月から、東北での支援活動「つなプロ」に参画し、エリアマネージャーとして、現地にて地域住民の生活サポート、ボランティアスタッフのコーディネート活動のほか、同年6月より、ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスの復興支援インターンシップ事業である、岩手県陸前高田市で行われたT-ACT事業にも参画し、現地ディレクターとして、50名を超える学生を募集し、地域再生プロジェクトのコーディネート活動を行っている。2014年、ネパールの地震復興支援活動を行う。2016年2月より徳島大学特別准教授・COC+推進コーディネーターとして、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC+事業)」に携わる。</p>
河崎 妙子	かわさき たえこ	(有)河崎妙子事務所	<p>有限会社 河崎妙子事務所はコンセプト作り、店舗レイアウト、メニュー開発、スタッフ教育、広報活動など、1店舗を立ち上げるためのノウハウを提供。特に女性の立場から見た店舗のプロデュースやメニュー開発を得意としています。主な活動範囲は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「食」に関すること→食材研究、商品開発、人材教育、料理講習会の実施等 ②「観光・交流」に関すること→コンセプトに合わせた商品開発、店舗の立ち上げ等 ③「学び」に関すること→食材研究、ワイン、チーズ、スパイス等の使い方や知識についての勉強会を実施、薬膳料理の勉強会等、各地の食材を生かした幅広い講習会を実施

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
河部 真弓	かわべ まゆみ	音楽で地域を元気に！ KAWAVEX・石州犬研究会	1空き家活用・定住促進 2コミュニティ・ビジネス開発支援 3地域マーケティング特産品開発 4地域のIT化促進、ネット通販 5交流促進、田舎 Tourismus、 これらの現場での活動を通して痛感する今後の地域振興課題や解決のポイントなどを歌詞にして楽曲を製作し「Kawavex」としてトーク＆ライブ活動も行なっています。 (例)Uターン(定住促進はUターンしたその後が重要)・空き家のロックンロール(全国820万個超の空家の嘆き)・このままでエンカ！(少子高齢化、人口減少、本当にこのままで、ええんか?)・地場サンバ(地場産業をマーケティングして地域を世界に売り込もう!)等
川村 一司	かわむら かずし	株式会社 パレスホテル 東京	1)2016年から2019年度 経済産業省関東経済局「ホテルコンシェルジュによる地域魅力発見・発信事業」アドバイザー 2)2018年10月17日 小布施文化観光協会創立70周年記念行事「パネルディスカッション、パネリスト 3)2018年7月 東京都労働局「おもてなし親善大使育成事業」ホスピタリティー研修、講師
菊池 新一	きくち しんいち	特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	遠野のグリーン・ツーリズム研究会の立ち上げから、今日までグリーンツーリズムの振興に関わる。ふるさと公社では、道の駅「遠野風の丘」の立ち上げ、コミュニティビジネスの振興に関わる。商工観光課では、コミュニティビジネスを取り入れた、ショッピングセンターの再生に関わる。現在、震災の被災地や東北各地においてソーシャルビジネスの立ち上げをキーワードに、農家民宿、農家レストラン、産地直売所、農産物の加工など、六次産業化や農商工連携の起業支援を行っている。 また、グリーンツーリズムの実践、着地型旅行業への参入などを行っている。
岸川 政之	きしかわ まさゆき	百五銀行／皇學館大学／(一社)未来の大人応援プロジェクト	三重県多気町にある相可高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店、(株)相可フードネット「せんばいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり賞大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を受賞し、2011年5月からは「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を呼んでいる。 また、高校生などの若者(未来の大人)たちと地域ビジネス創出事業(Social Business Project、略称:SBP)にも取り組んでいる。SBPは、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうというもの。具体的には、自分たちのまちの地域資源(ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等)と交流し、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していく。そして、その取組を地域で応援し支えていこうというもの。高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPを立ち上げ、その後このような地域に根ざした取組が全国に広がっている。そして、SBP活動に取り組む高校生が集い研鑽する「全国高校生交流フェア」は、2017年から文部科学省の共催事業となっている。 現在は地方の活性化をテーマに、全国各地で「まちづくり」、「商品開発」、「生き方・考え方のヒント」などをテーマにした講演やワークショップも多数開催するとともに、市町村、NPOなどのアドバイザーとしても活躍している。
木田 悟	きだ さとる	(一財)日本スポーツコミッション	●設立目的 (一財)日本スポーツコミッションは、スポーツをまちづくりや地域の活性化の手段として捉え、スポーツの有する多様な機能を活用したまちづくりや地域の活性化に資する調査研究や関連諸活動を行うことを目的として設立しました。 ●活動内容 ・各種スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する調査研究:自治体等からの調査等の受託 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資するセミナー・研究会の開催:スポーツコミッション研究会・サイクリズム推進研究会の開催 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する本・冊子等の発刊 ・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する会員事業:スポーツコミッション連絡協議会の運営 ・商標である「日本スポーツコミッション」の的確な使用に向けた講演や執筆活動等の実施

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
北尾 洋二	きたお ようじ	株式会社ザメディアジョン・リ ジョナル／大分県立芸術文化短 期大学 情報コミュニケーション学 科	<p>「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート・「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネート・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしながら、「ひとづくり まちづくり くにづくり」をモットーに活動を展開しています。</p> <p>● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から／学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援(採用ノウハウの提供、経営指導など)、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。(実績: 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、島根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、島根県益田市など)</p> <p>● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で／アクティブラーニング(サービスマーケティング)の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越えた、地域づくりを展開しています。(実績: 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワークサービス(SNS/facebook、twitter、Instagramなど)を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、島根県江津市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど)</p> <p>● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開／歴史街道・萩往還散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発行とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。(実績: 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など)</p>
北野 尚人	きたの ひさと	広島経済大学 メディアビジネス 学部	<p>・「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。</p> <p>・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。</p> <p>・博報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。特に、最近では、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等にもチャレンジ中。</p> <p>・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他所者視点に立って推進中。</p> <p>・大学へ移ってからは、マーケティング、コミュニケーション、メディア、広告、広報、ブランディング等を研究。</p> <p>・学生に対しては、従来の常識に捉われない柔軟な発想で、物事を見つめ考えることを指導。</p>
北村 省一	きたむら しょういち	株式会社サイテック	<p>【地域産業支援】情報社会における企業のファインダビリティ(見つけてもらうこと)をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり(Smart-PR等)、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり、メディア活用を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</p> <p>【地域づくり(人材育成・産業振興)】80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興(人材育成、産業振興)等の観点から公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</p> <p>【自然資源調査】各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川(河川水辺の国勢調査)などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉川 真嗣	きっかわ しんじ	村上町屋商人会／チーム黒塀プロジェクト／むらかみ町屋再生プロジェクト	<p>新潟県村上市は歴史ある城下町。平成9年、大規模な近代化計画が浮上。この中、町を守るための活動を開始した。それまで日陰の存在だった村上の古い町屋のもつ価値に光を当てる取り組みだった。町屋を活かし街の賑わいを取り戻せばきっと近代化を食い止めることができると思ったのだ。平成10年、生活空間である江戸や明治の町屋の内部が村上の財産だと確信し、生活空間である町屋の公開を22軒で始めた。話題を呼び、それまでゼロだった旅人が町に訪れ変化が起こる。更に2年後、タイムスリップしたような町屋の中に人形や屏風を展示して公開する「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」を企画し、旧町人町の町屋60軒で開催。一年を通し全国から30万人が訪れる町になる。しかしなおも近代化が推進されようとするその中、平成14年、市民自ら村上のあるべき姿を示そうと歴史的景観作りを開始。「黒塀1枚1000円運動」を行い、ブロック塀だった塀を市民の力で黒塀に変える「黒塀プロジェクト」を行う。これまでに460mの黒塀が完成した。平成16年、町屋再生プロジェクトを開始、町屋再生のための市民基金をつくり町屋の外観の再生を開始した。平成26年からは空家の再生も手がけ、市民による全国で初めての取り組みで外観再生、空家再生あわせて現在41軒が再生。街は徐々に城下町の風情を取り戻しつつあり、一年を通しての街の活性化につながってきている。</p> <p>一人から始めた取り組みだが、仲間ができ、やがて組織を成し、そして事を起こし、逆境の中にあって、市民の意識を変えながら町を動かす強力な運動体へと発展した。行政に頼らない市民主導のまちづくりとして全国から注目を集めている。</p>
衣笠 愛之	きぬがさ よしゆき	(有)夢前夢工房 (株)兵庫大地の会	<p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する(専業農家へ)</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する(認定農業者)・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年 ・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年 ・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年 ・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得(無農薬認定)</p> <p>17年 ・新規就農研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年 ・環境創造型農業兵庫県モデル地区に認定される(10ha)</p> <p>20年 ・食育アドバイザー指導を始める ・第1回田んぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年 ・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる(夢やかた)・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年 ・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得((財)日本穀物検定協会)</p> <p>23年 ・6次化法認定(農林水産省)、食と地域の交流推進事業認定(平成23～24年)</p> <p>24年～25年 ・イチゴハウス(37a)、直売所「夢街道farm67」開設</p>
木下 斉	きのした ひとし	一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス	<p>“地域の中心的なチームを組織して新たな事業を創り、その事業経営を通じて地域の抱える経済的・社会的課題を解決するのが、私のスタンスです。</p> <p>・1998年、早稲田商店会における環境を切り口とした商店街活性化に参画。「エコステーション」の運営を通じて、1999年より全国リサイクル商店街サミットを開催(現在までに全国で13回開催)。さらにネットを活用した情報共有を行い、2000年度新語流行語大賞「IT革命」受賞。</p> <p>・2008年には熊本市内における不動産価値の向上を目指し、熊本城東マネジメント株式会社を設立。不動産・店舗経営にかかる契約を一本化することでコスト削減と業務品質改善、まちづくり基金の創出する、エリア・ファシリテイ・マネジメント事業を立ち上げる。現在、北海道から九州まで全国各地で同様の事業を立ち上げている。</p> <p>・2009年には全国各地の事業型まち会社とそれを共同で推進する民間企業や専門家によるアライアンス団体、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスを設立。現在11都市のまち会社が加盟し、共同で事業開発を推進している。</p> <p>・2011年からは、エリア・イノベーション・アライアンスにおいて、新たな事業開発プログラムである「エリア・イノベーターズ・ブートキャンプ」を定期開催。全国から参加者が集まり、事業開発に取り組み、成果を挙げている。さらに、インターネットを活用した事業プログラム販売などのプラットフォーム開発にも着手、まち会社が物理的な制約を越えられるよう、オンラインでの事業開発・経営推進を図っている。</p> <p>・2013年には公民連携事業を推進した実績から、地域活性化伝道師を務めるアフターヌーンソサエティの清水氏、CRA合同会社の岡崎氏と共に一般社団法人公民連携事業機構を設立し理事を務める。同社では2015年より東北芸工大と提携し、公民連携プロフェッショナルスクールを開校し、自治体、民間横断での全国的な公民連携事業家の育成に当たり、既に全国で30以上の公民連携によるまちづくり事業の立ち上げにつなげている。さらに今年からは都市経営プロフェッショナル・スクールへと進化させ、幅広い都市経営課題解決に対応する。インターネットと実地研修を組み合わせ、現場をもつ人々が互いに他の地域をもサポートできる体制をつくりあげることで、自立した地域づくりをサポートする。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
木村 博司	きむら ひろし	Code for MIKAWA / 株式会社ウェブインパクト	オープンデータをはじめ、ITテクノロジーを活用を通して、地域活性化に繋がる活動を多岐にわたり取り組んでいます。詳しくは、 https://uzura.org/ 、及び、下記の著書を御覧願います。 世界初のオープンデータ漫画『まち想い！シブすぎオープンデータ&どすごいシビックテック』 https://drive.google.com/file/d/1ybBU_r8EE2Fd9SVsU1M0FT5SDcKCoMya/view?usp=sharing
久保 智	くぼ さとし	プロジェクト熊野	熊野市役所在職中は、地域資源を活用した特産品開発として「さんま醤油(魚醤)」や「どぶろく」など新たな特産品の開発に関わる外、直販や異業種連携、ローカルネットを活用した地域産品の新たな販路を開拓してきた。 また、漁業の再活性化を図るため、安全安心の水産物生産や販路開拓についてハード・ソフト両面から取り組みを行った。 個人の取り組みとしては、女性・中高齢者を社会資源と捉えたコミュニティビジネスの振興に関わる外、園芸による社会弱者の社会参加を支援する「くまの園芸福祉倶楽部」に参加してきてきた。 1998年からは都市と大学と村とをネットワーク(村都連携・村学連携)する「プロジェクトくまの」の現地世話人として活動している。
熊倉 浩靖	くまくら ひろやす	高崎商科大学	(1)市町村、小学校区等を単位とした地域づくりを歴史・文化資源を活かして支援 (2)市町村総合計画・総合戦略の策定・進行管理の策定・推進をアドバイス (3)市町村行政評価・経営改革をベンチマーキング手法で分析・支援
栗原 秀人	くりはら ひでと	下水道広報プラットフォーム	「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、濁水、水質汚濁等々の水の脅威も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『「水の脅威」と「水の恵み」の再確認』②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)]④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)]等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめていると思っています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小出 宗昭	こいで むねあき	富士市産業支援センターf-biz	<p>2001年2月から今日までの18年間に、規模、産業構造共に全く異なる3都市で計4箇所の公的創業・産業支援施設の立ちあげと運営に関わり、これらの施設を核とした地域活性に取り組んできました。拠点が変わってもパフォーマンスが落ちることはありませんでした。施設が立地する場所や、その性格(インキュベーター・中小企業支援センター)に関係なく、公的産業支援プロジェクトを成功させるノウハウを確立させた結果だと自負しています。</p> <p>活動の中核になっているのは、地域の既存事業者やこれから起業しようとしている人達が抱える経営課題を一緒になって解決する、ビジネスコンサルティング業務です。必要とされる技術をもっているのに、そのことが顧客にうまく伝わっていなかったことで業績が伸び悩んでいた企業に対し、「強みの見える化」につながる新サービスを企画提案したところたちまち売上をV字回復させた事例や、機械が古いせいで小ロット生産しかできず廃業を覚悟していた企業に対し、弱みと捉えていた「小ロット生産」を「強み」として打ち出す新戦略を企画提案し売上倍増を実現させた事例など、これまでに1,500件を超える新規事業立ち上げを支援してきました。</p> <p>2008年7月に独立し立ち上げた自社で運営を受託した富士市産業支援センターf-Bizでは、開設にあたり、それまでの経験と富士市の人口26万人というデータをふまえ、計画では月間25件程度の来場相談件数を見込んでいました。ところが開設から1年間の平均相談件数は130件を超え、現在は月間300組の事業者が訪れる施設になり、これまで寄せられた相談からは1,000以上の新商品や新サービスが生まれるという、全国的にも最も活性化させた産業支援施設となりました。</p> <p>テレビや新聞等マスコミから「日本で最も活性化させた産業支援施設」などとして注目され、中央官庁や他の支援機関、自治体からの視察が絶えず、2014年に政府が全国47都道府県に開設した「よろず支援拠点」のモデルになったほか、f-Bizをモデルにした取り組みに着手する市町村も出始めました。2013年には愛知県岡崎市が「岡崎ビジネスサポートセンターOKa-Biz(オカビス)」を、2015年には熊本県天草市が「天草市起業創業・中小企業支援センターAma-biz(アマビズ)」をそれぞれ開設し、f-Bizを超える勢いで地域事業者の支持を集めています。2016年度には岐阜県関市、広島県福山市、宮崎県日向市、2017年度には長崎県壱岐市、島根県邑南町、2018年度には北海道釧路市や山形県山形市などが自らの自治体で”〇〇-Biz”を開設し、2020年2月現在でf-Biz以外に20の”エフビズモデル”が全国で稼働しています。</p> <p>こうした動きを受けて、2018年8月に富士市が中心となり、f-Bizの中小企業支援手法をモデルに自らの中小企業支援機関を設置した全国各地の自治体同士が、各々の成果や課題を共有し、支援力、連携力を高め、地方から日本を元気にしていく全国組織「全国Biz自治体交流会議」がたちあがり、年に一度各地の”Biz自治体”に全Biz関係者が集合してBizサミットを開催しています。</p>
神田 博史	こうだ ひろし	大阪生薬協会	<p>「地散地消」でなくて、地域の人、魅力を生かす「地産地生」であろう。いづれの取り組みも参加者、関係者の「百笑一喜」からである。</p> <p>各地に出向き、地域の方々と直接触れ合いながら講演活動をさせていただき、実現の方向に向けている。</p>
古賀 方子	こが まさこ	特定非営利活動法人 全国街道交流会議	<p>「全国街道交流会議」には、街道や歴史文化を活用して地域づくり、交流・連携に取り組む全国の自治体、民間団体、個人が参画している。全国大会の開催やまちづくり情報の共同発進などを通じてネットワーク化を進めるとともに、国、県、市区町村、住民間の連携をコーディネート。「往来再生」と「地域の自立」をテーマに、各地で官民協働によるみちおこし、まちおこし事業に取り組んでいる。</p>
古川 充	こがわ みつる	古川行政書士事務所/地域経営コンサル 合同会社なるさ	<p>・神奈川県庁から人口2000人の小さな君田村役場に転職する。</p> <p>1996年から宿泊、温泉などを備えた道の駅整備による村づくりを担当し、15年間事業の責任者を担う。住民240人の第3セクター経営により、年間利用者25万人の地域振興の拠点施設として持続経営の展開の基盤づくりを行なう。経営に従事する中で、収益の一部を村役場に5億3千5百万円の寄付を行なう。これを、村は、将来の施設修繕に充てる基金化する。</p> <p>事務局や責任者として仕掛け続けた、組織、集落が下記を推奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年 地域住民が連携した農村振興が認められ「豊かな村づくり賞農林水産大臣賞」 ・2004年 道の駅を核とした地域振興が認められ「立ち上がる農山漁村」に選定 ・2016年 中山間直接支払活動が評価され「中四国農政局長表彰最優秀賞」 ・地域振興組織が持続可能な取り組み方策の選択として、組織の法人化、組織運営の指導 ・第3セクター経営の改善支援 ・2004年 「地域産業担い手たち・地域ビジネスリーダー」(経済産業省中国経済産業局)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小島 大	こじま だい	ささつな自治体協議会	<p>全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局として、会員自治体を中心とした住民の皆様の生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心とした交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでおります。</p> <p>同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用することで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。</p>
小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。 ・サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。 ・サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。 ・樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。 ・京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。 ・各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。 ・サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。 ・樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。
小島 富美子	こじま ふみこ	NPO法人 いいがた湊あねさま倶楽部	<p>”情”のある女性達 それも様々なスペシャリストが集まった倶楽部です。</p> <p>①時空絵図 絵本「どこかのだれかと」にいがた湊の1000年の歴史の発行 ②みなと絵葉がき いがた湊万華鏡講座(講演、コンサート)実施 ③お月見イベント～月待ち湊～を5年間開催中 ④新潟市主催の”水と土の芸術祭”に「風迎人の家」が当選 2009年7月より建設・オープン予定</p>
小島 光治	こじま みつはる	ユーエンタープライズ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・20年以上、雑誌社の発行人として従事したため、広島都市部のまちづくりを提案し、官民一体のムーブメントを組織し、そのいくつかを実現。→ライトアップキャンペーン、水上バス運行推進、地元商店街振興 ・中国地方整備局、中経連が推進する「夢街道ルネサンス」の推進会議の委員として認定箇所(現在46箇所)の「地域活性化まちづくり」を指導。 ・国土交通省道路局の「社会実験推進に関する懇談会」委員として全国各地の採択箇所を視察、指導。
小島 由光	こじま よしみつ	株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社	<p>第3次産業(流通・外食マーケティング)の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を实践。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業・・・地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案。第2次産業・・・地域特産品の消費マーケットニーズ、ターゲットを踏まえた商品開発提案。第3次産業・・・流通、外食事業コンサルティング、経営分析。●水産物(鮮魚)の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接 流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト削減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。(五島列島水産流通)●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより産地消費消費構造から産地他消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。(久賀島 ファーム)●千葉県鴨川市の海辺のエリアにおけるまちづくり計画のプロジェクトマネジメント業務、総合交流ターミナルを中心とした地域ランドデザイン基本設計を行う。(まちづくり計画) ●鹿児島空港の飲食施設基本コンセプト計画及び県産品の商品開発により6次産業化を行い販路拡大及び店舗のコンサルティングを行う。</p>
古関 和典	こせき かずのり	株式会社JTB外商部	<p>映画・映像を活用した地域活性化事業の推進。(主な事業実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クールジャパン推進事業(自治体連携により、アニメの「聖地」の中国へのプロモーションならびに誘客事業)経済産業省 ・映画「Railways」を活用した富山県のプロモーション事業(富山県観光連盟) ・映画「天心」を活用した映画連携復興支援事業(茨城県) ・映画「銀の匙」を活用した帯広市プロモーション事業(北海道帯広市) ・台合作映画「南風」による愛媛県インバウンドプロモーション事業(愛媛県) ・連続テレビ小説「まれ」を活用した石川県・能登地方のプロモーション事業(石川県) ・ロケ地紹介アプリケーション製作事業(東京都) ・映画「半世界」を活用した林業活性化と伊勢志摩地域のプロモーション事業(林野庁協力・三重県)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
後藤 健市	ごとう けんいち	スノーピーク地方創生コンサルティング株式会社	「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わり、地元の十勝・帯広では、北の屋台(2001)、スノーフィールドカフェ(2002)、東京では、場所文化フォーラム(2002)、とかちの…(2007)、にっぽんの…(2010)の立ち上げと運営に携わってきた。さらに、まちづくりのさまざまなアイデア実現のために会社・団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を行い、全国各地での講演や、地域の元気人材を巻き込んだ活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化に取り組んでいる。また、2010年から海外での活動を開始し、シンガポール、ハワイ、そして極東ロシアなど、アジア&パシフィックエリアの地域との連携を視野に入れた事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のためのプログラムを行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。(カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。)
小林 英嗣	こばやし ひでつぐ	一般社団法人 都市・地域共創研究所／北海道大学	①地域の主体(行政・NPO・住民・企業・大学など)との連携を構築しつつ、都市や地域の創造的再生を臨床学的かつ協働的に支援。 ②全国の地方都市と地方大学の共創的なキャンパスマスタープランの立案と地域再生と結びつく実現戦略を支援。 ③地方都市において、「シティ・ブランディングとなる大学と地域社会との連携と共生による創造的再生」の戦略と戦術、加えてマネジメントプログラムを、まちづくりとキャンパスづくりの両側面から支援。 ④全国まちづくり活動をNPO日本都市計画家協会・会長として発掘・支援し、全国まちづくり大会を開催。
駒田 健太郎	こまだ けんたろう	コマケンラボ	2016年～ 会津地域インバンド推進事業(「サムライシティ会津観光再生事業」コーディネート) 2015年～ 栃木県鹿沼市「加蘇芸術村」プロデュース、アートディレクション 2015年～ 鹿沼市産梨「にっこりなし」の海外展開プロデュース 2013年～2015年 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務 2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース(経済産業省補助事業) 2013年 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース 2013年 鹿沼さつき盆栽&組子細工の海外展開プロデュース(経済産業省クールジャパン事業)
小松 裕介	こまつ ゆうすけ	株式会社スーツ	観光施設の再生を通じた地域活性化にノウハウと実績を有していることから、マーケティング戦略など経営戦略の立案、広報体制の構築、オペレーションの改善、経費の削減、人材の育成やリスクマネジメント体制の構築など、幅広いスキルと経験を地域活性化の現場に活かします。 また、公共施設老朽化対策における公民連携分野でのアドバイス経験を有していることから、より多くの人々を「巻き込んだ」仕事の進め方に慣れており、様々なステークホルダーをまとめるリーダーシップとコミュニケーションのノウハウを地域活性化の現場に活かします。 具体的には、全国各地の地域振興や観光振興などの課題・問題点に対するアドバイス、コンサルティング、実際の計画立案支援や実行支援などを行います。 また、「観光施設の再生」、「企業再生と地方創生」や「経営改革とリーダーシップ」などに関する講演も行います。
齋藤 一成	さいとう かずなり	特定非営利活動法人アンプ／新庄市役所	「商店街活性化三種の神器」の一つ、「100円商店街」を考案。これまでに、全国の128自治体約330商店街に対しそのノウハウを技術供与。最小で5千人未満の町や、商店街の店舗数10店舗未満の地域、様々な災害のあった被災地等でも事業を実施できる汎用性の高さも最大の特徴。 また、必要経費は単色のチラシ代のみというコストパフォーマンスの高さも特徴の一つ。 「商店街の活性化とは、そこに在る個店の収益の増加」との見地から、高い収益性や爆発的な集客力を誇る事業へと進化させている。 全国平均で、1開催地当たりの平均集客数は1万人、来街者の平均購買額は1人@2千円であり、開催地には即日2千万円の経済効果を生むことが可能。 現在でも、100円商店街の導入を希望する地域が後を絶たない。 また、100円商店街から生まれた新たな活性化事業「クーポンランダー(クーポン券付日めぐりカレンダー)」も現在、全国の複数の地域で導入が進んでいる。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
斉藤 俊幸	さいとう としゆき	イング総合計画株式会社	2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加(2003年)、有明高専現代GP事業推進(文部科学省2005年)、全国水産高校生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うめプロジェクト優勝支援(2009年)、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催(秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年)、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」(文部科学省2015年)、大阪府立能勢高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」(文部科学省2015年)、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師
酒井 信一郎	さかい しんいちろう	城下町再生志士隊	地域の歴史的建造物の修景計画 ブロック塀を木材を使ったデザインの美装化の現場作業 歴史的建造物を調査して、一般市民に解りやすいよう価値体系づけを行う。
坂本 世津夫	さかもと せつお	愛媛大学 社会連携推進機構	H14年4月からH17年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当する。H17年4月からH23年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。平成26年10月より、愛媛大学社会連携推進機構教授として、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」、「地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成」に取り組んでいる(愛媛県南予地域担当の、地域連携コーディネーター)。その他、日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している。 APPLIC(一般財団法人 全国地域情報化推進協会)の「ICT地域イノベーション委員会」でアドバイザーを務めている他、四国のICT利活用促進、ICT地域イノベーション、ICT人材育成に取り組んでいる。 平成15年9月、「地域産業おこしに燃える人」(内閣官房・経済産業省)に選定される(小泉総理より、首相官邸にて)。平成19年3月、内閣官房より「地域活性化伝道師」にも選定される。地域情報化アドバイザー(総務省委嘱)、四国情報通信懇談会、日本テレワーク協会(アドバイザー)、ICT地域マネージャー(総務省委嘱)、現代龍馬学会他
崎田 裕子	さきた ゆうこ	ジャーナリスト・環境カウンセラー	くらし・地域など足元から持続可能な社会の実現を目指して、NPO活動、個人での活動、行政委員として生活者視点での実践及び政策提言活動を実施。 ■「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長として、 1)「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰で全国の個性ある地域環境活動を応援。 2)全国の地域環境活動キーマンを集め「環境まちづくり体験エコツアー」を実施。2011年は、前年入賞地・熊本県八代市で、市民相互交流「環境まちづくり・学び合い」を実施した。 3)資源エネルギー庁主催の高レベル放射性廃棄物に関する地域ワークショップ「共に語ろう 電気のごみ」を、全国で実施。 ■「NPO法人新宿環境活動ネット」代表理事として、 1)地域と学校の連携による「新宿の環境学習応援団・まちの先生見本市」開催。 2)「新宿区立環境学習情報センター(エコギャラリー新宿)」の指定管理。
佐々倉 玲於	ささくら れお	一般社団法人いなかパイプ	高知県・四万十川流域に暮らしながら、「いなか」と「とかい」をつなげる事業開発&人材育成に取り組んでいます。海・山・川の一次産業の再生に向けて、農家さんや漁師さんたちとインターンシップ事業や起業家育成の事業に取り組んだり、商品開発や観光開発に関わるワークショップの企画運営を行っています。
笹原 司朗	ささはら もりあき	まちづくり役場	明治33年、滋賀県長浜市の中心市街地に第百三十銀行長浜支店が建てられ、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」という愛称で親しまれた。昭和40年代までは活況であったがモータリゼーションの発展や郊外型大型店の進出により中心市街地は急速に衰退していった。昭和27年から黒壁銀行はカトリック教会として使用されていたが、商店街の衰退とともに郊外への移転を余儀なくされ建物を売却した。建物が売却されたことで長浜市より要請を受け、昭和63年4月、長浜市(出資4,000万円)と地元企業8社(合計出資9,000万円)による第三セクター「株式会社黒壁」を設立。建物の保存と活用を目的とし事業を模索する中、「ヨーロッパでガラスを制作している所には人が集まる」という役員の一言でガラス事業の研究を提案。建物を含む「歴史性」祭りを含めた「文化芸術性」、「国際性」豊かなものを内在するガラス文化事業の推進を図る。平成元年7月1日、黒壁銀行を「黒壁ガラス館」としてガラス工房、レストランとともにオープン。来場者数の増加に伴い施設の拡張が必要となった折、長浜市の調査で黒壁ガラス館の横を通る北国街道沿いには江戸から明治にかけての商家や町屋が多く残っていることが分かりこれらを活用した事業展開を行う。現在、黒壁スクエアは約23店舗となり年間180万人の来場者で賑わう。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
定藤 繁樹	さだとう しげき	関西学院大学	2003年度 都市再生モデル調査を実施。2004年度 宝塚市と大学によるまちづくり包括協定締結、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(「現代GP」)」に採択。2005年度 地域フィールドワークとしての取組、各種の社会実験(オープンカフェ、フリーマーケット、光の散歩道など)を実施。2006年度 地元大学との学学連携による各種取組。2007年度 地域フィールドワークとして商業イノベーション、映像プロジェクト、コミュニティ醸成などの取組。2008年度 逆瀬川地区の商店街活性化、巡回バス運行によるイベント活性化、フェアトレードなどの取組、「社会人基礎カグランプ」準大賞を受賞。
佐藤 安紀子	さとう あきこ	NPO海のくに・日本	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業と魚食文化について考えるシンポジウムの開催(1993年～) ・漁村の女性と都市部の女性の交流活動「浜のかあさんと語ろう会」(1996年～) ・小学生と漁村が交流する海彦クラブ活動(2000年～2011年) ・小学生が離島を取材するわれは海の子活動(2012年～) ・水産の意義を伝える本の制作、発行「クジラから世界が見える」 ・モロッコからナミビアまで西アフリカ22カ国の女性漁業者ネットワークを対象に、日本のすり身文化を伝えるワークショップ活動を連続実施(2011年～)。アフリカ開発会議にもアフリカの女性たちとともに参加し漁業の重要性を発信。
佐藤 太紀	さとう たいき	株式会社エフエムもえる／株式会社コササル／留萌観光連盟／一般社団法人日本コミュニティ放送協会	<p>一人で多くの地域住民が地域のことを「自分事化」できることを目的としている。またこの活動を通じて地域の人の経済の活性を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティFMラジオ局「株式会社エフエムもえる」地域の住民が主体的に関わる仕組みを構築し、1000人を超えるメンバーが100人のボランティアメンバー100人の運営委員会によって運営。住民が自主的に地域情報を集め、制作して放送する。365日24時間放送。放送を通じて発言に権限と責任を持たせることで、批評家ではなく主体的にまちに関わる人を増やす。2019年より全国322局が加盟する日本コミュニティ放送協会代表理事に就任。 ・情報ツールの開発、運営 住民主導のフリーペーパー、観光ポータルサイト、8市町村のつながり手書きマップ8つのゆるキャラが合体するフルCGアニメーション、地域食材をメディアと捉えたコミュニティカフェテリアなど。連携により強い地域づくりができるという活動を展開。市民が主体性を持つよう「受」発信には常に心がける。 ・拠点「船場公園」の運営管理 留萌市街地、留萌駅・留萌港に隣接し、国道交通結末点である船場公園を、留萌管内(8市町村)の入り口と捉え、観光・飲食インフォメーションのほか、インフォ対応コンシェルジュを設置。2018年には旅行業免許を取得。(ワンストップ観光商品販売や募集、宿泊の手配などを行うため) ・地域課題解決会社「株式会社コササル」域内体験観光商品の造成や販売、情報発信、商品パッケージデザイン、会議の運営などを行うほか、地域DMOの調査検討企画、地域ブランディング構築などを実施。ここで得られたネットワークを元に、現在は、地域課題をビジネス課題手法を通じて解決する多様な主体による「コミュニティ=シンクタンク」を設立中。
佐藤 皓嗣	さとう ひろし	有限会社日智(ニッチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境と住まい手ニーズをしっかりと検証したまちづくり計画の推進支援 ・地域ポテンシャル分析とともに、「住まい手ニーズ」と「主体者ニーズ」の掘り起こし ・地域資源(人、もの、歴史、観光、文化、環境など)の開拓 ・まち機能(医療福祉、教育、環境整備、生活利便施設など)の配置とゾーニング計画 ・まちづくりの担い手人材育成・継続できるまちづくりの仕組みづくり指導 ・地域コミュニティ創出に向けたサービスや収益事業、施設計画事業などの指導 ・中心市街地活性化基本計画の推進におけるプロセスマネジメントの指導
猿舘 祐子	さるだて ゆうこ	株式会社土澤まちづくり会社	中心市街地活性化を目的とする住民参加協働型第3セクター株式会社土澤まちづくり会社設立当初より、事業の立案企画を担当。中小企業庁新・がんばる商店街77選に選ばれた土沢商店街を中心とする土沢地区での「街かど美術館 アート@つちざわ〈土澤〉」、周辺農村地区で商店街を開催する「押しかけ商店街」などを実施している。また、商店街の活性化には、土沢地区の地域再生は不可欠と、(株)土澤まちづくり会社役員を中心に合同会社土澤長屋暮らしを立ち上げ、街なか居住と商店街の活性化を目的とした共同建替え事業店舗付き共同住宅「こっぽろ土澤」を10年越しに住民主体で完成させた。現在は、商店街(商店)と周辺農村(農家)の連携を図り、イベントによる地域発信、地域ブランドの開発を進めている。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
澤 克彦	さわ かつひこ	一般社団法人九州環境地域づくり 九州地方環境パートナーシップオフィス	<p>協働取組支援 ○企業やNPOからよせられる企画プログラム等について、多様な主体を連携させながら取組を充実させる。例)企業による社員研修のコーディネート。企業取組についての意見交換の場づくり。 ○モデル事業等を活用した、協議会活動についての助言・支援活動 例)環境省同時解決事業採択団体への支援等。</p> <p>環境教育・ESD取組支援 ○環境教育のネットワークやプラットフォームと連携した、経験交流の場づくり。NPOと連携した環境保全・教育プログラムのコーディネート。 例)環境教育ミーティングの企画運営。企業が支援する環境保全プログラムのコーディネート。</p> <p>SDGsの普及啓発 ○SDGsについての理解促進、多様な分野における活用、連携について講師等を務める。</p>
澤崎 聡	さわさき さとし	澤崎聡事務所	<p>行政・公共団体、地域企業を地域特性を生かした連携やゼロミッションなど発想の転換で取り組んでいます。農工商・観光・新産業を、歴史、まつり、食、文化を掘り起こし、地域のマインドを大切にアート・デザイン・ナレッジ・文化発想で事業化。オンリーワンの地域づくり、人づくり、ものづくりを展開。未来の主役、子どものための企画推進を実施。魚ブランド化や熊野古道宿泊、和紙復活、希少茶継続など地域文化経済への取り組みや、文楽世界遺産やロボカップ世界大会はじめグローバル戦略の現場経験から日本発プレミアムジャパン視点で事業戦略を実施。</p>
澤田 廉路	さわだ としみち	(一社)鳥取県建築士会/榊地域資源活用研究所	<p>【地域衰退を再生させた主な取組実績】</p> <p>■1. 地方中心市街地の再生実績 ・境港市、水木しげるロードの調査し、理論的にかつ情熱的に支援活動等を実施 ・倉吉市玉川白壁土蔵群を中心とする倉吉の街並み整備活動と活性化の実施 ・鳥取市鹿野町のまちなみ整備活動の推進(いんしゅう鹿野まちづくり協議会と一緒に「鹿野まち普請の作法」等も作成)</p> <p>■2. 中山間地域の再生実績 ・鳥取県智頭町で、智頭杉「日本の家」等を手掛け、智頭町活性化プロジェクト集団に所属し、日本0/1(ゼロ分のイチ)運動の活動支援、四面会議システム等の活性化手法に携わる ・いなばのジビエ推進協議会を全国に先駆けて立ち上げて、中山間地域の獣害対策と厄介者を活用した地域振興の支援を実施</p> <p>■3. 地域を活性化させる研修教育 ・行政、大学(教員・学生)、住民、NPO関係者等との課題解決型研修を行ってきた様々な異なる主体の人々を結びつけ一緒にグループワークを行なうことで課題解決に向かう手法を学ぶ研修を実施</p>
沢畑 亨	さわはた とおる	愛林館	<p>1:食 ・近所の素材を中心に加工食品(味噌、漬物、ドレッシング、クッキーなど)を製造販売。 ・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。 ・水俣の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。 ・そば/うどん/豆腐/こんにやく/バウムクーヘンを2時間で作る体験教室。 ・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。</p> <p>2:環境学習 ・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。 ・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。 ・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸ごと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。 熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。</p>
椎川 忍	しいかわ のぶ	(一財)地域活性化センター/ (一社)移住・交流推進機構/日本創生委員会/地域に飛び出す公務員ネットワーク	<p>人材育成と地域おこしをライフワークとして、土・日・祝日を殆どつぶして全国を行脚し、支援活動や講演を行う。 地域に飛び出す公務員ネットワークを結成。これに応援する首長連合の設立を提唱。国際日本文化研究センターでは「森里海連環」の研究に参画。政策研究大学院大学とも連携。 日本創生委員会では、林業復活・地域創生推進委員会アドバイザーとして活動。 木島平農村文明塾、やねだん故郷創世塾、葉っぱビジネスの(株)いろどり、TOSS(まちづくり教育)、ふれあい困基ネットワーク神奈川、高知県の地域産業おこし、山形創生NPO支援ネットワーク、東近江市魅知普請、山梨農業協力隊と故郷原文太さんの農業生産法人、日本フットバス協会、全国各地の市町村職員研修所など数多くの活動と連携。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
志賀 秀一	しが しゅういち	(株)東北地域環境研究室	観光を基軸としたまちづくり、計画づくり、観光マーケティングなど。観光施設などの整備に関する調査など。
篠原 靖	しのはら やすし	跡見学園女子大学	小職は約30年間に渡り、大手旅行会社で商品開発やマーケティング業務を行う一方、地域素材を活かした数々の着地型旅行商品をヒットさせて来ました。現在は大学で「観光地域活性化」に関する教鞭をとる一方、その土地にしか無い観光資源の発掘とリメイクを行いながら新たな観光誘客に必要な受け入れ態勢の整備(日本版DMOの構築)のお手伝いをしております。地方創生戦略で新たに注目を集めているのは交流人口を拡大し地域の小さな経済を回す新しい概念の観光による地域活性化の手法です。観光は今や農業、漁業や商業、工業など地域力を総結集して地域の魅力を120%創出する事が求められています。一方インバウンド観光客は2000万時代を迎え訪日外国人旅行者の消費額は3兆円を突破しました。しかし課題は外国人観光客の地方分散です。こうした新たな流れの中で全国の市町村においても出来る対策を今から準備する必要に迫られています。しかし多くの地域は一生懸命に取り組んではいないもの、残念な事に空回りしている地域が大変多いのが現状です。全国各地で実践してきた現場の成功事例、失敗事例をベースしながら、『自分の地域を本当に何とかしたい!』という熱い皆さんの地域を応援していきます。
柴田 いづみ	しばた いづみ	結まちづくり研究所・柴田いづみ まちなか研究室/SKM設計計 画事務所	主な取組 1 環境 →内湖再生の基礎調査 琵琶湖の内湖再生の為の活動。 2 中心市街地活性化 → 学生サークルACT(Action Connect with Town)との空きビルを使った中心市街地拠点活動。 3 まちづくり → (主に滋賀)NPO彦根景観フォーラム副理事長として、又、LLPひこね街の駅等での活動。歴史・景観・まちづくりフォーラム実行委員長。大学より拠点をまちなかに移し、地域に密着したまちづくりに取り組む。重要伝統的建造物保存地区(文化庁選定)の景観計画、交通計画、建物の修景計画等のアドバイス。(東京)目白まちづくり倶楽部で各種活動。 4 耐震・防災 →NPO東京いのちのポータルサイト理事として、各方面に提言。防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長、木造伝統構法の耐震事例づくり。
島田 幸子	しまだ さちこ	一般社団法人 環境パートナー シップ会議	関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)において、環境省の地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業及びESDの推進等に取り組んでいる。国連生物多様性の10年日本員会(UNDB-J)事務局、水俣病の経験を次世代に伝えるセミナーの企画運営等も行っている。
島谷 留美子	しまたに るみこ	(株)東北地域環境研究室	各地の観光調査、道の駅など地域の交流拠点施設等の企画、計画づくりにかかわっております。これまで岩手県平泉町の世界遺産登録に向けた観光まちづくり調査、宮城県大崎市、石巻市、秋田県横手市、山形県米沢市の道の駅建設事業、青森県東通村などの観光調査、農水産物直売所等建設計画などのお手伝いをさせていただきました。平成23年度には、東北7県(新潟県を含む)の農山村の女性起業家の動向を調査し、起業をめざしたきっかけ、困難にぶつかったときにどう乗り越えたのか、事業を継続する上でのポイント、これからの目標等についてインタビューを行ってまとめました。地域の皆様とともに考え、課題を解決していくことを心がけております。
志村 尚一	しむら しょういち	有限会社ウィルビー/株式会社 源喜舎/劇団ぜんとうようくらぶ	「一人一人のキラめきが輝く未来をつくりだす」をモットーに、資源の発掘と活用の仕方、住民一人一人が人材(役に立つ人)となれるような人材育成を、地域に密着して指導・アドバイスを行っている。これまで指導した地域の方々からは、「自分達が気づいてなかった地域の可能性に気づかされ、実践方法も具体的にアドバイスしてくれるので、確実に成果が上がる」との声をいただいている。 現在、岩手県西和賀町の産業公社・湯田牛乳公社の相談役として就任し9年目、令和元年より花巻市東和町第三セクターのコンサルタントも務めている。人材育成と、所得と雇用の確保を目的に、6次産業と相乗効果を生み出す協働という手段を用いながら、地元の資源を生かした産業振興を推し進めている。 平成23年から、三陸の震災被災地で地域コミュニティ再生・復興のための支援活動(延650回)を行っている。そのほかにも、全国各地で「6次産業化」「農林水産業」「教育」「福祉」「人材育成」など幅広いテーマで、講演・研修を行っている。 また、自身が主宰する劇団『ぜんとうようくらぶ』は、「介護保険」などをはじめとする様々な課題を題材にした演劇を全国各地で多数上演。他にも、「市民憲章運動推進全国大会」「全国農業青年交換大会」「農山漁村女性の日記念の集い」などで、記念講演や演劇公演を行う。 平成29年からは、行政や地域の依頼を受けて、「共生型地域コミュニティ」や「地域包括ケアシステム」の構築につながる住民の意識改革・行動改革を目的とした講演・研修も行う。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
下田 祥裕	しもだ よしひろ	真砂不動産株式会社/[元 NPO法人KAO(カオ)の会]	NPO法人KAOの会では、以下のエリアマネジメント活動を行っていました。 ※()内は活動の概要、【】内は仕組みを表しています。 1.公共空間の維持管理(駅前広場管理業務)【市委託+地域住民直接負担】 2.賑わい創出(イルミネーションイベント、夏祭り、コンサート、寄席)【公民連携、私企業協賛】 3.デザインコントロール(ビル外観や道並み景観の同調)【地権者間調整】 4.テナントミックス(リーシング、営業内容調整)【新規開発ビル商業床の一括借上げ】 このほか、各種講演活動や視察ヒアリングの受入れも実施してきました。 いわき駅前復興まちづくりに於いては、今までの経験を生かしつつ、白紙のキャンパスに描くべく、「地域を元気に」、「未来に夢を」を基本理念として、「30年先を考えたまちづくり」を目標として、今出来ることを一歩一歩進めるべく助言し、実行可能な企画立案を行い、行動することを目指します。
白川 皓一	しらかわ こういち	室蘭港立市民大学	【北辰商店会】 ・商店会地域にある「札幌通り」の歴史を紹介する看板の設置 【NPO法人羅針盤】 豊かな自然と共生し、工業産業だけではなく、歴史文化も発信できる「みなとまち室蘭」を自主自立の精神に基づき創造することを目的としたNPO法人です。 ・2002 シーサイドフェア-西胆振びっくり市開催(→2007 スワンフェスタとなる) ・2004 室蘭港立市民大学(任意団体)設立 ※自主自立の精神に基づく「室蘭大好き人間」づくり ・2008 中央ふ頭空き倉庫を活用したジャズクルーズの開催(約10年) ・2012 室蘭港鉄人舟漕ぎ大会開催 ・2013 「なぜば為る蘭の鐘」を中央ふ頭に設置
白仁 昇	しらに のぼる	一般社団法人おきなわ離島応援団	総務大臣 委嘱「地域力創造アドバイザー」(北大東村担当)においては、沖縄県の指定離島39島の中でも、もっとも生活環境の厳しい島のひとつである「北大東島」の事情に即した取組みを北大東村役場の村長はじめ、役場の職員と真剣に協議を行った。全国発売の雑誌などにその取組みが複数回紹介され、平成20年2月7日には、沖縄の離島市町村単独主催のシンポジウムとしては極めて珍しい有料(3000円)の「頑張れ！北大東島シンポジウム」を都内で開催し、満員御礼となった。
新海 洋子	しんかい ようこ	一般社団法人SDGsコミュニティ	SDGsの達成のに向けての、セミナー企画・講師紹介、教員を対象にしたESD研修、主に中小企業を対象にしたコンサルティング等。 企業を対象にしたファシリテーション研修、市民を対象にした参加型対話型学習研修・インタープリテーション研修、協働による地域の課題解決のためのプロジェクト企画・運営・コーディネート、高校生を対象にした環境学習プログラムづくり・実施支援、大学生を対象にした企業との協働による提案づくり支援等。
進士 徹	しんし とおる	一般社団法人あぶくまエヌエスネット	1. 地域防災対策。著書「まさかの時の生き残り塾」があり、災害教育の視点から地域コミュニティのあり方を探求します。東日本大震災・福島原発事故経験から、非常時に対する備えなど地域間交流を日頃から活発に行う事的重要性をお伝えします。日本＝災害列島。命・地域を守る事をシェアしていきます。 2. 都市交流「ライフシェアリング」事業の提案をしています。過疎中山間地域には課題が山積んでいます。課題を交流事業から解決してゆく手法の提案です。1年365日のあなたの7日間を地方で汗を流しましょう・・・ 3. 地域再生のあり方を、過疎地での自然学校活動経験からお伝えします。キッズツーリズムで日本を元気にする。 4. 指導者養成「自然体験・地域リーダー・人材育成・まさかの時の生き残り塾」上記事項を講演・セミナー・ワークショップ形式など受講者の参加型で行います。幼稚園・小・中・高・大学・専門学校、国立青少年自然の家、自治体、各種グループからの依頼。
須川 一幸	すがわ かずゆき	榊地域振興研究所/久留米大学	昭和58年から地域に入り、地域資源の調査の現場で「地域の宝物」を再発見する活動を実践してきた。イベントによる地域活性化から入り、商店街振興、観光振興、農業振興、福祉や教育・文化の振興など地域のあらゆる分野の活性化に企画・計画～実施～検証～時代に合った計画に修正～実施～検証と継続的に地域と関わってきた。特に、宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町については、グリーン・ツーリズムによる活性化にはじまり、商店街振興、観光振興、介護福祉計画、長期総合計画と町のすべての分野に関わり、町のシンクタンク的存在としての役割を担ってきた。その後、熊本県の農産物直売施設(道の駅物産館を含む)の立ち上げ、再建、運営指導などを行い、長崎・佐世保・豊仙アンテナショップ「キトラス」の販路拡大コーディネーターや福岡市商店街活力アップ支援事業の手伝い、JA熊本直売所の運営アドバイス、限界集落での高齢者による地域づくり活動支援等を行い、全国的には地域活性化センター「全国地域リーダー養成塾」の講師やNPO法人全国街道交流会議の理事として歴史街道市町村の街道を活かしたまちづくりにも参画している。また、JICAで中央アジアや中南米の行政研修の講師も務める。太宰府市では「米つくり隊」「カンボジアに井戸を掘る会」「東北の酒を飲む会」等地域づくりを地域住民と共に実践している。九州・沖縄地域づくり会議顧問、九州国立博物館を愛する会アドバイザー、博多献上道中実行委員、スリートピアプロジェクト実行委員を務める。現在は地域の最大の課題である地域組織再編について地域住民といっしょに進めている。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
杉本 匡規	すぎもと まさのり	みなとオアシス網走運営協議会	生まれ育ったまちに誇りと感謝の念を抱き、自分の子供のみならず、全ての市民にまちに対してまちへの思いによる行動を生み出すべく活動させて頂いております。青年会議所をとおして提出したスポーツによるまちづくりに関する政策提言をはじめ、若手有志によるまちのPR活動等、行ってきました。現在はまちの中心を流れる網走川筋から市民の憩いと賑わいを創出するべく、まちに対する誇りという精神的自立と環境整備による物質的自立から真に自立した地域へ向けた活動をしております。また、まちの将来を思う時、この国を思います。そこには、親も含め国家観を養う教育が必要であり、まちづくりにおいても、国家観の涵養あってこそ地域発展が成し得ると信じ活動しております。
鈴木 邦治	すずき くにはる	一般社団法人 頑張る地域支援し隊	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり ・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進 ・新エネルギーによる新産業の創出 ・地域資源を活用した6次産業の開拓 ・防災、減災を踏まえたまちづくり(スマートコミュニティ) ・道の駅やインキュベート施設などの活性化 ・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか
鈴木 達志	すずき たつし	NPO法人伊豆自然学校	<p>地域コーディネーターとして、農山漁村の地域における資源を有効活用した、持続可能な着地型体験プログラムを開発し、地域全体を巻き込んだ観光プログラムを確立させている。</p> <p>さらに、隣接市町との地域連携を図ることで、地域回遊も取り込んだ広域的視野の取り組みも行い地域活性化を目指す。</p> <p>NPO法人伊豆自然学校を設立し、地域住民と観光客との接点となるビジターセンターを運営し、インストラクター人材育成から安全対策研修会、6次産業化支援など様々な企画を実践している。</p>
鈴木 輝隆	すずき てるたか	立正大学経済学部/NPO法人 銀座ミツバチプロジェクト	<p>山梨県甲州市勝沼町「榊中央葡萄酒」の戦略とブランディング 八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」の建設プロデュースと運営協議会のコーディネート 北海道清里町「清里焼酎ブランド」形成や町の総合的ブランディングのプロデュース 愛媛県内子町石畳地区「小さな拠点を核としたふるさと集落生活圏形成推進事業」プロデュース 熊本県人吉球磨日本遺産活用協議会「日本遺産人吉球磨ブランドづくり推進事業」総合プロデュース(協力:建築家・隈研吾、デザイナー・原研哉) 北海道北竜町地域創造プロデュース(協力:建築家・隈研吾、デザイナー・梅原真氏) 北海道東川町地域創造プロデュース(協力:良品計画、レオスキャピタルワークス) 北海道標茶町茅沼地区観光宿泊施設アドバイザー(協力:建築家・隈研吾、デザイナー・原研哉)</p>
鈴木 泰弘	すずき やすひろ	小名浜まちづくり市民会議	<ul style="list-style-type: none"> ・小名浜まちづくり市民会議は、地域の各種団体30、企業、市民参加200名により、地域のタウンマネジメントを行っている。小名浜港アクアマリンパークの賑わいづくりでは港湾管理者との運営協定を締結し、年間250万人の交流空間として港を再生。中心市街地のまちづくりでは、商業の文化や地域の歴史を取り入れた活動を展開している。またいわき市のパートナーシップ協定により、行政と共同での地域計画作り、その進捗など官民が連携してのまちづくりを実施している。 ・小名浜美食ホテルは、港湾再開発事業としてスタートし公設民営の新しいモデルとして平成20年にスタート。食をテーマとした商業施設を開設させ、港のにぎわいづくりに大きく貢献している。津波と原発の風評にも負けず、平成23年12月にはたくましく再開を果たす。 更に24年10月には、第2回SEA級グルメ全国大会を小名浜港に誘致しその開催に当たり、地域の元気を発信し続けている。
関 いずみ	せき いずみ	東海大学海洋学部	<p>全国の沿海地域(漁村)をフィールドとして、地域活性化やまちづくりに係る実践活動、女性と地域・産業に係る調査研究などを実施している。</p> <p>【具体的なテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地市場の機能変化に関する調査 ・漁村女性の起業(6次産業化活動)に関する研究と支援活動 ・地域社会の高齢化問題と安心して暮らし続けられる地域づくりに関する研究 ・魚霊供養と地域水産業に関する研究 <p>など</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
関 幸子	せき さちこ	株式会社ローカルファースト研究所	1997年よりSOHO CITY みたか構想、中心市街地活性化事業に取り組み、株式会社まちづくり三鷹を設立、三鷹産業プラザの建設、三鷹電子商店街、三鷹子育てねっと、三鷹光ワークスなどのプロジェクト、2002年～2005年 経済産業省の地域新生コンソーシアム事業にて高解像度医療用顕微鏡開発事業 2007年12月 秋葉原タウンマネジメント株式会社設立: 広告事業などエリアマネジメント事業 2009年4月 財団法人まちみらい千代田 専門調査員就任: 「市町村サテライトオフィス東京」 2010年10月株式会社ローカルファースト研究所設立。全国の人口減少し過疎化する地域の活性化と地域産業の振興に取り組む 2011年 震災復興ワークス設立 東日本大震災で大きな被害を受けた自治体支援 2015年 東洋大学にて地方創生推進に向けた人材育成塾を開催 2018年 内閣府自治体SDGs推進評価・調査検討会委員に就任し、SDGs未来都市への取り組みを支援している
関口 昌和	せきぐち まさかず	一般財団法人どんぐり財団	低コスト・低維持管理のグラウンド芝生化を各地で実践し、芝生化をすることで、地域コミュニティの創出を図っている。また、パラスリートの活動の場所に芝生化したグラウンドを提供することで、障がい者との距離を縮め、地域全体で障がい者支援を図ってきた。
善養寺 幸子	ぜんようじ さちこ	株式会社 日本農水産食品輸出貿易センター	《地域の賑わいづくり・地域活性化》 ・都会の団地と地方の生産者を繋げ、高齢者対策と地域活性化の両方の課題解決に向けた「団地の産直ぶちマルシェ」の事業化に向け、複数企業と協働実践研究に取り組む中。
早田 吉伸	そうだ よしのぶ	県立広島大学	・「システムデザイン」「情報アーキテクティング」の考え方をベースに、様々な社会課題を解決するためのコンセプトワーク及びその実現のための事業プロデュースを多様なフィールドを通じて実践しています。 ・中長期的なランドデザインを描くことから、現場における「何をやったらいいかわからない」という状況の打破まで、マクロ・ミクロの課題を各ステークホルダーの方々と一緒に考え、試行し、解決に導くことをモットーにしています。 ・特にIT(情報技術)の領域においては、「利活用」「公共サービス」の視点からコンサルティングを実施し、地域活性化に向けた課題解決につなげていきます。
曾根原 久司	そねはら ひさし	特定非営利活動法人えがおつなげて	山梨県北杜市須玉町増富地域は、かつては農林業が盛んであったが、現在は担い手の減少や高齢化に歯止めがかからず、集落崩壊の危機が迫る地域である。高齢化率66%、耕作放棄地52%、という、いわゆる限界集落となってしまった地域である。そんな状況の中、2003年4月の構造改革特区認定のもと、都市農村交流活動を行うことにより交流人口を増大させ、地域の活性化につなげようとする活動が始まった。この活動の開始から約10年経過した現在、活動に賛同した農村ボランティア等も含めて都市部から約50,000人が訪れ、耕作放棄地5haの復活、その農地での新たな形での農業生産、また企業の連携による遊休農地活用等の成果も現れてきている。現在、連携している企業は、三菱地所グループをはじめ、博報堂などの大手企業に始まり、山梨県内の金精軒、清月などの菓子製造企業などである。また、全国の山梨、宮城、福島、三重、熊本、福岡、佐賀、東京などで、都市と農村つなぐビジネスプランを作る人材研修事業「えがおの学校」を実施している。受講された研修生は、700名ほどとなっている。また、そのうち200人ほどが、各地域で起業を果たしている。
高津 定弘	たかつ さだひろ	高千穂大学	国土計画、経済計画、地域開発、地域政策、経済政策など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
高橋 和勸	たかはし かずゆき	NPO法人 ワップフィルム	<p><企画／コンサルティング 事例> ■まちづくり 経産省「コンテンツ制作を通じたまちづくり支援事業」 ・街のチカラ 映像のチカラ ～内子で見つけた魅力が映像に～ ■観光政策 特別区協議会 「観光政策」</p> <p>・～映像を活かした観光振興～街を見せるから『魅せる』に～ ■産業振興 静岡ものづくり未来応援団事務局(静岡新聞グループ)「ものづくり連携開発」 ・ものづくりワークショップ</p> <p>■人財育成 広島県「創業意識啓発事業」 ・～自分たちで創る自分たちの未来～ 中小企業大学「創業支援事業」 ・未来に向けて一歩を踏み出すために必要なこと映画コンテンツを活用した、行政・企業・大学を対象とした研修、講義を行う。</p> <p><研修・講演事例> ■組織活性 イノベーション創出 ■人財育成 コミュニケーション・チームビルディング・キャリア開発 ■働き方改革 ■メンタルヘルスケア ■事業開発 商品・サービス企画開発 ■地域活性化</p>
高橋 聡	たかはし さとる	カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画カンパニー	<p>図書館を主軸とした、地域活性の核となる公共施設の企画開発・空間設計・運営を行っています。 年中無休・夜9時まで開館、書店やカフェの併設など民間事業と連携した公共施設を実現し、人口5万人の武雄市で、同図書館は1年間で92万人の来館者を迎えました。これは、リニューアル以前と比較すると360%の来館者数です。 知の拠点であると同時に賑わいを創出する公共施設として、まちのコミュニティとしての役割も担い、その町の方々によるイベントやワークショップも主催します。子どもからお年寄りまで多様な人が混ざり合う、地域活性化の起点となる「場」や「空間」づくりを展開しています。</p> <p>全国では神奈川県海老名市、宮城県多賀城市、山口県周南市において図書館運営。岡山県高梁市で図書館運営に加え、観光案内業務を企画・運営しています。 宮崎県延岡市では市民活動や待合を主とした市民の為の公共施設「エンクロス」を運営。</p>
高橋 修一	たかはし しゅういち	NPO法人 あぐりねっと21	<p>○国の各種交付金事業を通して多くの地域活性化実態を把握し、事業後も独自でモニタリングなどにより、地域作りの調査研究を行っています。 ○東日本大震災で被災した地域の復興のため、土地利用再編、新しいまちづくりの指導助言を行い、円滑な復興事業実施に向けた支援を行っています。 ○被災した自治会・町内会のコミュニティ再生のため、地域住民と一体となって祭りの再開など地域活性化活動を実施しています。 ○農村と都市の交流促進のため、各種の企画運営及び業務管理を行っています。</p>
高橋 幸照	たかはし ゆきてる	水土里ネット立梅用水	<p>・1993年 農村景観向上のため、住民ボランティアによる「あじさいいっぱい運動」を20年余継続し、勢和地域をあじさいの里として有名にしました。 ・1995年 農村環境保護のため、「ほてい倶楽部」というボランティア団体を組織し、荒廃田を利用したピオトープを整備し、水生生物の保護とイベントの開催を行い、都市と農村の交流を促進しています。 ・1996年 地元住民による手づくり演劇「ほてい葵」に参加し、郷土の偉人、歴史をテーマに講演を行っています。 ・1996年 「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに各種ボランティアの協働により、あじさいまつりを毎年開催し、都市と農村の交流を図っています。 ・2000年 学校教育と連携し、地域住民主導による食農体験を通じたコミュニティスクールを開催。 ・2005年 農村文化の保護と地産地消の拡大を目指し、農業法人「まめや」の設立に参加しました。 ・2007年 自治会、教育機関、図書館、老人会、ボランティア組織、コミュニティビジネス組織、営農組織、水土里ネット等多様な主体(20団体4支援組織)の連携による協議会(多気町勢和地域資源保全・活用協議会)を立ち上げ、地域資源の保全と有効活用(多面的機能支払制度)に努めています。 ・2011年 農業の高齢化と後継者不足解消のため、農事組合法人「元丈の里営農組合」を設立し、旧保育所を活用した農産加工所(6次産業施設「ゆめ工房」)を立ち上げました。 ・2012年 産官学民連携による立梅用水を活用した地産地消型小水力発電「彦電」の開発を推進しています。 ・2016年 農村の福祉を目的に一般社団法人「ふるさと屋」を設立し、その活動源に再生可能エネルギー「小水力+太陽光」を活用し町づくりを進めています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
高村 義晴	たかむら よしはる	日本大学理工学部まちづくり工学科	<p>①大都市等の企業・社員と地域のプロジェクトをマッチングさせる「二地域就労」による、新たな地方再生の仕組みづくりの取組み(二地域就労プロジェクトの提唱)</p> <p>②「地域の起業」興しによる地域主体の復興の推進(起業復興の提唱)</p> <p>③「人口減少社会における持続可能な都市・地域づくり」の新たな方法論として、その土地々々の美意識や作法、技、資源を生かした暮らしのスタイル(ライフスタイル)を築き、そのブランド化をととし、手仕事・生業、信頼と絆、誇りを生み出す都市・地域づくりを展開。</p> <p>④疲弊の進む郊外型住宅団地の再生法について、「住民の住民による街づくり会社方式」の提唱、土地の利用と所有の分離、また手仕事や楽しみ、暮らしの創造などを提唱。</p> <p>⑤その土地々々の多彩な暮らしのスタイル、暮らしの楽しみ方を築き、それに彩られる地域の営みや手工芸品を語る生活文化創造産業の普及運動(クールジャパン)と展開(経産省)</p>
高本 泰輔	たかもと たいすけ	㈱金沢商業活性化センター	<p>■遊休地の活用 商業施設「プレーゴ」の開発～運営</p> <p>■まちなかの駐車場対策 金沢まちなかパーキングネットの運営</p> <p>■民間主導によるワンコインバスの運行 金沢ショッピングライナー「まちバス」の運行</p> <p>■商店街と大型店が連携したまちなか情報の発信</p> <p>■まちづくり団体の事業構想、事業計画等の立案と資金調達</p> <p>■まちなかインバウンド対策 免税</p> <p>■まちなかキャッシュレス事業 QR決済、電子マネー等</p> <p>■まちなか遊休不動産へのテナント誘致</p> <p>■その他(イベント、各種調査・研究事業等)</p>
滝澤 恵一	たきざわ けいいち	中小企業診断士滝澤恵一事務所／(一社)長野県中小企業診断協会／NPO法人地域づくりクラブ	<p>「自分を生きる、ともに生きる」をメインテーマに、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、農工商連携、商店街や観光業者と農林漁業者の連携の支援。「暮らす、働く、生きる」「ゆらぎをつくる」「地域コミュニティ、ライフスタイルコミュニティ、ビジネススタイルコミュニティによりコミュニティを創る」「コミュニティとはともに生きていると実感できる場であり、場とは時間と空間である」「地域の絶対的個性は歴史と文化であり、これを見つけ、活かし、育てつなげるのは人であり、人的文化である」などの視点から、現場でワークをし、「感じ、考え、動くこと」を伝えている。また、「地域づくりは経営である」「経営とは、心と頭脳、身体を持った人の行為である」という視点で支援を続けている。</p>
武井 史織	たけい しおり	アドビ株式会社	<p>世界130都市以上で開催する延べ30,000人のクリエイターが参加するコミュニティイベント『Adobe Creative Jams』のアジア開催を主宰。また、「デザインの力」を軸に「地域活性」「教育」「社会課題」など、各分野に存在する課題解決の糸口を見つける課題解決型プログラム『Adobe Design Jimoto』を立ち上げ、各地域のクリエイティブコミュニティ・地元企業・地方自治体と連携し、産業を横断したさまざまな場づくりを手がける。</p>
竹内 珠己	たけうち たまみ	みなとオアシスもんべつ運営協議会	<p>平成12年より東京直行便搭乗推進の為、促進ツアー等を企画、催行が可能な二種免許の旅行会社を設立。エージェントと紋別-東京ビジネス便を策定、実現に携わる。</p> <p>平成21年よりみなとまちの地域振興事業に取り組むため、みなと・まちづくり女性ネットワーク・オホーツク会員有志で、株式会社を設立(㈱グローバル・ポート・ダイニング山桜桃)。街中のにぎわいを取り戻し地域の魅力確立を考え、地場の食材を提供しながら地域の触れ合い空間を創出。</p> <p>平成26年より、みなとオアシスもんべつ運営協議会代表として、港から地域の活性化を目指し、海洋コンサート、流氷まつりイルミネーション点灯式など、みなとの資産を活かしたイベントを開催。</p> <p>平成30年「みなとオアシスSea級グルメ全国大会inもんべつ」の開催に向け市民団体への協力要請、広報宣伝活動を実施。「ほたて味噌焼きうどん」を出店、グランプリを受賞し紋別の知名度向上に貢献。</p> <p>令和元年、クルーズ船寄港提案書及び北海道紋別市のほか西紋別圏域を含めた施設紹介誌を英語・中国語の2カ国版で作成。</p>
竹内 利明	たけうち としあき	国立大学法人電気通信大学 産学官連携センター	<p>■自治体の産業振興担当職員の産業支援能力向上を支援</p> <p>地域産業振興講座(関東経済産業局、中小企業基盤整備機構関東本部・日本立地センター・電気通信大学共催)で自治体行政職員の産業振興の企画・提案・運営力の向上に取り組む12年間で累計約250名の修了生を輩出した。令和2年3月で講座を終了する。このノウハウを活用して個別に希望する自治体を支援したい。現在、千葉県市原市「産業活性化会議」委員(地域産業部門会議議長)、多摩市BS多摩プラットフォーム企画運営委員、東京都中小企業振興公社の補助金審査委員等を務めている。</p> <p>■公立図書館が新たに地域の中小企業にビジネス情報等を提供する取り組みを支援する「ビジネス支援図書館推進協議会」を平成12年に創設以来19年間会長を務めている。図書館員のビジネス支援能力を養成する「ビジネス・ライブラリアン講習会」を19回開講して全国の図書館司書約500名が修了している。新しい図書館計画を持つ自治体や図書館の新しいサービス導入を考える自治体にアドバイスしたい。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
竹内 よし子	たけうち よしこ	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク	①アフリカ・モザンビーク支援関連:松山市や小学校等と協働し、放置自転車をモザンビークに送り、銃を回収するプロジェクトを支援。放置自転車対策からまちづくり支援、学校教育支援から地域ぐるみの取組みへと発展。現在は、持続可能な社会づくりのための「学び」と「実践」の拠点として現地で公民館を建設しコミュニティ開発に取り組んでいる。本事業については、学校から地域へと広がり、企業・メディア・ミュージアムなども関わって国際・平和・環境・人権・多文化共生教育の一環を担っている。②東雲公園関連:公園の一部(未利用地)を活用し、NPO法人えひめ311と愛媛大学とともに「コミュニティファーム」として取組みが展開できるよう、町内会、松山市公園緑地課等関係者との調整を図り、小学校児童の生活科の授業で環境ESDモデル学習の実践を行い伴走支援を継続している。③その他、各種学校との連携により多様な主体が地域のコミュニティづくりに関わられるよう支援・助言している。
竹田 純一	たけだ じゅんいち	東京農業大学／農山村支援センター	山村活性化支援交付金事業(茨城県、高萩市、日立市、城里町、埼玉県秩父市、小鹿野町、三重県いなべ市、福井県若狭町、島根県邑南町、大分県杵築市)他(農林水産省) 社会的協働による山村再生対策構築事業「山村再生支援センター」(林野庁) 里地里山保全方策の検討とモデル地域づくり(環境省) トキの野生復帰をめざした共生と循環の地域社会づくり(環境省、新潟県) 人と自然が織りなす里地環境づくり(農水省、環境省) アベサンショウウオの保全と地域社会づくり(福井県庁) 神奈川県里地里山条例検討委員、里地里山づくり事業、他(神奈川県庁) 日本の里地里山30保全活用コンテスト事務 局(読売新聞、環境省) イオン里地里山保全活動(イオン環境財団)、その他、エコスクール、再生建築の調査、水保セミナー、市民政策提言フォーラム、かおり風景百選、星空の街あおぞらの街全国大会(環境省)
竹本 慶三	たけもと けいぞう	させぼ四ヶ町商店街協同組合	郊外大型商業施設店舗に対抗すべく、アーケードでつながる百貨店と二つの商店街を「さくくシティ403」と名づけ一体的に活動するなど、商店街の組織化に尽力、まちを「出逢いと交流の場」にするため、大規模な市民参加型イベントを主催している。特に百万個の電球でライトアップする「きらきらフェスティバル」や27万人を集客する「Yosakoiさせぼ祭り」は全国的なイベントに成長した。その甲斐もあり佐世保の中心商店街は20万都市では「日本一元気な商店街」と言われるまでになっている。「まちを元気にする」講演・まちづくり指導に全国を飛び回っている。
田城 孝雄	たしろ たかお	放送大学	平成9年に国立大学医学部付属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げました。さらに地域包括ケアの先進モデルである広島県尾道市の取組みの解析を行い、多くの知見を得ました。東京都保健医療計画策定協議会改定部会委員や、世田谷区地域保健福祉審議会での議論を通じ、地域における保健・医療・福祉計画の立案に関与しました。また、板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会委員、足立区糖尿病対策協議会アドバイザー、横須賀市医師会医療連携協議会アドバイザー、さらに豊島区在宅医療推進協議会会長、文京区在宅医療推進協議会会長など、行政と三師会などとの協議会の運営に関わり、いろいろな立場の方々の意見を尊重しながら、地域の保健・医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいます。また、全国で招請され講演を行っております。 内閣官房地域活性化統合本部 地域再生推進委員会 委員長として、地域再生を推進する方策の検討に取り組んでいます。
館 逸志	たち いつし	公益資本主義推進協議会	平成18年～25年の8年間、北陸先端大にて地域再生システム論を開講。カリキュラムの作成、企画・運営に関わる。以来、大学を拠点とする産官学連携の地域活性化に関わってきている。具体的には、北陸先端大では、温泉地の活性化、伝統工芸と地域活性化、鳥取大では、地元出身の経済人の地域貢献活動の支援としての大山活性化講座の開講、熱海・湯河原では民間主導で県境を跨る広域的な地域活性化を進める取り組みを支援してきている。内閣府の経済社会総合研究所においては、こうした大学の地域活性化システム論の展開を横断的に支援するためにカリキュラム研究会を開催、平成24年度には「地域活性化システム論カリキュラム研究会報告書」 http://www.esri.go.jp/jp/prj/hou/hou061/hou61.pdf を纏めた。平成20年からは、木村俊昭氏らとともに地域活性化学会の発足に関わり、現在副会長、研究推進委員長として産官学の連携による地域活性化を各分野で推進するプラットフォームづくりをお手伝い。公益資本主義推進協議会が進めるマイコミュニティフォーラムでは大学と地元若手実業家の連携による地域活性化を促進。企業経営者の推進する産官学協力の地域活性化事業の推進をお手伝い。母校埼玉大学では平成30年度から地元創業経営者などから学生が生業、起業、事業継承などを学ぶ「実践ベンチャー論」を開講。現在、離島振興・地方創生協会の発足に参画。2020年度には離島の農水産物のバリューチェーン構築に取り組む予定。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田中 淳一	たなか じゅんいち	一般社団法人ローカルソリューションズ	これまでの企業経営・新規事業企画・PR企画などの経験を活かし、少子化対策・移住定住・女性活躍等の分野に於いて、農業ICTやシェアリングエコノミー等の新しいテクノロジーの導入によって地域の女性を取り巻く社会環境を向上させ、旧来型の社会規範が根強い地域の「文化のスマート化」を推進するなど、地域の人口流出といった課題に対して様々なテクノロジーを複合的に活用する取り組みを支援しています。
田中 丈裕	たなか たけひろ	特定非営利活動法人 里海づくり研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・アマモ場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、海洋生態系や沿岸環境の保全に不可欠であるだけでなく、ブルーカーボンとして温室効果ガスCO2の吸着固定にも重要な役割を果たしている。「アマモ場再生活動発祥の地」と言われる備前市日生町において、35年以上にわたって漁師達と共にアマモ場再生活動に取り組み、ほとんど消滅したアマモ場を250ha以上にまで回復させた。これを契機として周辺にもこの取り組みが広がり、2007年岡山市、2013年瀬戸内市が着手し、1980年代に県下で約550haまで衰退したアマモ場は2015年には約1,845haまで回復、2015年には笠岡市、寄島町、玉野市も参画して活動範囲はほぼ県下全域に拡大、さらなるアマモ場の回復に注力している。 ・アマモ場再生活動など里海づくりをベースとして、2013年からは小中高校の子も達、一般市民、農林業者など世代や立場・地域を越えた活動を展開するとともに、「みなと学習会」・「みなと親子学習会」などを企画開催し、海の生き物と触れ合いながら、港や海についての学びの場を提供するなど、学校教育・社会教育としての海洋教育の推進に取り組んでいる。 ・森里川海の連環を基軸に据えながら、備前市・笠岡市など「里海」と真庭市など「里山」を結び、さらには人と物の流れで里海・里山・「まち」を繋ぐことにより、真の循環型地域社会の構築を目指している。 ・シンポジウムや交流集会、ワークショップなどを企画開催するとともに、国内外の各地において講演や学会活動等を通じ、里海概念の普及と里海づくりに奔走している。
田邊 寛子	たなべ ひろこ	まちひとこと総合計画室／うなぎのねどこ／ご近所大学うなぎキャンパス	<p>【アドバイザーとしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合いましたその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。 例)長野県辰野町：横川溪谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。 ・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。 例)鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。 <p>【コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。 例)葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定 <p>【空き家活用シェアスペースうなぎのねどことしての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 築100年の空き家をDIYしながら改修しシェアスペースとして蘇生。3年間でイベント400回超、延べ1700人を超える人が出会いました。 <p>【ご近所大学うなぎキャンパスとしてのとりくみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが先生、誰もが生徒！趣味や特技を生かして講座を開く取り組みです。うなぎ講座を実験的に行い力を育みます。ご近所大学のような様々な活動が街中、日本中に展開することを目指しています。2019年、舞鶴本校・生口島瀬戸田CP・世田谷経堂CP・赤羽CP、そしてうなぎのねどこCPの5校があります。長野県辰野CP・鹿児島県徳之島CPが開校準備をしています。
谷本 訓男	たにもと のりお	八幡浜港みなとまちづくり協議会	<p>八幡浜港みなとまちづくりの会長として、市民フォーラムの開催、みなとまちづくりプランの策定、みなとまちづくりコンペの実施、市長へのみなとまちづくり提言書の提出など、産・民・官・学の連携による地域のみなとまちづくりを先導的に推進しています。平成18年より地元高校生徒に授業として「まちづくりとものづくり」の講演行っております。</p> <p>平成25年4月より非営利活動法人港まちづくり八幡浜でみなと交流館の指定管理業務。</p> <p>平成19年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。 平成24年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。 平成25年 公益社団法人日本港湾協会港湾功労賞受賞 平成25年 ポート オブ ザ イヤー 受賞</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
谷本 亙	たにもと わたる	まち&むら研究所	<p>地方シンクタンクに入り研究員から役員を務める。金沢を拠点において、地域産業、地域食品、地域文化を軸に国、県、市町村、経済団体の事業の支援を行ってきた。「困難なもの、わからないもの、初めてのものは「私に尋ねてみる」とばかりに、先駆的な事業や取り組みに関わることができた。調査研究、ビジョン策定、イベント・会議事業、診断提案事業など多様に行ってきた。特に酒造、発酵食品分野では先進的な取り組みや支援活動を進めてきた。</p> <p>地域産業の支援と自ら事業にも携わっている。長期間に渡って講演、委員、コーディネーターなどの依頼も多く様々な地域貢献活動にも関わっていた。また、異業種の新聞、テレビ、出版関係、編集者、ライターとの関わりが多く活動において連携してきた。地方にあっても常に国内外、時空間を超えた成果を見出した。富山県コロンパス計画、石川県西田幾多郎記念哲学館の構想から運営計画、酒蔵トラストと地酒列車の構想から実施、酒蔵維持発展システム調査、食を中心とする観光プログラム、産業観光の枠組みの構築、公営民営宿泊及び運営組織の診断と再構築などに具現化されている。</p> <p>ふるさと財団地域再生マネージャー診断事業派遣(長野県南木曾町、富山県南砺市、石川県能登広域圏、岐阜県輪之内町、兵庫県加東市、石川県志賀町、福島県伊達市、和歌山県古座川町、愛媛県東温市、三重県熊野市、鹿児島県十島村、石川県白山市、兵庫県加東市、鹿児島県人吉市広域圏、石川県志賀町)、北陸フェア・ホテルグランパシフィック台場、江ノ電北陸うまいもの号企画調整、実行支援(北陸経済連合会)などにも関わる。</p> <p>事務所立ち上げ、南砺市でのプロジェクトに参画しつつ農林水産加工事業、交流協会の立て直し、実業としてファイナリーの役員も務めている。大学ではシンクタンク在職中から地域経済論などを講義し、現在、ものづくり補助事業のコーディネーターとしても活動する。</p>
種市 俊也	たねいち しゅんや	有限会社 食と地域・建築研究所	<p>・水産業をはじめ第1次産業を主産業とする地域における地域活性化や生活・産業基盤整備、災害からの復興の計画立案に、主に行政を支援する立場から関わっています。</p> <p>・第3者の計画技術の専門家として、地域の関係者の意向・アイデアの把握、地域の情報収集・分析、実現のためのたたき台案をつくり、意見交換を通じて合意形成につなげる裏方の役割を仕事としています。具体的には、①地域の特色の把握・確認、②資源の探索と活用のためのアイデアだし、③活用方策の練り上げ、④実現のための体制づくり、⑤支援方策導入を目論んだ事業化計画づくりをお手伝いしています。</p>
田淵 正人	たぶち まさと	滋賀県愛荘町	<p>■観光振興・地域振興等に対する支援や指導、アドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくり ○ニューリズム・着地型観光・体験交流型観光 ○観光振興計画・観光ビジョン等の策定 ○観光振興・地域振興・人材育成等の講演会や研修会、セミナー等の講師 ○プラットフォームや広域連携等の仕組み作り、強化等 ○人材育成(担い手・コーディネーター)や農家民宿開発等 ○着地型旅行商品や体験交流プログラム等の商品造成 ○第6次産業化、農商工連携 <p>■まちづくり・地域活性化・地域再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域活性化支援アドバイザー ○地域資源活用アドバイザー
玉村 雅敏	たまむら まさとし	慶應義塾大学 総合政策学部	<p>・自治体の地域戦略の立案・推進や官民連携モデルの構築支援、SDGsやグローバル戦略、企業のソーシャルマーケティング戦略やCSV戦略の立案、社会インパクト評価、生活価値や幸福度の評価手法開発、地域マイレージ、ミュージアムマーケティング、学校評価、政策マーケティング(青森県・東海市等)、ぶり奨学プログラム(長島町・氷見市・大崎町)、スポーツによるまちづくりなどのシステム設計を手がける</p> <p>・全国各地にて、実効性のある総合計画の構築や、トータルマネジメントシステムの構築、計画群の総合化など、自治体経営のシステム構築に従事</p> <p>・地域の生活課題や生活価値、幸福度などを、関係者協働で調査し、その「みえる化」と「共有化」から協働・共創を促すシステム構築を支援</p> <p>・公共施設のリノベーションや、ミュージアムや図書館等の文化・観光施設、企業のコミュニケーション施設の基本構想検討を支援</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田村 和彦	たむら かずひこ	株式会社丹青社 文化空間事業部	<p>(1)PPP(PFI、指定管理者)事業を通じて、地域活性化に取組んできました。こども施設、観光施設、防災学習施設、ミュージアムなどの施設づくりから運営までを担う中で、地域の人材、大学、商店街、企業、団体などとともに、地域に賑わいをつくり、人づくり、商品開発などに貢献する事業を企画実施してきました。</p> <p>(2)中小企業診断士として、商工会議所等の派遣専門家に登録し、地域の飲食店、小売り、卸売、サービス業など様々な事業者の経営相談や商品開発、販路開拓、創業サポートなどのアドバイス、支援を行っています。</p> <p>(3)また、某自治会による地域活性化拠点施設の検討会や、某銭湯事業者による地域の人たちが集まれる施設事業づくりなどのプロジェクトに参加し、アドバイス等を行っています。</p>
田村 文男	たむら ふみお	NPO法人 アジア・太平洋まちづくり支援機構	<p>木造住宅密集地域の地権者、関係権利者に対して、阪神・淡路大震災の教訓を生かして、木造住宅密集地域における改善・防災・環境の向上・過密した市街地の有効活用や建物の共同化及び整備に関する研究を行い、安全で快適なまちづくりに寄与するとともに、高齢者・障害者介護及び医療施設の基盤整備を促進する事業を行い、要介護高齢者・障害者福祉及び医療の増進に寄与することを目的とするとともに、我が国のみならずアジア・太平洋地域諸国において、住環境改善、市街地の整備・有効活用、人材開発等にかかる研究、助言、推進等を行い、アジア・太平洋地域における安全で快適なまちづくり等に寄与することを目的とする。</p>
近兼 孝休	ちかかね たかやす	株式会社琴平グランドホテル	<p>○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、春の歌舞伎公演を30回実現 ○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、秋の歌舞伎公演を2回実現 ○自社掘削の温泉を地元旅館に供給して「こんびら温泉郷」をつくる ○「こんびら温泉祭り」の開催 ○「石段マラソン」を実行委員長として開催</p>
坪田 知己	つばた ともみ	慶應義塾大学SFC研究所	<p>2003年から2009年まで「日経地域情報化大賞」を主宰し、地域情報化の事例を幅広く取材、顕彰してきた。この経験を伝えるため、各地で講演してきた。2003年から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで「地域活性化に取り組む学生や大学院生を指導してきた。2010年から、東京・杉並区や横浜・大倉山など「商店街活性化のプロジェクト」に「参画し、その一環として、主にママさんたちに「文章の書き方」を教え、商店街の魅力を情報発信することに注力している。杉並区の和田商店街は「東京都商店街グランプリ」を受賞した。また、総務省・地域情報化アドバイザーとして「北海道、静岡県、京都府、福井県など」文章講座を開き、情報発信できる人材の育成に努めている。小学校では高齢者の「聞き書き」講座も実施。</p>
鶴田 浩一郎	つるた こういちろう	NPO法人 ハットウ・オンパク	<p>NPO法人ハットウ・オンパクは、別府八湯地域において温泉を核とした様々な産業を起す事を目的としています。この取組みを通じて実現したいのは以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の資源(温泉、自然環境、町並み、人材など)を活かした多彩なプログラムの提供を通じて、各種のサービス産業が成長すること 2. オンパクに参加する事で住民が健康で前向きな暮らし(ウェルネスライフ)を送る事ができ、生活の質(QOL)の向上につながる事 3. 旅行者がオンパクに参加し、各種の体験や交流の機会を得る事で別府八湯のファンになっていただき、リピート化や長期滞在化を実現すること
寺井 良夫	てらい よしお	一般社団法人SAVE IWATE	<p>東日本大震災を機に市民のボランティア団体「一般社団法人SAVE IWATE」を立ち上げ、理事長として物資支援、生活相談、心のケア、仕事づくり、学習支援、チャリティ活動など、幅広い支援活動に取り組んでいます。</p> <p>そのなかで、被災者の雇用確保と地域の産業再生のため、埋もれていた資源を活用した仕事づくりに力を入れています。</p> <p>そのひとつが岩手に豊富にある「和ぐるみ」を活用した商品化です。和ぐるみのむき実、殻付きの販売のほか、和ぐるみソフトクリームやくるみのおさげを開発しました。殻もアクセサリやガーデニング用品、クラフト用品として商品化しています。</p> <p>また、クルミの木の樹皮を使ったカゴ細工にも取り組んでいます。クルミの木の栽培により原材料の安定確保がはかられ、生産が軌道にのってきています。かごづくり教室も開催するようになり大変好評です。</p> <p>一方、防災の取り組みも行っています。自然災害が発生した際には災害ボランティアセンターのサポートに入るほか、平時においては災害ボランティアの訓練や啓発活動を行っています。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
刀根 浩志	とね ひろし	観光ビジネス総研株式会社／ (独)中小機構	07年～現在 経産省「地域資源活用法・農工商等連携促進法」認定支援事業 15年～現在 沖縄県「沖縄元気プロジェクト」「観光コンテンツ開発支援事業」ほか 16年～現在 (独)中小機構 中小企業大学校「着地型観光ビジネスセミナー」開講 18年～現在 島根県出雲市 「出雲市・観光満喫プロジェクト事業」 18年～現在 観光庁「広域周遊ルート人材派遣事業」(和歌山県・島根県ほか) 18年～現在 京都府北部「海の京都DMO(京丹後市・伊根町)」 「観光プラットフォーム整備・国内およびインバウンド集客事業」 福井県越前海岸 「地域ツーリズム創造・観光プラットフォーム整備」
殿村 美樹	とのむら みき	株式会社TMオフィス／一般社 団法人地方PR機構	PR(パブリック・リレーションズ)の基本コンセプトであるWin-Winのコミュニケーション概念を生かし、地域が自律的に活性化する仕組みづくりをプロデュースしています。日本の地域には長い歴史と奥深い文化があり、どの地域にも必ず、世界に引けを取らない魅力が眠っています。ただ、その魅力を引き出すためには客観的な視点と時代のニーズを把握する視点、さらにはタイミングを見据えた情報発信技術が必要になります。私はこれまで約30年間にわたり、約3,000件の実績を積むことで、これらを成功させることに成功しました。 また、2019年(一社)地方PR機構を設立し、日本初の職業能力開発促進法に基づくPR講座を立ち上げ、大阪府認定「広報PR基礎講座」として開講しました。大阪の講座だけでなくWeb講座、出張講座を行うとともに、具体的なPRプランの立案アドバイスをを行っています。
土肥 健夫	どひ たけお	株式会社 事業開発推進機構	一般的な商業集積、観光施設作り等に加えて、事業化・収益化が難しいと考えられている、以下のようなソフト事業の自立的な事業化に取り組んでおります。取り組みの“事業としての仕立て”を最も得意としております。 ・御当地検定：明石タコ検定(兵庫県明石市) ・食によるまちづくり：「鍋焼きラーメン」によるまちづくりと「浪花麺だらけ(大阪市)」、「新横浜ラーメン博物館(横浜市)」への出店支援(高知県須崎市) ・観光案内人、各種アクティビティ ・インストラクター等のプログラムを絡めた、伝統的建造物群保全地区における漁家民宿整備(京都府伊根町) ・地域活性化と連動したスポーツ・マネジメント(石川県金沢市等)
富田 宏	とみた ひろし	株式会社 漁村計画	漁村・漁港に係る地域振興計画や中小漁村を中心としたまちづくりに関するコンサルタント活動を中心に、大学などの研究者や現場でのシンポジウムや住民との膝詰めのパネルディスカッション、雑誌・著作等を通じて漁村の地域振興に関する提案及び具体的な直販・交流施設等の企画・基本・実施設計などにも取り組んでいる。 日本大震災以後は、ボランティアによる被災漁村復興支援活動と共に、主に水産庁、市町村委託による漁村復興計画策定と並行して、大学、各種学会他のシンポジウム等に積極的に参加、発言を続けている。また、最近では、水産庁の主要施策となっている「浜の活力再生プラン」の策定について、それぞれの漁協等を中心とした再生委員会の活動の相談に応じ、プラン作成を一過性の書類作成に終わらせるのではなく、息の長い漁業・漁村づくりにつなげるための助言・支援を行っている。
富永 一夫	とみなが かずお	特定非営利活動法人エスピース オー・フュージョン長池	・八王子市多摩ニュータウン地域で暮らしを支援 ・八王子市都市公園の指定管理者 ひとまちみどり由木(長池公園+80公園・緑地 合計77ha) ・公園経営学校を主宰
長岡 力	ながおか つとむ	株式会社リンクアンドイノベーション	地域と中小企業のイノベーションを目指す経営コンサルタント。 これまでの主な活動実績 1. 特定非営利活動法人への支援 ・特定非営利活動法人グローバル・ヒューマン・イノベーション協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人グローバル新世代イノベーター育成協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク(東京都杉並区)、特定非営利活動法人ピアサポートネットしづや(東京都渋谷区)が行う各種活動の支援 2. 中小企業経済団体への支援 ・群馬県商工会連合会、福島県商工会連合会、沼田市東部商工会(群馬県)、片品村商工会(群馬県)、昭和村商工会(群馬県)、群馬伊勢崎商工会(群馬県)、前橋東部商工会(群馬県)、高崎市榛名商工会(群馬県)、長野原町商工会(群馬県)、みえ熊野古道商工会(三重県)、南あわじ市商工会(兵庫県)等が実施する事業支援 3. 大学への支援 ・青山学院大学(東京都渋谷区)、別府溝部学園短期大学(大分県別府市)、大分大学(大分県大分市)が実施する各種事業への企画段階からの参入支援 4. 中小企業への支援 ・ものづくり製造業等への経営戦略構築、経営革新計画、ものづくり補助金、持続化補助金策定支援 5. その他 小規模事業者持続化補助金事業書審査委員、6次産業化プランナー、東京商工会議所エキスパート、ミラサポ専門家他

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中川 玄洋	なかがわ げんよう	特定非営利活動法人学生人材バンク	<p>特定非営利活動法人学生人材バンク (1)大学生ボランティアを継続的に農村集落へ派遣 平成14年より農山村ボランティアとして大学生を年間30地域、延べ500名/年派遣しています(農村16きっぷプロジェクト)。その中から、大学生が地域で企画を実施したり、田んぼを借り生産から販売までを行なう三徳レンジャープロジェクトも生まれています。 (2)若者の移住、起業支援 鳥取大学卒業生が集落へ移住し農業後継者になることや、起業支援、就職支援を行なっています。2015年より、地域おこし協力隊後方支援を、株式会社鳥取銀行と一緒にこなっています。 平成25年から「全国地域仕掛け人市」という求人イベントを実行委員会形式(事務局NPO法人ETIC.)で行ない、地方と都市をつなぐ仕掛けとして継続中です。 (3)イベントボランティアのコーディネート 立ち上げ時から、鳥取県のイベントボランティアコーディネートの仕事も行ってきました。老若男女の市民参加の舞台を作る仕組みをお手伝いすることが可能です。 (4)中小企業向けの若者派遣プログラム 長期実践型インターンシップ事業を活用し、1か月から6か月の大学生による中小企業の活性化事業を行ないます。また若手社員の異業種研修として、鳥取パラレル留学というプログラムも中小企業・県内金融機関と連携して実施しています。 (5)地域のつなぎ役、バランスをとる役割として 大学生、行政、民間、NPO、住民などの参画の場づくりやサポートの役割を担っております。</p>
長坂 尚登	ながさか なおと	豊橋屋 / WE LOVE MIKAWA	<p>愛知県豊橋市の商店街マネージャーとして、まちなか活性化のために奔走。 ■「豊橋まちなかお店マップ」「豊橋まちなか看板娘マップ」の作成 ■空き店舗を改修した交流拠点「花園ベース: HANACOYA」の設置、運営【グッドデザイン賞2014】 ■空き店舗・空き家見学ツアー ■「豊橋に日本一の図書館をつくろうプロジェクト」 などを実施。地元の学生や若手社会人らを、戦力的に活用し、成果を上げている。 <経歴・実績> H21農水省: 農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会との共生プロジェクト(豊橋市) H20,21内閣府、H22,23総務省: 高齢者対応の長期滞在旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) H19経産省、H20全国商工会連合会: 食物アレルギー対応旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) その他、国内消費財メーカーなどBtoC企業へのマーケティング調査多数。</p>
長坂 泰之	ながさか やすゆき	学校法人中内学園 流通科学大学	<p>地域の課題が複雑化する中で、商業機能を含むまちの機能の集約を中心に、地域再生・創生、中心市街地の再生、震災復興支援、まちなか観光、地域資源活用などをプロジェクトチームを組んで支援をしています。また、事業リスク、事業の成立性、投資採算性、コミュニティの創造、エリア価値の創造、そして人づくりの観点から、プロジェクトをチェックし、時代の変化に対応し、かつ身の丈に合った計画づくりを心掛けてご支援をさせていただいています。 これまで、全国各地の中心市街地活性化基本計画策定支援、中心市街地実効性評価事業・中心市街地診断サポート事業などを通じた中心市街地に対する支援のほか、阪神淡路大震災では新長田地区の小売市場や商店街の再生支援、東日本大震災では津波被災地のまちなか再生計画策定支援などを行ってまいりました。その他南海トラフ地震の事前復興に関する研究会などにも参画しています。</p>
中島 淳	なかしま じゅん	㈱カルチャーアットフォーシーズンズ	<p>活動のミッション: 日本の地方により多くの「挑戦」をつくること~主体(当事者)と仕組みづくり~ 観光まちづくり、特産品づくり、移住促進、集落自立化、地域運営・経済事業、地域おこし協力隊サポート、地域の高校魅力化サポート、ローカルベンチャー支援等。 分野は幅広いのですが、全てにおいてその「主体」づくりに注力しています。「誰が」それを行うのかを決めるプロセスを省くと、仕事は楽になりますがその取り組みは継続しません。 毎年全国10ヶ所ほどでお世話になっておりますが、いずれの地域も3年間ほどのミッションを負って、現地に入り込みます。特に最近は集落の自立化(自立自治)に関する場面が増えております。とても難しい問題ですが、将来の地域の在り方が問われる重要な問題だと捉えております。 【2018年度】長崎県平戸市、宮崎県綾町・木城町、熊本県甲佐町、高知県香美市、愛媛県伊方町、和歌山県印南町、千葉県南房総市、北海道利尻町・厚真町、新潟県阿賀町 ほか ローカルベンチャー推進協議会(全国11団体)プロジェクト</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中嶋 成夫	なかじま しげお	塩沢商工会	この通りでは、雪国の町屋様式で雁木を備えていたが、近年の生活環境の改善による改装等の影響により、その魅力は損なわれ賑わいを失った時期もあった。しかし、「雪国の歴史と文化を活かすまちづくり」をコンセプトとして、官民協働で街路と建物等を一体的に整備することで、旧三国街道塩沢宿を感じさせる雪国特有の街並みとその魅力を復元。また、牧之通り組合では、街路事業と同時に沿道の建築物を2m幅で壁面後退(セットバック)したスペースに、連続する雁木の建築(復元)を行い、街の統一されたまちなみ形成と冬の降雪期に対応した、雪国ならではの特色ある快適な公共・公的空間を創出し、まちづくり活動にも積極的に取り組んでいる。これらの社会資本の整備と協調した「射干の会」主体で始まった地域活性化イベントの成果もあって、現在では最盛期に優るとも劣らない賑わいと交流活動を再生している。
中坊 真	なかぼう まこと	NPO法人九州バイオマスフォーラム	NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関して、ノウハウを持っています。 バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円に放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。 木質バイオマスに関しては、薪・木質ペレットストーブの普及啓発や、薪・木質チップの製造・販売支援、木質バイオマスボイラーの導入簡易診断などを行っています。 2016年4月に発生した熊本地震では、震災により発生した解体材などの木くず処理のコンサルティングを行いました。また、災害支援ボランティアのコーディネートも実施しました。 2016年から資源エネルギー庁の再エネコンシェルジュ事業として、自治体や企業のバイオマス事業に関する無料相談を行っています。詳しくは再エネコンシェルジュ事業で検索してください。
中村 健二	なかむら けんじ	株式会社フードランド	-
中村 隆行	なかむら たかゆき	広島経済大学 NPOセンター	／ ひろしま ①中間支援組織として立ち上げ相談、運営支援、資源提供・助成金制度、共同事務所運営、など資源循環システムの運営、情報提供などに取り組む ②非営利組織のマネジメント、評価について研究。若者育成のためプロジェクトベースドラッシングに取り組んでいる。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖縄県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
名越 涼	なごし りょう	-	<p>■取組概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材含めた地域の魅力の掘り起こし、それらの発信方法のディレクション ・エンタメを切り口にした発信やイベントなどのプロデュース ・SNS、動画、WEBなどを活用したメディアづくり <p>■これまでの実績</p> <p>【MC・ファシリテータ】</p> <p>農林水産省主催「新農業人フェア」MC 日経アグサム「農業高校から始まる未来の農業イノベーション」ファシリテーター マイナビ農業「DEEP VALLEY Agritech Award2019」MC 時事通信社「食の安全・安心を考える」MC Yahoo! Japan主催「地域デザインラボ展」MC など多数</p> <p>【執筆】</p> <p>時事通信 Agrio/農林中金 Agriweb/東京都「多摩の魅力発信プロジェクト」 旅メディア Wonderlust 神社仏閣コラム/東京都農林水産メディア「TOKYO GROWN」マイナビ農業</p> <p>【媒体出演】</p> <p>新田舎人 100号記念スペシャル対談「新しい時代のふるさと・水と土を語る」 美の旅(ライフスタイルマガジン)「美の習慣」</p> <p>【企画・プロデュース】</p> <p>農業生産法人「なまら十勝野」HP monkuwa HP 農作業着ファッションショー(北海道興部町)</p> <p>【講演・パネルディスカッション】</p> <p>全国水土里ネット主催《今後の農業・農村での女性の活躍に期待すること》 岩手県土地改良事業団体連合会主催《今、全国で活躍する農業者たち》 低コスト水管理省力化システムの開発・普及コンソーシアム主宰《スマート水田 社会実装に向けたシンポジウム》</p> <p>【講師】</p> <p>Schoo《日本の農業って進化していて面白い》 パソナ【しまねアグリビジネス実践スクール】にて「情報発信の手法」</p>
納戸 義彦	のと よしひこ	NPO法人島の風 / 合同会社島の元気研究所	<p>■「古民家をリサイクルし、地域住民が運営するコミュニティ・ツーリズムを推進するプロジェクト」(古民家再生プロジェクト) ■「沖縄古民家再生職人養成カリッジ」 ■「農的暮らしキャンプ」 ■「住民による島の宝再発見事業『しまあかり』」 ■「風の学び地の学び『島塾』」(新規人材育成事業) ■「地産地創」(島の元気研究所)等、それぞれの事業は決して大きくはないが、それらを互いに力強くリンクさせることで「島を残し守り伝える」ことをミッションにした「開発に頼らない持続可能な島づくり」という大きな総論に根ざした事業構築をめざしている。</p> <p>地域活性化の戦略、メソッドが華やかな現在、あえて総論の議論に立ち戻り、地域に今必要な、あるいは次世代に引き継ぐために必要な「Something for Nothing」(何かのためではない大切なこと)といえる事業展開である。</p>
芳賀沼 伸	はがぬま しん	株式会社芳賀沼製作 / NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク (株)マストロ・ジェベット / NPO法人南会津はりゅう里の会	<p><株芳賀沼製作 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内でログハウスの先駆者として、ログハウス村「はりゅうウッド村」を37年前より建設し、現在99棟となる。 ・2011年東日本大震災後、福島県木造仮設住宅でログハウスでの仮設住宅の提案者メンバーとなり、600棟を建設する。 ・2015、16年度縦ログ構法が林野庁「林業白書」に掲載される。 <p><NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元林業従事21団体(3森林組合含む)と木材(立木)の価格を守り、収入を増やす為、古くて新しい産業づくりを展開(素材での有効活用法)。 ・森林認証材の具体的活用法を提案、実施(A・B材-縦ログ・家具、B・C材-日用品・玩具、C材-アロマ、薪利用) <p><株マストロ・ジェベット 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内加工業者4社と都市在中デザイナーと組み、海外(ヨーロッパ・中東・アジア)を見据えた木製玩具の販売展開中。 <p><NPO法人南会津はりゅう里の会 概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元住民とターン・二地域居住者(土地を借地方式とした「はりゅうウッド村」の住人)による、山村での豊かな生き方・暮らし方の実践を現在進行中、事務局の役割をになう。アロマ事業を開発し、地元住民が採取した枝葉でオイルを精製し、出口販売先と共同で新しい職づくりを展開。 ・山村大学から継続している野外教育事業を発展し、広大なフィールドを活用した新たな観光産業を展開。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
長谷川 潤一	はせがわ じゅんいち	一般社団法人食農共創プロデューサーズ	<p>《取組の概要》 食料産業クラスター、農商工等連携、6次産業化、地方創生などの政策や現場において、地域連携や産業連携に向けた地域の食農ビジネス創出支援の取り組みを行ってきました。 また、これらの取組の進め方、意図等の理解を促す、講演活動や人材育成支援を行うとともに、これらを進める人材を育成し、客観的に評価する「食Pro.制度」を創設・運営しています。 上記をとおして、全国数千名からなる有識者、実務者のネットワークを持ち、公的組織の立場から、各地の課題解決に取り組んでいます。</p> <p>《よくあるご依頼》 ■講演 食農ビジネスによる地域活性化の考え方、取組を進めるための戦略、地域産品のブランディング戦略、戦略の見える化、産業連携・地域連携の人材マネジメント ■研修 戦略立案と戦略分析手法、STPIによる実需者戦略、計画の見える化手法</p>
蜂谷 潤	はちや じゅん	一般社団法人 うみ路 / 合同会社 シーベジタブル	<p>2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社「一般社団法人うみ路」を設立。 主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。 2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。 室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水(地下水)を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。</p>
服部 彰治	はっとり しょうじ	札幌大通まちづくり株式会社	<p>政令指定都市の中心市街地において、初めて設立された「まちづくり会社」。まちづくりに貢献し、収益を確保する事業を実施し、自立的に運営を行っている。さらに、まちの新陳代謝を生むため、収益をまちづくりに還元し、まちの活性化に繋げている。平成23年12月には、都市再生特別措置法に位置づけられている「都市再生整備推進法人」に全国初で認定され、都市再生整備計画への提案、特例道路内での利便増進協定施設の運用などを行う。</p>
服部 年明	はっとり としあき	有限会社 リテイルウォーク / 株式会社 全国商店街支援センター	<p>① 02年から5年間長野TMOタウンマネージャー就任。大型空店舗が相次ぎ撤退した中央地域と、空洞化した善光寺門前の活性化に取り組む。まちづくり会社を設立し、地域住民の要望に応え、市と連携し大型空き店舗に公益の交流と子育て支援施設と直営の食品スーパーを開設、同時に500人を雇用するコールセンターを誘致した。次いで善光寺門前の連鎖する空店舗及び蔵、居宅を活用し、パティオ形式の商業施設を開設。同駐車場整備等5事業を事業化。一方で民間事業を誘発しまちなか居住、空店舗へのテナント誘致に取り組み、空洞化した中央地域再生の口火を切る。一方で後継のタウンマネージャー育成に取り組む。 ② 商店街支援センターにおいては、全国各地での地域商店街活性化活性化計画策定と事業推進の指導、支援にあたる一方で、個店の魅力向上と繁盛店づくり、次代を担う人材の育成に取り組む。 ③ 中活アドバイザーとして、伝道師として上越市、焼津市、沼田市などの中心市街地活性化計画検討の指導、助言にあたる。</p>
花井 恒三	はない こうぞう	奄美のトラさん	<p>① 奄美と本土・沖縄の人材マッチング(ヒューマンネットワークウェア) ② 本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方(マドンナ、男性 含む)への奄美の入口案内ボランティア。</p>
林 賢司	はやし けんじ	(株)FoundingBase	<p>地域に新たな活動を起こす時、そこには「新たなアイデア」と「実現に向けて活動を牽引する人材」が必要となる。また、ただ活動を展開するだけではなく、住民との調整を行ったり、役場と議論して目的を整理する必要もある。私たちは「地域おこし協力隊制度」を活用し、都心部から優秀な大学生・若手社会人を地方に送り込み、現地で彼らの活動の支援する仕組みを作った。これにより、若者が「新たなアイデア」を作り、かつその若者が中心となって役場や住民と一緒に活動を展開していくことができていく。これまでに、カリフォルニア大学バークレー校・東京大学大学院・慶應義塾大学大学院など出た学生・若手社会人『述べ56人』が、島根県津和野町・岡山県和気町・岡山県吉備中央町・鳥取県に入り、主に教育・観光・農業・林業の分野で、地域住民と一緒にまちづくり活動を行っている。 ■ これまで支援してきた活動(例) ・津和野高校魅力化事業(島根県津和野町) http://tsuwano.ed.jp/ ・津和野型自伐林業推進事業(島根県津和野町) http://tsuwano-ringyo.net/ ・地産地消推進事業(岡山県吉備中央町) http://www.kibichuomarche.com/ ・地域情報発信事業(島根県津和野町) http://tsmoyo.jp/</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
林 光一	はやし こういち	一般財団法人 地域活性化センター(兼務 一般社団法人移住交流推進機構)	<p>地方債協会時代では、全国で展開する地方債資金を活用した地域づくりに関する各種施設を取材してまいりました。平成3年から地域活性化センターでの地域づくりへのかわりには、企画調査課時代での、自ら考え自ら行う地域づくり事業の事例収集整理などをはじめとして、冊子の編集、映像コンテンツの作成、新聞広報の取り纏め、自治体の各種計画づくりの支援、民間が実施する地域づくり活動への支援、人材育成プログラムの実施などに関わってきました。</p> <p>また、28年度には総務省が設置した首都圏から地方への移住を希望する国民を対象とした相談窓口「移住・交流情報ガーデン」で、移住希望者との相談業務を行いました。29年度下期からは総務省が「移住・交流情報ガーデン」に設置した「地域おこし協力隊サポートデスク」で地域おこし協力隊制度の活用に向けての相談業務を行っています。</p>
林 春野	はやし はるの	エーゼロ株式会社	<p>映像や写真、イベント、プログラム実施、様々な手法で地域に暮らし働く人達が増えていけることをお手伝いしてきました。</p> <p>また、現職のエーゼロ株式会社では地域での起業＝ローカルベンチャーを代表に、地域で自分らしく生きたいと思う人や企業の伴走をしてまいります。</p> <p>メインで担当： 西粟倉ローカルベンチャースクール 西粟倉ローカルライフラボ 等</p>
林 弘樹	はやし ひろき	ものがたり法人 FireWorks	<p>商店街を舞台にした住民参加型映画「らくだ銀座」プロジェクトでの全国展開を機に、北海道から沖縄まで様々な事業を行っている。この事業の特色である『地域づくりに興味のない住民層をも「地域づくり」に巻き込む手法』や『個人や企業、学校等での「関係性の中から創り出す物語」の生成メソッド』が人材育成の研修として注目されている。特にそのプロセスづくりを大切にしている。</p> <p>プロジェクトの取組みの中で、多くの人がひとつのことに向けて、時間・体力・頭脳を使い、関わり、仲間をつくり、共に汗を流す、そんな「創発型のまちづくり」をプロデュースし続けている。経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方策に関する研究会」委員として、地域からの 相談に対し幅広く活躍する。地域の人を巻き込んだ場づくりを得意として、地域情報発信や自分たちの地域で創造する力を意識する講演会、討論会、ワークショップなどを行っている。</p>
林 浩志	はやし ひろし	一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<p>近年の食品に関する様々な問題、O-157や産地偽装など食品の安全・安心に対する不安が高まっている。一方、忙しい社会生活、長引く不景気、ファーストフードやコンビニエンスにより家庭で料理をしない人々が増えてきている。さらに、魚介類についてはその数はより多い。このため、わが国が培ってきた食の文化が薄れ、食育(魚食)といった活動が行われてきている。このような状況にあっても家庭や外食・中食産業、食育の場へ安全で安心な水産物を提供するには、やはり漁港での衛生品質管理は重要あり、ここで品質が低下した魚介類は、その後回復することはない。このようなことから、水産物の衛生品質管理を軸に水産物の提供と一体となった地域づくりに取り組んでいる。</p>
原田 弘子	はらだ ひろこ	マネジメントオフィスHARADA	<p>以下のような取り組みを通じて、自立可能なまちづくりを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンセンサス形成 イベントや情報発信により、まちのブランドイメージを形成します。ワークショップを通じ、参加者の自発的な取り組みを誘発し、持続可能な取り組みにつなげる。 ●市民協働 NPOや市民、外部団体との連携により、活性化事業及び担い手を発掘し、活動を支援します。 ●民間事業開発 中心市街地活性化の取り組みと、企業、行政との利害を調整し、民間事業者等による中心市街地活性化事業を開発します。 ●開業支援 開業相談、ビジネスプラン作成、戦略的な空き店舗対策を企画立案
引地 恵	ひきち めぐみ	株式会社WATALIS／一般社団法人WATALIS	<p>震災後は、巨理町職員として救援物資を担当し、体育館内で物資の搬入・搬出などに携わる傍ら、地域文化伝承講座の開設や宮城大学と連携した学習支援(稲盛財団東日本大震災復興ボランティア助成事業)、日本ヒブノセラピー協会主催のメンタルケアセミナー(独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業)の運営などのボランティア活動を実施した。巨理町職員退職後、WATALISを立ち上げ、東日本大震災の被災地域において、着物地を再利用した手しごとによる商品を企画・販売し、長時間の就労が困難である高齢の女性や乳幼児を持つ母親などに対する就労支援を行い、地域経済活性化の一助としている。受け継がれてきた地域の文化や人々の思いを商品という形にし、様々な世代の女性たちがその製作者となることで、地域社会が潜在的に持つ高齢者の知恵や縫製技術などの人的パワーを掘り起こし次世代に受け継ぎながら、既存の枠組みを越えたあらたな地域コミュニティを創り持続発展させる事業を実施している。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
平野 彰秀	ひらの あきひで	特定非営利活動法人 地域再生機構	<p>2008年より、自然エネルギー導入(小水力発電・木質バイオマス)を核とした地域づくりに取り組む。2011年より、100世帯250人の集落、岐阜県郡上市白鳥町石徹白(いとしろ)在住。</p> <p>2014年春、石徹白農業用水農業協同組合を設立し、集落100世帯のほぼ全戸出資による小水力発電事業を立ち上げた。石徹白集落では、過去10年間のUターン者が人口の約2割となり、子供の数も増加に転じている。</p> <p>2016年、郡上八幡の旧紡績工場をリノベーションしたコワーキングスペース「HUB GUJO」を開設し、都市部企業のサテライトオフィスを誘致。進出した企業の技術を活用し、教育分野において、遠隔教育システムの導入・プログラミング教育の実践などに取り組んでいる。</p> <p>2017年より、郡上カンパニーディレクターとして、関係人口構築と起業支援に取り組んでいる。</p> <p>岐阜県郡上市をベースにした活動が中心であるが、他地域に対して支援可能な活動領域としては、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山村における地域づくりと自治再生の支援 ・地域住民主導による小水力発電の導入・木質バイオマスポイラー導入の支援
平野 龍平	ひらの りゅうへい	富士急行株式会社／一般財団法人コレゾ財団	<p>数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前のことをごく当たり前に続けている人たちこそ、貴重で、尊い存在であり、行動し続ける先には、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、ということに気が付きました。</p> <p>いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。</p> <p>「COREZO(コレゾ)賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウマイ食を食べ、ウマイお酒を酌み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。</p> <p>「COREZO(コレゾ)賞」は、「権威なし」、「名譽なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。</p> <p>案の定、日常、交流することもない、分野も業種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。</p> <p>自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO(コレゾ)賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。</p>
平原 秀則	ひらはら ひでのり	平原建設株式会社	<p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分の方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者にお願いし、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を営む地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせて頂きました。</p>
廣瀬 祐治	ひろせ ゆうじ	特定非営利活動法人らんとん	<p>2013年から3年間、地域おこし協力隊として岡山県久米南町において「地域コミュニティ活動の支援」をおこなう。主に地域住民コミュニティの活動支援(地域行事の創出や運営支援、特産品開発支援など)をおこないながら、その一方で自らも20~30代の町内在住者に声掛けをし、2014年に任意団体を立ち上げ。一方で地域おこし協力隊の活動と並行して、岡山市内にて法人を立ち上げ、デザインの営業を担いながらその手法を学び、このノウハウを活かし久米南町の地域団体支援に対して事業および商品企画を提供。その後2016年、地域おこし協力隊の退任に合わせ、上記任意団体を母体として特定非営利活動法人らんとんを設立。現在では町民や地域団体だけではなく、農家や事業者向けにもサービスを拡大。</p> <p>また、自らも主体的に事業展開がしたいと考え、2018年に株式会社KC3を設立。あまご(ヤマメ)の養殖販売、岡山市内での飲食店(https://tabelog.com/okayama/A3301/A330101/33016111/)経営をおこなう。現在、久米南町での中間支援組織運営、一次生産と飲食店経営、岡山県内の地域おこし協力隊の活動支援をおこなっている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
福留 強	ふくどめ つよし	聖徳大学 / NPO法人全国生涯学習まちづくり協会	①大学と地域の連携によるまちづくりの連携 ②高齢社会の活性化の提案、「創年運動」の提唱 ③「子ほめ条例」のまちの推進、まち全体で子どもの健全育成 ④NPO法人全国生涯学習まちづくり協会での活動、まちづくりイベント、研修の企画、実施、地域の調査など、行政職員の研修 ⑤観光でまちづくり、着地型観光と指導者養成を実施 ⑥日本・韓国生涯学習まちづくり国際フォーラムの実施
藤井 信雄	ふじい のぶお	大橋学園グループ ユマネックプラザ	・都市計画課で近鉄四日市駅西の四日市工業高校跡地開発を担当 ・企画調整課で名古屋圏の主要5都市(名古屋市・豊橋市・岐阜市・浜松市・四日市市)による都市間ネットワークや総合計画策定などを担当 ・商工課で中心市街地活性化基本計画策定や四日市工業高校跡地開発のリニューアルオープン、技術集積活用型産業再生特区などを担当 ・市民文化課で市民活動による地域再生計画や丹羽文雄記念室整備などを担当 ・四日市港管理組合で四日市港長期構想の策定などを担当 ・政策推進部で2011年度から2020年度までの総合計画(基本構想・基本計画・第1次推進計画)の策定、並びに第2次推進計画の策定(2014年1月)、四日市市産業活性化戦略の策定(2014年3月)、四日市市産業活性化戦略に関する提言書に掲げられた先導的事業の推進(2014年度)などを担当 ・ユマネックプラザで三重大学、東京大学、三重県産業支援センターなどとともに産学官連携拠点に関する諸調整を担当
藤倉 潤一郎	ふじくら じゅんいちろう	法政大学大学院政策創造研究科	・コミュニティの潜在力や総合力を引き出し、地域住民等が協力し合って主体的に地域社会課題を解決していけるよう、様々なコミュニティビジネス/ソーシャルビジネスが生まれ出される環境を整えていく取り組みをお手伝いします。 ・また、個々の事業の立ち上げ支援、各地の活動の知見を共有化し、地域間の連携により様々な共同事業を展開していくための仕組みづくりなどにも取り組んでいます。
藤崎 慎一	ふじさき しんいち	株式会社 地域活性プランニング	◆今国内外から、観光の起爆剤として期待される「ロケツーリズム」の成功地域事例の共有、観光へ活用するノウハウをアドバイスすることを目的とした「ロケツーリズム協議会」の会長を務める。 のべ412団体(地方自治体・企業)が参加し、年5回セミナー・グループワーキング形式にて会員が学び、各地で実践を行う。その成果をフォーラムでアワード表彰するほか、参加団体・個人にはロケツーリズム認定証を発行している。 ◆上記のノウハウを踏まえ、以下の取り組みに携わる。 「まちづくりはひとづくり」をキーワードに“よそ者、わか者、ばか者”を活用した住民参加型の自立型地域を目指す。一過性で終わらない継続的な活動を実現するために、ビジネス視点でのコーチングにより成果を上げていく。 ・【静岡県】「四季を通じて観光客を魅了する河津グルメ&魅力発信プロジェクト」 河津桜で有名な静岡県河津町は、桜の季節に観光客が集中し、それ以外は閑古鳥だったことが大きな課題だった。認知度の向上をめざし、地元住民が自発的に情報発信を実行する体制を作り上げた。ドラマ『孤独のグルメ』で紹介されたご当地グルメ「わさび丼」をきっかけに観光客が押し寄せ、ドラマ放送までわずか2軒だったわさび丼が食べられるお店が15軒に急増。聖地化されることになった。さらに地元の「わさび」そのものが見直され、わさびを使ったグルメ開発で、平成27年4月、まちおこし集団が株式会社化した。 ・【静岡県】「富士宮観光戦略プロジェクト」 まだB級ご当地グルメがメジャー化する前に、富士宮やきそば学会が、ご当地グルメ「富士宮やきそば」を観光資源として活用すべく立ち上がった際に、講師として招聘。地域人材を活用し、「資源発掘→ターゲット設定」という手順で、地元グルメを活用した観光街づくり一体化に向けたプロジェクトを成功に導いた。 ・【大分県】ロケツーリズム推進協議会設立で観光客UP! 2014年に放送されたNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の影響により、同県中津市にある資料館に1年間で30万人もの観光客が訪れた。マスメディアへの露出が、観光に与える影響は大きなものであったが、県内にある市町村単位のフィルムコミッションや他関係団体が相互に連絡・協力を図る体制が確立できていなかったことから、「大分県ロケツーリズム推進協議会」を設立。ロケツーリズムの第一人者として招聘を受け、マスメディアの効果的な活用方法について、各団体に所属する職員へと向けた人材育成を実施した。 ・【千葉県】成田空港ブランド戦略会議 「成田空港をブランド化へと向けたPR戦略と、情報発信体制の造成アドバイザー」。成田ブランドを伝える自立した情報発信組織「成田空援隊」を結成し、官民が一体となってロケ誘致を行いシティプロモーションへと繋げる仕組みづくりに導いた。また新たな特産品「成田ソラあんぱん」の開発に携わり、成田市女性職員を中心とした広報担当「成田ソラガール」を結成し、成田市のみならず都内、そしてアメリカ・ロサンゼルスでのPRイベントも成功した。 ・【東京都】「映像作品著作権活用ワーキンググループ」 映画やドラマの撮影実績を、まちのプロモーションに活用すべく、都内の行政担当者と

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
藤田 勲	ふじた いさお	藤田株式会社	<p>【球磨人吉 地域づくり委員会】 平成27年5月18日 球磨・人吉が、相良が生んだ保守と進取の文化、日本でもっとも豊かな隠れ里人吉球磨として日本遺産に熊本県で認定第1号となりました。より多くの人達が人吉球磨に来て頂けるよう、官民一体となった地域づくり、木の文化を全国、世界に発信する初めてのモデルになるよう、「日本、木の文化と地域づくり」を人吉球磨の各市町村の民間、行政、政治家、宮司、住職の皆さまにご出席いただき、開催いたしました。</p> <p>【ラオスフェスティバル2015】 平成27年5月23日～平成27年5月24日 東京都渋谷区代々木神園町 代々木公園イベント広場でラオスフェスティバル2015が開催されました。藤田勲もラオスフェスティバル実行委員会の 副会長、主催者の一人として参加し、ラオス外交関係樹立60周年記念のお祝いにヒメザクラ(看板)高さ2.2m、高さ1.8mの計2枚をお贈りさせていただきました。また伝道師として実行委員会の皆さまへ日本、木の文化の素晴らしさをお伝えをさせていただきます、本桜の拍子木もお贈りさせていただきました。日本、木の文化とスポーツ文化の振興を日本、そして世界に向けて力を入れ発信してまいります。</p>
藤田 とし子	ふじた としこ	まちとひと 感動のデザイン研究所	<p>1) 戦略的情報発信事業による、まちのにぎわい創出&回遊性の演出 ・「情報の受け手」である市民・消費者を「情報の発信者」に！を合言葉に、市民参加型まち歩きMAP＝【ペーパー版facebook】プロジェクトを各地で展開しています。 ・市民有志が自ら住み慣れたまちなかを歩き調査し、集めた情報を自身の言葉でMAPに綴ることで、既成のマップと差別化。情報の受け手の共感→共振→感動のスパイラルを醸成し、「訪れて楽しいまち」のイメージ形成へとつなげていきます。</p> <p>2) まちのブランディングと新たな担い手の育成 ・地域の多様な主体の参加によるワークショップを開催。地域の現状・特性の把握を行い、「このまちならではの」の魅力発見と地域活性化の手法を皆で見出し、まちのブランディングへとつながる事業を展開していきます。 ・事業展開の過程において、地域活性化の新たな担い手を見出し、地域ぐるみで育成していく「しくみ」と「ネットワーク」の形成にも、力を注いでいます。</p>
藤原 啓	ふじはら けい	株式会社シーズ総合政策研究所	<p>まちづくり会社運営など、中山間地域の現場で蓄積してきたノウハウをもとに、中山間地域における地域資源活用や課題解決を目的とするコミュニティ・ビジネス、ソーシャルビジネスの検討から立ち上げ、実施に至るまで支援して参りました。さらに、中山間地域の現場で元気にコミュニティデザインを実践する若き担い手世代とのネットワークを活かし、首都圏在住のソーシャル層を対象にした講座「しまこアカデミー(島根県)」を平成24年に、雑誌ソコトとともにプロデュース。首都圏在住のソーシャル関心層を対象に、島根県との関係人口づくりを都内講座と現地実習によるプログラムで展開してきました。しまこアカデミーは2019年には東京講座(8年目)、関西講座(5年目)に加え、広島島根講座がスタートし、姉妹講座を含めると6講座、受講修了者数は270名を超えています。その約3割が島根に移住。5割以上が関係人口として首都圏でつながりプロジェクトなどを展開しています。このほか、これまでに関係人口講座として、岩手県、福島県、富山県、広島県、鹿児島市、東広島市、高知県内、島根県内などの企画運営を行っています。</p>
藤村 望洋	ふじむら ぼうよう	早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク)	<p>災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設営したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。</p> <p>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「復興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「復興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸復興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。</p> <p>瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。</p>
藤原 一夫	ふじわら いつお	藤原コンサルティング	<p>中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
船崎 美智子	ふなざき みちこ	ライフスタイル協同組合/(株)ライフスタイル研究所/NPO法人やまぐち県民ネット21/公益財団法人山口きらめき財団/山口県立大学	得意分野は、地域づくりを生かしたワークショップのファシリテーターである。地域、行政、企業、大学とNPO等をつなぐための仕組みづくりや、協働事業への取り組みを実施。地域の資源を生かした「地域づくり」、女性の視点で商品やサービスを提案する「モノづくり」、若者の就職支援や企業の人材育成などの「人づくり」の活動をする「地域プロデューサー」として活動している。 特に「農工商連携」や「6次産業化」の講師やシンポジウムのパネリスト、栄養士としての視点を生かして商品開発の企画・運営・経営戦略等の提案を行っている。また、最近では「協働のまちづくり条例」等の講演や協働事例の提供、中山間地域づくりなど広い分野で活動している。 ①6次産業化の取り組みと商品開発 ②まちづくり、地域づくりの実践ワークショップ ③商店街活性化のコーディネーター ④地域コミュニティの場づくり
麓 憲吾	ふもと けんご	NPO法人ディ!	奄美島興しイベント「夜ネヤ、島ンチュ、リスペクチュ」開催。 あまみエフェムの放送業務など
古川 康造	ふるかわ こうぞう	高松丸亀町商店街振興組合	定期借地権の導入で「土地の所有と利用の分離」をはかり、まちづくり会社によるエリアマネジメントを実践し、衰退した中心市街地の商店街再生に取り組んでいる。
古川 直文	ふるかわ なおぶみ	(株)楽市白河	【まちづくり会社の運営】 経理全般・銀行対応・事業企画・店舗管理運営 【中心市街地活性化】 中心市街地活性化協議会の推進・イベントの開催・講演・経営指導 【楽市白河の事例】 1. カフェ・宅配弁当事業 2. 公共施設の管理運営(指定管理者) 3. 空き店舗対策事業・チャレンジショップ事業 4. マンション建設・管理 5. 商業施設の建設・管理 6. その他中心市街地活性化事業
古庄 浩	ふるしょう ひろし	(株)古庄企画	大手ホテルの総料理長、山形県庄内・食の親善大使、テレビ料理番組レギュラー出演、地域の食文化の講演会など経験豊富。 「地産地消」。現在の主要流通ルートは、大量生産と大量流通を前提として組み立てられており、その中に小規模生産者も料理人の調理場も小規模販売者も組み込まれ、互いの連携や流通ルートを持っていない状況である。地産地消を、生産と販売だけの仕組みだけでなく、料理の現場と料理のノウハウと料理人のネットワークという視点を加えることにより、特にこだわりの小規模生産者に対して、生産方法や生産物の種類の考え方と新たな販路を協働で構築することが可能となり、商店街の店舗や飲食店舗は、大手スーパーにない独自色を出したメニューや品ぞろえが可能となる。地域の食材を使っているフルコースディナー付き商談会の開催や、伝統的食材とその料理方法をプラスした直売所の運営などを通して、食材と料理と商店街が協働で行う地産地消の推進による地域活性化の取り組み。 「新たな全国流通ルートの構築」。料理人の全国ネットワークの活用によって、料理人が推薦する食材を、料理人が推薦するレストランやスーパーで販売する、小規模な生産者と、料理人と、販売者やレストランの連携による新たな流通ルートの構築。「北前船ルートぼうさい朝市ネットワーク」の全国各地と連携する大阪圏のシェフを「蔵奉行」に認定し、ふるさと食材使った料理とその食材の販売を推進するシェフのネットワークを構築している(現在35名のシェフを認定)。
古野 克彦	ふるの かつひこ	株式会社 にぎわい総合研究所	「にぎわいをプロデュース」する会社をめざしています。 今まさに地域からの創生力と発信力、地域の暮らし方が問われています。地域の人々の生きがいづくりでの活性化、観光活性化、集客催事、景観づくりという地域創生の視点から見直しの必要性を感じています。 地方自治体業務を中心に活動しており、今までに愛知県岡崎市、豊川市、一宮市などの商業や観光活性化ビジョンの策定。静岡市南アルプス山麓地域などにおける観光活性化やブランド創生などの調査、構想策定に従事。 平成30年は、民間企業の100周年記念事業イベントのプロデュースや自治体の観光事業の実施プロデュースを手がける。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
北條 規	ほうじょう ただし	大正大学 地域構想研究所	<p>1982年から通販事業を立ち上げ、当時は通信販売がまだマイナーな評価であったが、通販で先行しているアメリカを中心に製品を仕入れ、自社通販で販売し、日本でも独自性の高い付加価値型通販会社として注目を集めた。当時はカタログ中心であるが、スピード重視で毎月3本のカタログを発行、毎月100アイテムの新商品を開発し、どこよりもニュース性の高い商品情報を独自の編集スタイルで発信していた。その独自性が評価され、2012年にJASDAQIに上場。製品の差別化を図るために全国の産地を回ってオリジナル商品を開発し、市場に投入することで地域性の高い製品を数多くヒットさせることができた。また、2007年より経済産業省関東経済局の「地域資源活用」「農商工連携」の事業評価委員に就任し関東局管内の事業評価ならびに支援活動に携わることで、地域資源の活用、六次産業化をはじめ全国の事例やビジネスモデル、事業スキームなどの豊富な知見とノウハウを有している。加えて、2012年から大正大学地域構想研究所の教授に就任したのを契機に、大学のプラットフォーム(大学が運営するアンテナショップ、学生のフィールドワーク、研究調査活動、全国90自治体との連携)と連携しながら、地域資源の発掘、地域産品や観光地域づくりの再編集などその分野が広がり新しい付加価値化の取り組みを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した新商品の企画、開発(食・プロダクト) ・地域のブランディング、地域デザイン ・マーケティングとメディアへの情報プロモーション ・新規事業の事業計画の策定とプロデュース
星野 智子	ほしの ともこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NPO活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。</p> <p>地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体で開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネートは今では全国で見られるようになった。現在では東京2020大会に向け、ボランティアにサステナビリティの視点を普及啓発している。</p> <p>安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。</p> <p>H11年6月地球環境行動会議主催 UNDESA共催「グローバル・コモンズ世界環境会議'99」企画・運営 H11年10月地球環境行動会議主催 UNFCCC/COP5(ボン)でのサイドイベント 企画・運営 H12年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(ベトナム) 企画・運営 H13年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(タイ) 企画・運営 H14年8月ヨハネスブルグサミット NGOフォーラム 現地ブース出展・ワークショップ企画・運営 H15年地球環境行動会議主催 「エコユース会議」 企画・運営 H16 ドイツ日本学会(発表)日本の環境NGOについて(ミュンヘン) H19・UNUグローバルセミナー 講義(沖縄・神奈川)(英語) H20・G8洞爺湖サミット NGOフォーラム G8市民サミット 企画・運営 H21・大阪経済法科大学 講義(大阪)(英語) H22・CBD-COP10 UNU主催サイドイベント 里山知事サミット 企画・運営 H23・水銀条約政府間会合(INC2) 環境省主催サイドイベント 司会(英語) H25国連大学グローバル・セミナー 2013湘南セッション H26・ESDユネスコ会議併催イベント UNU共催(11/12) 企画・運営・登壇</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
細尾 勝博	ほそお かつひろ	地域再生研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・都市農村交流を中心とした観光産業による地域づくりのコンサル・アドバイザー活動。 ・地産地消の仕事人として直売所の意義・目的・条件【12か条】・使命・価値観や共通課題についての解決方法など助言・指導。 ・ボランティア・プランナーとしての6次産業化の認定承認や意欲的な事業推進による所得の向上や地域活性化推進などの指導。 ・豊かな自然や景観を持つ中山間地域での「2地域居住」推進・都市住民の「真の新しい心のふるさとづくり」・地域資源を最大限に活用した「ファン・リピーター作り」の助言・指導。 ・共生対流の交流イズムを駆使しながら「定住化促進」「地方創生」の道を「地域主体の交流づくり」を構築するための助言・指導。 ・都市農村共生・対流総合対策交付金の対象地区8地域のハード事業、ソフト事業の指導・助言。 ・全国各地からの要請により、アドバイザーとして年間40回以上講演及びワークショップ・シンポジウム等をコーディネーターやボトムアップ型町づくりを進めている。 ・国のアドバイザーや県の自治研修所の講師なども務めている。 ・「活性化伝道師」として、企業誘致を行うことによって新たな「都市・農村交流」が図られ、仕掛け作りを間違わなければ、永年続く事が認識できた。今年、2社の大阪企業を誘致し、OB(企業の都市住民)、地元、現企業との交流会を開催し、農村の良さを売る事が出来た。来年は、企業を通じた体験交流活動を盛んに進めていきたい。 ・近畿圏内の大学生と提携を行い、学生達の知恵袋と地元住民の体験力、行動力などによってそれぞれの地域を「心の温まる心のふるさと」として、残るように持っていく。また、「卒論のテーマ」地として、学生達に宣伝をさせる事によって卒論を描く学生達が多く集まってくる。 ・6次産業化の推進を行うに当たって、都市住民の知恵、識見などを持った人を募集し、地元住民の6次産業化力と合わせた特産品づくりを行い、販売戦略や宣伝手法を相互に協議していくような特産品販売も1つの思考と考える。
堀口 悟	ほりぐち さとる	ランドブレイン株式会社	<p>データに基づく分析とワクワクを起点にPDCAを回し、まちづくりや生業づくりを仕組み化で支える裏方専門のプロデューサーです。地域が主語となって、目的を実現するため、地域の歩幅にあった方法論を提案します。</p> <p>得意なこと①: まちやむらの総合診療医としての確かな初期診断の実施 →データに基づく分析や話の聞き取りによって、複数の角度から大切な情報を引き出し、交通整理することで、課題の本質を見える化します。</p> <p>得意なこと②: 道の駅や地域商社・DMOによる稼ぐ地域づくりの支援 →道の駅の新設・再生、地域商社やDMOの創業経験を活かし、1次2次3次の事業者を核に地域全体の外貨獲得の仕組みづくりを支援します。</p> <p>得意なこと③: 合意形成を基軸に地域を主語にしたブランド化の支援 →関係者の合意形成を大切にしながら、開発や販促の「攻め」と商標制度等の“守り”をバランスよく押さえ、地域のブランド化につなげます。</p> <p>得意なこと④: 一歩踏み出すために走りながら考える伴走型の支援 →関係者が共有できる目的設定と、いまできる一歩目のアクションを決めて、動きながら改善・実践する行動マネジメントと一緒に伴走します。</p>
本田 勝之助	ほんだ かつのすけ	本田屋本店 有限会社	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。 2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。 3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。 4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業) 5. クリエイティブ: PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種) 6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。 7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務
本田 節	ほんだ せつ	有限会社 ひまわり亭	<p>1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーと共に地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げました。</p> <p>「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん・おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないのは「もったいない」、地域の素晴らしい食材を活かさないのは「もったいない」、取り壊し寸前の築120年の古民家が「もったいない」、ということで古民家を移築したお店を拠点に地域の素材を出来る限り活用し、安心安全な食を提供しています。</p> <p>また、「食」を通して、地域づくりへの貢献や食育活動、女性の起業アドバイスにも力を注いでいます。</p> <p>さらに、2002年頃からは、グリーンツーリズムの推進にも積極的に取り組んでおり、地元地域を巻き込んで「広域連携によるグリーンツーリズム実践」を推進しています。日本各地、さらには韓国等国外からの視察研修を受入れており、学生のインターンなども積極的に受入れております。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
前神 有里	まえがみ ゆり	(一財)地域活性化センター/愛媛県伊予市移住サポートセンターいよりん	取組のキーワードは、人財育成、移住、関係人口、希望活動人口、遠隔地・遠隔自治体間連携、虐待防止、権利擁護、生活困窮者支援、地域共生社会です。課題から入るのではなく新しい価値を創造することで解決していく、巻き込むよりも共感で仲間を増やすようにしています。人・コト・地域・取組を横につないでいく「横結(よこゆい)」、異分野連携・広域連携・遠隔地連携が得意です。若手職員・学生人財育成、移住交流の地域づくり、横結の地域づくり・人づくり・仕組みづくり・場づくりの研修・ワークショップ・計画策定、事業進め方等、お気軽にご相談ください。
前畑 洋平	まえはた ようへい	特定非営利活動法人J-heritage	<p><業務内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業遺産を活用したツーリズム事業の開発・推進 ・産業遺産を活用したアートプロジェクトのプロデュース ・産業遺産を活用する組織の立上げ及びガイド等の人材育成 ・産業遺産を活用する人・組織のネットワーク構築 ・地域資源を活用した地域内外の交流推進 ・地域資源の発掘および活用するためのワークショップの実施 ・地域資源の戦略的な情報発信を行うための支援指導
牧 昭市	まき しょういち	まちづくりプラン研究所	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中心市街地におけるエリアマネジメント事業展開 2. 都市経営に基づく中心市街地のグランドデザイン策定 3. まちづくり会社の設立及び運営(自立経営に向けた体制作り) 4. 商店街区でのデータマーケティングを活用した官民連携のテナントミックス事業展開 5. まちづくり会社が取り組むべき事業の立案
町田 直子	まちだ なおこ	特定非営利活動法人 ACTY/株式会社ACプロモート	NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめて、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参画できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ、着地型体験の旅行商品を造成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。
松井 郁夫	まつい いくお	株式会社 松井郁夫建築設計事務所	古民家の知恵に学び、日本の気候風土に合った木組の家づくりを実践。「むかしといまをみらいにつなぐ」住まいづくりを通して美しい日本の風景と地域コミュニティの再生がテーマ。 良質の木の家に住みたくても手が出ないと思っている建主、伝統の技を活かす場所がないと嘆く職人、植林の費用が必要な山のために、協働することでそれぞれの夢をかなえる、共存共栄の仕組み“ワークショップ”“き組”を立ち上げる。
松井 利夫	まつい としお	株式会社 アルプス技研	<ul style="list-style-type: none"> ○「認定 特定非営利活動法人(NPO)地域産業おこしに燃える人の会」会長 ○第三セクター「株式会社さがみはら産業創造センター」初代社長(現在退任) ○岩手県北上市「北上しらゆり大使」、および「工業振興アドバイザー」(現在退任) ○北海道士幌町「まちづくりアドバイザー」 ○国内外の大学7校に、起業を目指す学生を対象とした松井奨学金制度を設置。 ○約20社のベンチャーを応援、エンゼル投資をする。 ○公益財団法人起業家支援財団、認定NPO法人ふれあい自然塾を、個人資産を投入し設立。社会貢献活動に注力。 ○公益財団法人とかち財団 理事 ○特定非営利活動法人(NPO)メコン総合研究所 副理事長 ○北海道士幌町 かみしほろ起業塾 塾長
松井 洋一郎	まつい よういちろう	岡崎まちゼミの会	中心市街地、商店街において当地にあった有益なソフト事業の提案、事業実施のアドバイスから活性化への気運創り、新たな人材育成、リーダー創出の取り組み。
松浦 忠雄	まつうら ただお	㈱エム・シー・オー	<p>□(株)エム・シー・オーは地域振興と企業経営のお手伝いをさせていただいている会社です。</p> <p>□(独)中小企業基盤整備機構の中心市街地サポートマネージャーは地域活性化支援プログラマーです。</p> <p>主な活動範囲は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域活性化への合意形成支援(組織づくり、事業推進体制の構築、活性化事業の精微、人材育成 他) ②商業施設の開発・運営支援(立地戦略、事業計画づくり、運営マネジメント 他) ③商店街再生支援(コンセプトづくり、空き店舗対策、新規創業者支援 他) ④販路開拓などのマーケティング支援(商品開発、販路開拓、販促 他)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
松嶋 匡史	まつしま ただし	株式会社瀬戸内ジャムズガーデン	手作りジャム専門店「株式会社瀬戸内ジャムズガーデン」代表取締役。周防大島観光協会副会長のほか山口県のキャリア教育推進委員や活力創出推進会議委員なども務める。 2001年10月に新婚旅行先のバリでジャム屋と出会い2003年11月個人事業として手作りジャム専門店を高齢化率日本一と言われた瀬戸内の島、周防大島(山口県)にて創業。 耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ、現在はブルーベリー・あんず・金時いも・いちご等を生産。店舗では自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーを運営するなど、ジャム加工のみでなく、農業(一次産業)・加工業(二次産業)・サービス業(三次産業)をミックスした6次産業形態の事業を展開。地域を巻き込んだ6次産業化を実践している。地域資源を活用し、地域に産業と雇用を創出することを主眼に活動を展開し、現在では首都圏からの移住者を含めスタッフは30人の規模。最近はお寺と連携した空き家のリノベーションで移住者の呼び込みを行ったり、全国初の小中高連携起業家教育への取り組みなど活動は多種多様。2014年新書大賞受賞の「里山資本主義(角川書店)」などでその取り組みが紹介されている。
松場 登美	まつば とみ	(株)石見銀山生活文化研究所 ／(株)他郷阿部家	石見銀山生活文化研究所では衣・食・住のデザインに取り組み、衣においては国内の素材と加工にこだわった商品の企画製造販売、食においては再生した民家を活用した飲食店の経営、石見銀山で発見した梅花酵母菌を生かした商品開発、住においては島根県大田市大森町で約20年にわたり民家再生を行っている。大田市大森町以外に、東京・西荻窪の昭和初期の民家を再生し活用している。
松橋 京子	まつはし きょうこ	-	2015年ニセコ花園に「坐忘林」を立ち上げ、開業2年もた ずして「ミシュランガイド北海道2017」で5つ星を獲得、地域の核となるオンリーワンの宿づくりに寄与。現在はホテル、旅館再生、新規立ち上げ、レストラン誘致やオープンの実行プランの企画、道外企業や外資の新しいプロジェクトのマーケティング支援や商品開発のブランディング、販路拡大など多岐にわたる事業の相談に対応。自治体などではおもてなしの極意や、中学、高校、大学ではキャリアデザインなど新しい切り口のセミナーや講話なども実施。
松原 裕樹	まつばら ひろき	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター	1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、コーディネートを行っている。2017年からひろしまNPOセンター事務局長に就任。ゆたかな市民社会の実現に向けて、NPOやボランティア活動の支援、地域課題の解決やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた多様な主体との協働に取り組み。平成30年7月豪雨災害では広島市災害ボランティア本部の副本部長を務めた。環境省中国環境パートナーシップオフィス(EPOちゅうごく)・中国地方ESD活動支援センター 事務局長。
松村 拓也	まつむら たくや	一般社団法人 日本土地資源協会	地域活性化とは「地域の担い手たちによる事業創出」のはずなのに、肝心な土地所有者が地域を諦め、土地や建物の放置が増えています。 そこで、 ①土地の所有者と事業者と利用者の交流の促進 ②土地所有者による遊休資源に関する情報開示の促進 ③事業者や利用者による所有者への事業提案の促進 に取り組むことで、所有者を事業者に・事業者を所有者に変化させ、「所有者による土地活用事業の創出」を促進しています。
松山 茂	まつやま しげる	宮崎商工会議所	商店・商店街・大型店と駐車場経営者が連携した駐車場共同利用システムの構築(Doまんなかモールの30分無料共通駐車券事業) 商店・大型店が連携した販売促進イベントの実施(プレミアム商品券事業、歳末大売り出し事業) 農業・生産者と連携した集客イベントの実施(宮崎県庁楠並木通り「楠並木朝市」、一番街商店街「街市・大街市」) 地権者と商店街の役割分担によるアーケード等商業基盤施設の整備(宮崎駅前商店街「アミーロード」の整備)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
政所 利子	まんどころ としこ	株式会社 玄(げん)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域/環境計画・総合プロデュース 地域計画・環境計画・公共事業・事業計画・産業活性化計画の総合プロデュース 2. 地域ブランド・国産ブランド/商品開発・商品企画/人材教育 プロダクト・プランニング・ビジネスプロデュース・メディア計画 3. 地域PR・SP計画の企画制作 SP企画、マーケティング計画、メディア計画、総合コミュニケーションプロジェクト 4. 行催事の企画制作・実施/海外向け地域ブランドPR事業の企画制作 イベントのプランニングからのプロデュース、実施 5. グラフィック・エディトリアル・映像・立体デザイン等の企画制作 SP・PR・コピー編集、デザイン、展示映像制作等のマルチメディア企画 6. 都市計画・地域計画・事業計画に関わるソフト事業の企画・設計と運営管理 地域計画に関連する人材教育の各種ツール制作、快適環境整備等のソフト事業設計 7. 和学塾食会議事務局 国産食材のPR事業を通じて国内農産品生産地の活性化と次世代の後継者づくりに貢献します。
水野 正文	みずの まさふみ	郡上大和総合開発株式会社	<p>1993年から古今伝授の里づくりに関わり和歌文化の拠点施設「古今伝授の里フィールドミュージアム」をオープン。1999年「やまと温泉やすらぎ館」の立上げ、営業指導を行い雇用の創出、福祉向上を図る。続いて2001年「くつろぎ広場」、道の駅をオープンさせ、特産品開発、販売サービス、営業指導管理を行い、若者・女性の働き場を確保。2005年に東海北陸自動車道「ぎふ大和PA」内にサービス施設をオープンさせ、高速交通網を活かした特産品の販売拠点を整備。4施設の経営管理を市から指定管理料0円で3セクが受託し、その利益から順調に開発型インター借入金償還。2007年から郡上地域活性化協議会・交流部会長として、国の地方の元気再生事業により「郡上長良川源流域森と川の恵み集落再生実証事業」に取り組む。県のアグリマイスターとして、他市を指導。全国的には、三重県、島根県、九州、福井県でのまちづくり、3セク経営などの講演活動と共に、関係者の現地研修受入指導を実施。また、JICAに協力し、中国、ブルガリア、ベトナム、中央アジアからの視察研修受入指導、ベトナムにおける国道の駅管理運営指導を行う。</p> <p>NPO法人コミニス郡上の監事として、福祉、教育活動を行う。</p> <p>現在は郡上市役所を早期退職し、まちづくりを行う第三セクターの代表取締役として、経営管理を行っている。</p>
三角 幸三	みすみ こうぞう	一般社団法人障がい者起業・就労支援協会/コミプロデザインファシリテーション研究所(GPDFI)	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭教育コミュニケーションプログラムの作成(熊本:親の学び、長崎:ファミリープログラム宮崎家庭教育サポートプログラム)及びファシリテーターの育成 ○組織活性化、地域づくりのためのワークショップ活動 ○図フレームを使ったファシリテーション、ワークショップ活動 ○親同士、親子、子ども同士のコミュニケーションプログラムの提供 ○地域づくり、商店街活性化、地域の絆づくり活性化、及び社会教育・公民館活動の活性化 ○講師・ファシリテーター養成研修 ○防災ワークショッププログラム
御園 慎一郎	みその しんいちろう	大阪大学/地域活性学会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ ・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。 ・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。 ・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を提案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。 ・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
三石 秀樹	みつし ひでき	タウンプロデュース合同会社	民間主導の再開発支援を一つの目的とするまちづくり会社の立ち上げから関わり、飯田市の再開発をサポートし、マンションの分譲、店舗を買い上げリレーシング、建物の管理業務、管理組合の運営を請け負いました。その他ハード事業では、古い土蔵再生活用、空店舗の「所有と利用の分離」手法での活用、市街地ミニ開発、福祉施設の経営、物販飲食事業等々を行っています。ソフト事業では、NPO、市民団体支援。りんご並木を中心とする歩行者天国イベントを年間実施。飯田市の環境モデル都市事業への協力等、環境事業にも取り組んでいる会社を運営しておりました。 令和1年7月に退任し、街づくり団体の支援、街づくりコンサルタントの新会社を立ち上げ活動しております。NPO活動では、りんごで作る発泡酒シードルの振興活動、空き家を活用する活動団体が大きな成果を上げております。
満尾 哲広	みつお あきひろ	フルライトスペース株式会社	図書館を含めた、公共施設の新しいあり方・役割・運営方法が見直され、注目されている昨今において、公共図書館の計画だけでなく、実際の現場にて計画から準備、そして運営をマネジメントの観点から支援を行います。 全国の様々な地域の図書館や関連施設整備を支援してきた経験は、公共図書館の更なるまちづくりの拠点機能への活かされるものであり、抱えている課題や状況、条件の異なる中で、画一的な図書館・公共施設ではなく、その地域に合った機能の提供などを地域や地域の方々と一緒になって取り組むことで、地域の課題解決につなげていきます。
宮城 治男	みやぎ はるお	特定非営利活動法人ETIC.(エティック)	自らの意志と行動で社会の課題を解決し新しい価値を生み出す「起業家型リーダー」の育成及び輩出並びに「起業家型リーダー」を育む社会基盤の創造及び整備を行うことを通じて社会全体の変革を創造し、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。 取組概要 (1) 起業家型リーダー育成事業 (2) 起業家型リーダーを育む社会基盤創造整備事業 (3) 職業紹介及び労働者派遣事業 (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
三宅 曜子	みやけ ようこ	(株)クリエイティブ・ワイズ 株式会社マーケティング・ナビ	女性の感性を生かし、消費者ニーズを的確にとらえた中小企業のマーケティング全般の支援、地域の活性化事業支援を行っています。特に食関連のマーケティングに関しては、メニュー開発をはじめとする商品開発、パッケージやラベル、広告戦略、販路開拓までトータルに支援。工芸品に関しては、広島県熊野町の化粧筆を世界レベルのブランドにプロデュースするなど、商品開発から戦略支援までを実施。2007年、経済産業省の中小企業地域資源活用事業プログラムの政策審議会委員、また、衆議院経済産業委員会、中小企業地域資源活用促進法案参考人として国会に立ちました。以後、地域資源を活用した商品開発や販売促進、販路開拓、観光事業開発、農商連携事業や農業の六次化、建設業の業態拡張や業態転換、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、海外展開支援等、中小企業の活性化に対する幅広いハンズオン支援を行っています。
向井 哲朗	むかい てつろう	こどもエコクラブ彦名地区チビツ子環境パトロール隊・NPO法人エコパートナーとっとり	「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビツ子環境パトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃天ぶら油の回収がスタートした。この活動は、現在、障がい者施設の皆さんとBDF製造にまで発展している。全国で初めての試みでもあった使用済み割り箸を回収し製紙工場と協働して紙再生への取組みについて問題提起。鳥取県米子市で地元のホテル温泉街に協力を呼び掛けて始まった本取組みは、今では地域全体での取組から、更には全国区の事業にすることができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動をするを覚えれば、地球温暖化防止への道は近い。25年以上に渡って継続している割り箸・廃天ぶら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。廃油ローソク作り・牛乳パックから手づくり葉書きづくり・環境パトロール・廃パンスト等を利活用した生活排水浄化方法・メダカ/ホテル観察会・水鳥観察会等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動・環境を基軸にした協働の街づくりの継続実践をしている。
村上 和子	むらかみ かずこ	NPO法人神戸グランドアンカー	1) みなとの文化交流施設「TEN×TEN神戸元町」の企画運営。 2) 神戸港の親水ゾーンの人の賑わい創成へ向けた取り組み。
村上 一成	むらかみ かずなり	一般財団法人「希望日本投票者の会」	平成15年度創刊の「まちづくり新聞」編集長に約5年間就任。全国のまちづくり事例の取材を行う。現在、PPP(公民連携)テーマに特化したシンクタンクで、地方自治体対象のコンサルティングなど。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
村橋 保春	むらはし やすはる	株式会社まち実践社	地域振興を地域特産品生産・流通の面から支援する業務を中心に、併せてまちづくりや店舗施設開発運営支援業務を実施している。 事業主体として、地域特産品の情報発信、マーケティング分析、販路拡大、市場確立を目指して「地域起点ショップここから」の店舗運営を行っている。 地域特産品生産は地域振興に大きな役割を果たす。このため生産事業を地域ビジネスとして成立させなければならない。都市圏における市場確立は必須であり、理論的検討のみならず、現場における実証的分析、つまりお客様(市場)の具体的本音を知り、事業企画・実施に活かすことが最も重要である。 当社は地域活性化に関わる地域の事業者の方々が都市圏との流通経路をしっかりと持って、地域の生産の増加、雇用の増加、ひいては地域経済の向上につながる支援を行っている。特に、起業、新規分野展開など、新たなチャレンジに取り組むスタートアップの段階での支援に注力している。
望月 孝	もちづき たかし	株式会社プロジェクト地域活性	東北地域において、地域の人財育成・確保、農商工連携等6次産業化・地域ブランドの推進、観光・ツーリズムの推進等、地域の「人財」を核にして地域活性化を支援しています。現在、東日本大震災からの復興農商工連携等6次産業化による地域の活性化に重点を置き、東北地域の6次産業化を担う人財を育成・確保する『6次産業化プロデューサー育成塾』『東北のムラで働き隊！プロジェクト』等の取組みを実施しています。
森 昭彦	もり あきひこ	有限会社オフィス・ビー／一般社団法人奈良県中小企業診断士会	・地域企業の伴奏型支援による地域産業振興を軸にした地域活性化の推進。 ・農林業活性化や地域資源活用を軸にした地域活性化の推進。 ・観光の活性化やDMO形成等の組織化を軸にした地域活性化の推進。 等々、多様な形で地域活動を支援しています。
森賀 盾雄	もりが たてお	人間環境大学	36年間「はみ出し公務員」といわれ、新居浜市職員として前例のないことを主に取り組んできた。市職員退職一年前に愛媛大学に引張られて専任准教授になり、一年後に経済学博士学位を取得し、さらにもう一年後に教授になった。担当科目は「起業論」「マーケティング論」「地域マネジメント論」など。愛媛大学では愛媛大学紙産業修士コース創設に中心的役割を担い2010年に開設(現・バイオマス資源学コースとして全国の紙産業の研究・教育の拠点化を進めている)。2015年に六年間の専任教員を退職し、非常勤講師をしながら地域人材づくりに奔走。愛媛大学社会人講座修了生(愛媛県内をはじめ近県165名)を中心とした「地域再生塾」塾長、高知県須崎市「須崎未来塾」塾長などで、人と地域に内在して地域づくりに取り組んでいる。産業遺産活用では我が国草創の頃から30年以上取り組み、新居浜市の新しい顔に定着させた。市職員・大学教員・地域人材塾で蓄積した地域現場に適合した知的地域づくりを進めている。得意とするのはイノベーション論・マネジメント論・マーケティング論の様々な分野に横断的に適用した分析・実践である。
森田 潔	もりた きよし	一般社団法人 神戸港振興協会	①地域の様々なイベントの実施 ・神戸港カッターレース～横浜・大阪・広島・南淡町・豊岡市など 全国のカッターレースに実施要領を提供し各地で開催されるようになった。 ・メリケンフェスタ、みなとこうべ海上花火大会、Kobe Love Portみなとまつり、KOBEMinaとマルシェ、波止場まつり、神戸港フォークリフト荷役技能向上大会、神戸まつりヨットレース、神戸港ポート天国、ロープワーク教室、ボトルシップ教室、市民クルージング、体験航海、進水式見学会など ②産業観光への取組み ・コーディネーターとして案内したり、旅行商品となりうるものの発掘 ③クルーズ客船や帆船の入出港の歓送迎や船内一般公開の実施 ④海事人材の育成 ・県下の小・中学校への出前授業や船を使った海上からの港の見学等
森本 明夫	もりもと あきお	COテクノロジー株式会社	-

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
森山 明能	もりやま あきよし	七尾自動車学校／株式会社御祓川／一般社団法人地域・人材共創機構	<p>故郷である石川県七尾市をベースに、民間まちづくり会社のシニアコーディネーターとして地域や企業の担い手の挑戦をサポートしています。地域ネット商社機能／インターンプロジェクトの開発・マッチング・実施運営／クラウドファンディング募集サポートなど複数の支援メニューを組み合わせて「マチ・ミセ・ヒト」の関係性の再構築を目指しています。特に、「能登留学」では、これまでに200名を超える大学生(内、長期100名超)と地域の企業／組織をつなげ、受入先の改革・活性化を支援すると共に、若手人材の地域誘致に結びつけて来ています。また、上記のサービスについて効率よく利用してもらうことと地域の人財育成を組み合わせたプロジェクトとして、2015年10月からはコミュニティ大学「御祓川大学」の運営もスタートしました。</p> <p>近年は、能登と首都圏の人や組織を結びつけて実施するプロジェクトのコーディネーターに多く携わっています。具体例として、丸の内朝大学では、地域プロデューサークラス受講生受入をきっかけに能登島地区の若手経営者・公務員・漁師などが集まったコミュニティ組織「能登島観光協会青年部」の発足に携わりました。同組織が主催しているコミュニティ型観光プログラム「うれし！たのし！島流し！」はリピート率6割を超える人気プログラムに成長し、能登島の地域づくり人財の育成と東京における能登島コミュニティの醸成に繋がってきています。</p> <p>このように七尾自動車学校(家業)も含めた地域内での活動をベースとしつつも、能登のトライセクターリーダーとして活躍していけるよう、能登／首都圏、民間／行政、公／私などの隔たり無き活動を行っています。</p>
矢口 正武	やぐち まさたけ	NPO法人 元気・まちネット	<p>多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。</p> <p>元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。</p> <p>また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。</p>
箭内 武	やない たけし	株式会社YANAI総合研究所	<p>1. 改善コンサルティング(セル生産方式) 材料メーカー、家電、電子部品、機械加工、製造工場の現場改善を中心としたコンサルティング。調剤薬局の在庫削減、労働時間の改善など。</p> <p>2. 人材育成 青森県、八戸市等の人材育成プログラムに従事。高校生、大学生、社会人の研修講師として活動。 八戸学院大学客員研究員として地域社会人向けセミナーを行う。</p> <p>3. 企業マッチング支援 ものづくりコーディネーターとして産学官の連携、企業の国内外のビジネスマッチングを企画実施。</p>
谷中 修吾	やなか しゅうご	地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE／BBT大学 経営学部グローバル経営学科	<p>◆価値創造型の超絶まちづくり～突き抜けたアイデアを事業化する～</p> <p>国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE(インスパイア)」を立ち上げ、日本全国の地方創生まちづくりで活躍するイノベーターを束ね、彼らの実践しているノウハウを体系化した「超絶まちづくりの集合知」を社会にシェアする取組を推進している。1万人の地方創生イノベーターコミュニティを形成し、中央省庁、地方自治体、グローバルカンパニーとのタイアップ事業を展開。突き抜けたアイデアから事業を生み出す価値創造型のビジネスデザイン技法を伝授するとともに、地域における「イノベーターの発掘・育成・活用」を支援している。アイデアソンやアクセラレータなどの事業プロデューサーに関する専門的知見を活かし、日本全国で地域におけるイノベータープラットフォームを構築した支援実績多数。また、ビジネススクール(MBA)教授として教鞭を執り、理論と実践に基づいて、地域に対して再現性のある実務ノウハウの伝授に努めている。</p> <p>【主たる支援内容】①価値創造型のビジネスデザイン技法の伝授(講話、ワークショップ)、②イノベーターの発掘・育成・活用を通じた地域イノベータープラットフォームの構築支援(カンファレンス、アイデアソン、アクセラレータ)、③地方創生事業の総合プロデューサー(プロデューサー、アドバイザー)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
矢野 邦子	やの くにこ	FoodDesignアトリエやの	<p>農山漁村の課題解決のための6次産業化について助言・商品開発等を行っています。 例1 真鯛の一夜干しを作るときに出る真鯛の骨の商品化。真鯛の骨をペースト状にしてベシヤメルソースを考案。FOODXで金賞受賞。 例2 毎年10トンもの規格外トマトの破棄に悩んだ地域でトマトの6次産業化。農家レストランのトマトキーマカレーを開発。山村の農家レストランに毎月3千人もの人が来るようになる。他</p> <p>中央商店街の賑わい創出事業は、歩道が拡張整備され憩いの場となるよう、イベントを企画運営・助言・指導します。 例1 通りで本物の結婚式 商店街を幸せなイメージへブランディング。商店街にあるプライダル専門学校とコラボ企画。地元の商店街の花屋さんが通りを飾る。 例2 俳人正岡子規の生誕の地を活用し吟行や正岡子規が書いた仰臥漫録から正岡子規が食べたであろうノボサンカレーを作り参加者へふるまう。他</p> <p>その地域に合った課題解決に向けて、多くの話し合いの中から地域の課題解決と、何を継続的にしていきたいのかを見極め、地域の皆さんとともに作り上げていきましょう。講演依頼も引き受けますので、まちづくりのきっかけに活用してください。</p>
矢野 富夫	やの とみお	高知県橋原町	<p>町長時代に、町民の不安に思うことや町内外の意見等を調査分析し、絆と自立をキーワードに、小さな拠点ゆずはらづくりを掲げ、「自分たちでできることは自分たちです」を合言葉に、地域の課題を解決する小さな拠点・地域運営組織(橋原町では集落活動センターという。)を町内全域に6ヶ所設立するとともに、ゆずはら未来大使を任命している国立競技場を設計した世界的建築家隈研吾氏とともにまちづくりに取り組み、町内にある隈研吾氏が設計した6つの建築物を生かしながら、町民みんなと心をつなぐに、生きる仕組みをつくり、人口減少に歯止めがかかりはじめるなど、まちづくりのモデルとなっている。</p> <p>そうした経験から、全国各地の大学、各種団体、市町村や市町村議会等に出向いての講演や内閣府の小さな拠点・地域運営組織の形成推進に関する有識者懇談会委員及び学校法人平成学園アドバイザー等の活動を行う。</p>
矢原 正治	やはら しょうじ	山陽小野田市立 山口東京理科大学 薬学部	<p>1) 山陽小野田市の江汐公園内の薬用植物園を管理しています 2) 現在、山口東京理科大学の校内に薬用植物園を作っています 3) 薬用植物を知らずin熊本を毎年一回開催しています(2019年は第19回) 4) 八幡薬剤師会の皿倉山での薬用植物観察会の講師を担当しています</p>
山川 進	やまかわ すずむ	公益財団法人 三重県産業支援センター	<p>・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。 ・「新たな企業投資促進制度の創設」…マイレージ制度、マザー工場化の促進などを柱とする新たな制度を創設し、県内への企業投資を促進。 ・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容をパッケージとし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。 ・「様々な連携」…「地域発のオープン・イノベーション創出」を行う「高度部材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。 ・「温泉街の活性化」…三重県菟野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。 ・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。 ・「中小企業連携(シンジケート)の促進」…複数のものづくり中小企業が得意とする技術やノウハウを結集し、技術レベル向上や新たなマーケット開拓などにつなげるための中小企業連携体の構成に尽力。三重県には全国トップクラスの連携体が構成されるに至っている。 ・「三重県海外ビジネスサポートデスクの開設」…成長する新興国等の市場を取り込むため、中小企業の海外展開を支援する「海外ビジネスサポートデスク」(中国、ASEAN)の設置に尽力。 ・「三重県と北海道との産業連携」…『「三重県・北海道」産業連携推進会議』の設立に尽力。三重県と北海道の「ものづくり技術」と「地域資源」の連携を進め、新たなビジネスの創出、さらには地域経済の活性化に繋げる。 ・「首都圏営業拠点「三重テラス」」…東京日本橋において、三重県の魅力を総合的に発信する拠点「三重テラス」の開設に尽力。 ・「三重県中小企業・小規模振興条例の策定に尽力」 ・職員研修センターで県職員向けの研修を実施。三重県職員の人づくりの参画、三重県の商工部門の第1人者として活躍した経験を基に、自ら研修講師として三重県職員に語りかけることで、現場を大切に職員を育成。 ・経済産業省の「ひとづくりの切磋琢磨による地域創生実行会議」の委員として参画。 ・沖縄県と連携して、沖縄の物流特区を活用した東アジア戦略を模索するほか、他地域との連携を検討中。さらに地域のコアとなる中小企業との連携を深めて、海外への販路拡大や現地での人材育成の取組を進める。 ・各地の事業者や産業支援機関と連携し、地域商社等を通じた地域産品の販売や中小企業が連携した新たなビジネスや人材交流を促進。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山岸 秀雄	やまぎし ひでお	NPOサポートセンター/法政大学名誉教授	NPOの社会的役割である「地域・社会の課題解決と社会システムの変革」をよびかけ、全国のNPOと中間支援組織の支援を続けて約4半世紀が経った。NPOには様々な役割があるが、私とNPOサポートセンターは人材育成・雇用問題と政策提言を軸に「産官学民プラットフォーム」(NPOと大学を軸にしたコミュニティ創り)、社会的企業、新しいコミュニティ創造としてのマンション問題の実験、NPOの教育力による地域教育の再生等に取り組んでいる。個人的には湘南最大の自然(660ヘクタール)を誇る二子山山系自然保護活動の理事長として産官学民の協働事業を行ってきた。
山下 真輝	やました まさき	株式会社JTB総合研究所	JTBグループが推進する観光を基軸にした地域活性化事業である地域交流事業の推進役として戦略策定や人材育成などに取組み、全国各地の自治体との連携による観光振興に関わる各種支援を行っている。(一社)日本スポーツツーリズム推進機構の設立メンバーとして、観光庁におけるスポーツツーリズム政策策定に関わっている。また福岡市等の都市におけるMICE戦略策定、訪日外国人旅行者誘致にむけた受入体制づくり、食・食文化を活かしたガストロノミーツーリズムなど幅広い分野の観光振興の戦略策定にむけたアドバイスをを行い、全国各地のセミナー・シンポジウムに多数出演している。 日本地域広告協会主催・観光マーケティング実務者養成講座、日本フードツーリズム協会主催・フードツーリズムマイスター養成講座、古民家ツーリズム協議会主催・古民家ツーリズムまちづくりプランナー講習等の各種講座で講師を務めている。 地域住民を巻き込んだ着地型旅行商品づくりを通じた地域ブランドづくりの手法として「地域デザインング」を提唱し、各地でワークショップを開催している。
山下 雅司	やました まさし	ヤマシタ経営診断支援オフィス	(1)全国商店街支援パートナーとしての受託業務 ①トータルプラン作成支援事業(プランづくりコース) ・網走中央商店街振興組合(平成25年度～平成26年度) ・栗山駅前通り商店街(平成26年度) ・根室市緑町商店街振興組合(平成27年度) (2)経済産業省補助事業に係る調査事業 ・平成26年度北竜町商業自立促進調査分析事業(ニーズ調査) ・平成28年度根室市地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・平成28年度森町地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・平成28年度斜里町伴走型小規模事業者支援推進事業(ニーズ調査) ・平成30年度紋別市商業活性化に向けた行政連携による共通ポイントカードシステム等導入に向けた調査分析事業 ・浦河町大通商店街 活性化に向けた行政連携による共通ポイントカードシステム等導入に向けた調査分析事業 ・令和元年度小清水町地域まちなか活性化 ・魅力創出支援事業に係る調査分析事業 ・新十津川町商工会商店街活性化調査研究事業 (3)道の駅に関する経営診断:真狩フラワー振興公社・美深町双子座館(実態調査) 滝川市・中札内村・大樹町・忠類村 (4)地域振興計画の策定 清水町・北竜町・余市町・芦別市・栗山町・初山別村・幌加内町他
山田 桂一郎	やまだ けいいちろう	JTIC.SWISS	これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による 収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザイン であったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊します。多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域 住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。このような状況から脱出するために、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組むことが必要です。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域の生き残りを皆さんと一緒に真剣に考え、実践しています
山田 崇	やまだ たかし	空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクトnanoda(なのだ)	「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクトnanoda」を2012年4月から開始。「地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみないと商店街の現状・課題はわからない」と、地元塩尻の“大門商店街”に空き家を借りて可能な限り身を置き、毎朝降りてしまったシャッターを開ける取り組みから、地域、大学生、首都圏の社会人を巻き込むプロジェクトに発展。「信州移住計画」2015年6月スタート。地域の外に飛び出すと、地域の中に遊びに来る人が増える。「空き家nanoda」は、交流 人口増加や移住者コミュニティとしての受け皿に発展。結果、商店街の空き店舗だった 拠点に10ヶ月で126人が短期滞在、4年間で商店街に9人が移住。民間団体等と連携した「信州移住計画」を設立。京都からスタートした「京都移住計画」、全国的に広がりをみせる「みんなの移住計画」との連携により、「好きなまちで自分らしく暮らす」をコンセプトとした若者の移住定住支援を行う。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
山田 拓	やまだ たく	株式会社美ら地球	<p>2007年、「クールな田舎をプロデュースする」株式会社美ら地球を飛騨古川に設立。自らの旅人経験を活かし、里山や民家など地域資源を活用したツーリズムを推す。ボランティア活動や調査など、地域住民との地域資源の保全活動をベースとし、国内外のSATOYAMAに魅了される人々の1ストップソリューション「SATOYAMA EXPERIENCE」をプロデュース。</p> <p>農村集落を巡るガイドツアー「飛騨里山サイクリング」、古民家をオフィス用途に転用した「里山オフィスプロジェクト」など、中山間地での新たな複数のビジネスを内包する。</p> <p>近年は、地方部各地でのツーリズム・ビジネスの立上げ支援や人材育成プロジェクトに従事する。著書に「外国人が熱狂するクールな田舎の作り方」(新潮新書)がある株式会社 美ら地球(ちゅらぼし) CEO、総務省 地域力創造アドバイザー、内閣官房クールジャパン・地域プロデューサー 奈良県生まれ。横浜国立大学大学院工学研究科修了。</p> <p>(株)プライスウオーターハウス・コンサルタント(現:IBM)にて多くのグローバル企業の企業変革支援に従事した後、退職。その後、(株)モンベル社等のスポンサー支援を受け、足かけ2年、29カ国にわたる世界放浪の旅に出発し、期間中はWebサイト「美ら地球回遊記」を通じて、小学校との交流、雑誌記事執筆、現地からのニュースレポートなどを行う。帰国後、地方部の原風景に受け継がれる日本文化の価値を再認識し、岐阜県の飛騨古川に移住。</p> <p>2007年、「クールな田舎をプロデュースする」株式会社美ら地球を飛騨古川に設立。自らの旅人経験を活かし、里山や民家など地域資源を活用したツーリズムを推進する。ボランティア活動や調査など、地域住民との地域資源の保全活動をベースとし、国内外のSATOYAMAに魅了される人々の1ストップソリューション「SATOYAMA EXPERIENCE」をプロデュース。</p> <p>農村集落を巡るガイドツアー「飛騨里山サイクリング」、古民家をオフィス用途に転用した「里山オフィスプロジェクト」など、中山間地での新たな複数のビジネスを内包する。</p> <p>近年は、地方部各地でのツーリズム・ビジネスの立上げ支援や人材育成プロジェクトに従事する。</p>
養父 信夫	ようふ のぶお	一般社団法人 九州のムラ	<p>1986年 九州大学法学部卒業後、株式会社リクルート入社 その後、1995年独立し、「ムラの命をマチの暮らしに、マチの力をムラの生業に」を理念に、九州のグリーンツーリズムを拓く活動を開始。翌97年、雑誌「九州のムラ」を発刊。2000年より編集長。民間企業と農村漁村を繋げる「ムラプロジェクト」も開始。九州ムラ市場(マリノアンティ内、福岡地所関連会社)、九州ムラコレ市場(ネット通販、九州電力関連会社)、Gazoo MURA(トヨタ自動車)などの企画立案なども行う。2014年度からは一般社団法人九州のムラを立ち上げ、観光地域づくりについては全国に、環境地域づくりについては郷里宗像に特化して活動を開始。観光地域づくりの実績地域としては、長崎県東彼杵町(お茶専業農家を中心にインバウンドを展開。グリーンティーリズムの推進)、広島県府中市上下町(歴史町並みを活かした上下天領ツーリズムの推進)、和歌山県由良町(海の熊野古道プロジェクト、観光DMOの立ち上げ)など。また宗像では海の環境保全活動を推進するために、「海の鎮守の森プロジェクト」を開始。宗像国際環境会議を定期的に開催。</p>
横田 純子	よこた じゅんこ	特定非営利活動法人 素材広場	<p>福島県地産地消推進事業 ・福島県内の素材情報発信 ・受発注業務 福島県地産地消企画事業 ・宿の地産地消に関わるリニューアルやスタッフ研修など ・行政や会員外からの地産地消に関わる企画および運営 旅行事業 ・宿の手配 ・体験プログラムの構築 ・着物レンタル</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
横山 幸司	よこやま こうじ	国立大学法人 滋賀大学産学公 連携推進機構 経済学系	私は大きくは次の5つの方法によって地域の課題に取り組んでいます。 1つ目は、国や地方自治体の各種行政委員会等への委員等としての参画です。一般行政から教育行政まで、各種行政計画や方針の策定等に携わっています。 2つ目は、自治体や団体が実施される研修会等の講師です。自治体職員向けや、企業向けの専門的な研修から、一般市民向けの講演までTPOに応じた講演を実施しています。 3つ目は、自治体や団体が実施される研究会やワークショップ、フォーラム等の座長、コーディネーター、ファシリテーター、メンターとしての参画です。 4つ目は、自らが大学としての「学」の役割を踏まえて事業を主催あるいは共催するものです。「淡海公民連携研究フォーラム」など産官学金のネットワークの構築や「行政経営改革塾」などの地域人材育成システムの企画・運営により、地域経済の活性化、地域人材の育成に取り組んでいます。 5つ目は、自治体における「事務事業見直し」や地域における「地域診断」などを現地にて行い、助言や提案をするコンサルティングです。近年はこのご依頼が多くなってきています。
善井 靖	よしい やすし	一般社団法人 観光マーケティング協会	2000年に立ちあげた弊社は、平成15年から「地域活性化」の事業を先駆けて実施。事業展開を全国各地で展開している。平成28年～平成32年の事業テーマを「Inbound & Outbound DMO」とし、注力事業としてDMOコンサルティング、地域のインバウンド支援、地域情報サイト制作、MICE運営に取り組んでる。内閣府の地域活性化伝道師や、総務省の地域力創造アドバイザーに登録されている代表の吉井靖を中心として、日本中の地域でコンサルティング活動を行っている。 男鹿市ではDMO形成の前の市民意識醸成施策として、地元中学生が大人たち(市職員、観光アドバイザー等)と一緒に地元の観光プログラムを作成。情勢や旅行代理店への交渉(プレゼンテーション)まで実施。地元の魅力の発見と郷土愛を育むきっかけとなり、進学や就職でまちを離れた後も、いずれは戻ってきたいと思う次世代を育成する機会となった。また、地域課題が抱える課題に対し、確かな成果をあげたことが評価され、2017年度にJLAA地域創生アワード優秀賞を男鹿市職員とともに受賞した。 茨城県鹿行地区では、5市の地域連携DMOのアドバイザーとして、「アントラース・ホームタウンDMO」の形成を図った。その他サービスとして、インバウンド誘客のためのサービスメニューを持っており、特に、海外放送局招へいサービスは、インバウンド誘客展開を図りたい自治体に高く評価され、東北観光推進機構のご依頼で、18年1月に東北六県の冬をテーマとした旅番組を招致し、台湾で地上波放送と、二次使用によるネット展開を実施している。民間会社においては、地方創生に取り組むにあたってのビジネスコンサルティングを担当している。2017年10月観光庁の後援を頂き、観光マーケティング実務責任者養成講座を開設し、全国のDMOの課題であるCMOの育成に取り組んでいる。
吉澤 武彦	よしざわ たけひこ	一般社団法人 日本カーシェアリング協会	寄付で集めた車を使った以下の3つの支援事業を行っています。 ①ご近所のカーシェアで支え合う地域を作るサポート(コミュニティ・カーシェアリング事業) 被災地の高齢化・交通弱者・コミュニティ作りといった課題に向き合い作られた取組。従来のカーシェアと異なり①地域づくりを目的として、②住民がルールと役割を決めて運営を担い、③車の維持費など経費実費を平等に分担する特徴を持ちます。石巻市では地域づくりの手法として行われており、石巻で10地域・石巻以外の5地域の導入実績があります。(2020年3月時点) ②災害時に車が不足して困らないための仕組み作り(モビリティ・レジリエンス事業) 発災時に寄付車を現地に集め被災者や支援活動を行う組織に車を無料で貸し出す支援活動を行っています。いざという時に有機的な連携ができるような体制作りをサポートします。 ③人と地域を元気にする仕組み作り(ソーシャル・カーサポート事業) 地域の自立支援のプロと連携した生活困窮者への低価格リースや、商業レンタカーが出店できない人口規模の地域を地域連携して訪れる人が車を借りれる仕組み作り等をサポートします。
吉田 敦也	よしだ あつや	合同会社テクサラダ	専門は人間中心主義の情報デザイン。コミュニティ基盤型学習プログラム開発、対話の場づくりとプロセスファシリテーション、未来設計など。長年にわたり地域創生の実践、リーダー育成、場づくりに取り組んでいます。2015年9月、3年間にわたる北欧調査を経て、国立大学初の徳島大学フューチャーセンターABAを設計/開設し、第29回日経ニューオフィス賞四国ニューオフィス推進賞を受賞。また、大学キャンパスを活用した徳大ファーマーズマーケットの開発/実践、徳島の豊かな自然を活用したハンズオンプログラム「上勝自然学校もりのべ」の開校にも成功し、感じる力をもった次世代育成、持続し変化に強いコミュニティ形成のための研究/開発/実践に実りをつけています。2018年からは徳島県小松島市と共同した「こまつしまりビングラボ」(JST未来共創事業)のプロジェクトリーダーに就任。一次産業/産業創発を基盤にした地方創生イノベーションを推進しています。このプログラムの中では、米国オレゴン州ポートランドやオランダと連携した日本初の「社会共創キャンプ」を実施しました。2019年、これらの経験を基礎に、未来デザインと社会イノベーションのコンサルティングファーム「合同会社テクサラダ」を設立、CEOに就任。東京大手町エコツツエリア協会3x3 Lab Futureを拠点にしたインパクトデザイン研究会を主宰し、「古民家を活用した酒蔵ホテルづくり」プロジェクト等を実践しています。徳島大学では授業「SDGsと地域イノベーション」(総合科学部、非常勤)を担当しています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉富 慎作	よしとみ しんさく	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー	<p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY(循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群)】は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ(中長期滞在支援サービス)】都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP(中山間地域特化型起業家養成プログラム)】「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp(企業・団体研修)】平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴 2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞 2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞</p>
吉野 裕之	よしの ひろゆき	一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団	<p>* NPO・市民活動の支援 とくに資金支援を中心に、NPO・市民活動の支援を行っている。</p> <p>* 調査・研究 NPO・市民活動推進の観点から、まちづくりについての調査・研究を行っている。</p> <p>* その他 NPOの交流会、NPO・市民活動推進のためのシンポジウム・研修会の企画・運営などを行っている。</p>
吉弘 拓生	よしひろ たくお	一般財団法人地域活性化センター	<p>◆地域資源を活かした交流連携のまちづくり ・森林セラピー導入に係る助言、現地指導、人材育成等の伴走支援 ・「森林サービス産業」に係る現地指導 ・地域循環共生圏導入にあたっての事前研修 ◆地方公務員を対象にした研修・講演 ◆都道府県、市町村階層別研修講師(幹部職員研修、中堅職員・新規採用職員研修) ◆金融機関等と連携した取り組み ・奨学金創設に関するアドバイス ・官民連携での地方創生の取り組みに係るアドバイザー ◆働き方改革・ワーケーション ・民間企業と連携したワーケーション誘致アドバイザー ・自治体の企業誘致に係るアドバイザー、マッチング支援</p>
吉見 精二	よしみ せいじ	地域観光プロデュースセンター	<p>「地域は観光に頼らなければやっていけない！」とも言われています。とくに、地方は人口減少など直面する課題、時代の流れをどう受け止めるのか。しかし、地方には「文化がある自然がある」ことを活かした成功事例が多く見られます。全国のどこの地域でもがニュー観光地となる可能性があります。観光の魅力は人との感動の交流です。地域の人たちが主役になる観光が「ほんものの旅」です。みなさんの地域には宝物が溢れています。いっしょに探してみませんか。ニューツーリズムを通じて地域が元気になるお手伝いをいたします。</p> <p>・地域交流事業支援アドバイザー～地域観光創造・着地型観光実践ドウタンク ・地域力創造支援アドバイザー～まちづくり・地域活性化・地域の元気再生</p> <p>・DMO組織化支援コーディネーター～地域の新しい観光戦略にDMOの構築</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
萬谷 正幸	よろずや まさゆき	山代温泉観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝統・文化を重視した温泉街づくりのカルスマ」 ・「団体遊興型観光で全国に名を馳せた」温泉観光地から、「個人・時間消費型観光」に対応した地域づくりを図るため、旅館施設の一部開放の推進、空き旅館・空き店舗対策事業を同氏自ら率先して着手。同氏自ら空き店舗運営している「べんがらや」は、地域の活性化事業の範となっている。また、2003年12月には、「山代温泉新CIコンセプトブック」を7年後の2010年12月に「山代温泉第2次CIプロジェクトの骨子」を策定し、3年後の北陸新幹線開通に向けた山代の魅力づくりの為の3つのテーマを掲げ、新たなゴールを目指して山代温泉のブランドイメージの確立に尽力している。 ・2011年3月には、山代温泉のかねてからの懸案であった街の中心街である「湯の曲輪・総湯・古総湯」整備が完了。新たな事業展開の局面を迎えた。 ・2015年3月には、待望の北陸新幹線金沢開業を迎え、首都圏からの需要拡大の機会を迎え、地域住民による「おもてなし力」のレベルアップ、中心商店街の活性化策の検討、交通インフラ・情報インフラの整備促進等の推進を図っている。
若林 宗男	わかばやし むねお	若林ビジネスサポート／事業構想大学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富なメディア経験とコミュニケーション能力を活かして、企画、広報、イベント開催で強みを発揮、プレスリリースの記事化率は9割を超える。 ・鳥根県三郷町の「みさと暮らし5.0研究会」の委員、「みさと暮らし編集ラボ」講師。 ・福岡県八女市の八女商工会議所の観光振興事業のアドバイザー。滞在型観光の重要性を説き、2020年4月に築100年以上の古民家ホテルNIPPONIA HOTEL八女福島商家町の開業につなげた。 ・九州の観光振興には九州としての広報活動が不可欠と考え、九州広報センターを提案。九州観光推進機構の石原会長が賛成し、2016年6月に同機構内に九州観光広報センターが設立され、副センター長兼海外担当に就任。 ・熊本地震後の海外風評被害対策事業One Kyushu Project(経産省事業)を支えた。 ・経産省九州経済産業局知的財産室主催の九州ブランド総選挙(2017年)や九州地域ブランドコンペティション(2018年)で審査委員長。地域団体商標の活用状況・課題の調査・分析及び支援モデルの実証事業検討会(2019年)で委員長。 ・福岡県の農山村と都市の絆づくり事業では、2013年～うきは市、2014年～八女市星野村のアドバイザー。
若松 進一	わかまつ しんいち	人間牧場	<p>双海町役場に在職中、瀬戸内海に沈む夕日に着目し、日本で一番海に近いJR下灘駅で開催した夕やけプラットホームコンサートが話題を呼び、夕日をテーマにした数々のまちづくりを行なった。海辺の海岸を埋め立ててシーサイド公園を整備した。450mの人工砂浜、特産品センター、夕日のミュージアム等には、年間55万人の観光客が年間を通じて訪れている。</p> <p>第三セクターを設立して運営しているが開業以来黒字経営をしている。</p> <p>海岸国道を「夕やけこやけライン」と名付け、町のキャッチフレーズも「しずむ夕日が立ちどまる町」として積極的にまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>海岸国道沿いには水仙や菜の花が咲くなど地域ぐるみで花咲くまちづくりを展開している。</p> <p>JR予讃線にこの夏「伊予灘ものがたり」という観光列車が走る予定である。</p> <p>まちづくりを推進する「まちづくり学校双海人」も活動している。</p> <p>年間100日以上全国各地へ出向き講演や指導に当たっている。</p>
渡邊 法子	わたなべ のりこ	アイ・エス・ケー合同会社	<p>地域特性を活かしたまちづくり(地域資源の再発掘・活用)</p> <p>地域の人材発掘、育成地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業</p> <p>着地型観光事業(基盤の整備構築)</p> <p>ローカルエリアプロモーションビジネスの事業化</p> <p>インバウンド(訪日)観光事業</p>
渡邊 賢一	わたなべ けんいち	株式会社 XPJP／一般社団法人元気ジャパン	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府/石垣市 インバウンド事業「アイランダーサミット石垣」総合プロデューサー ・文部科学省 スポーツ庁 武道ツーリズム映像発信事業 総合プロデューサー ・愛媛県 愛媛県デジタルマーケティング事業「Experience Ehime, Japan」 総合プロデューサー ・福島県 ダイヤモンドルート情報発信事業 総合プロデューサー ・栃木県 訪日ブランディング事業「The Grace of Japan, TOCHIGI」 総合プロデューサー ・九州観光推進機構 公式ブランディング事業 総合プロデューサー ・北海道観光推進機構 デジタルマーケティング事業 総合プロデューサー ・関西観光本部 インバウンド情報発信事業 総合プロデューサー ・東武鉄道 地域情報発信「TOBU Creators Experience」、「TOBU NOASOBI Experience」 総合プロデューサー ・伊勢神宮 公式映像 総合プロデューサー